
幼なじみが関羽さん

愛紗Love

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼なじみが関羽さん

【Nコード】

N2682M

【作者名】

愛紗Love

【あらすじ】

真・恋姫＋無双の世界に転生した主人公だが幼なじみに関羽がいたりする

主人公「俺・・・いつか一人旅をするんだ」

関羽「なら私も行こう」

主人公「・・・・・・・・一人旅」

反董卓連合編突入です

プロローグ（前書き）

真・恋姫†無双をプレイしたら書きたくなりました

プロローグ

実は俺死んじやいました

何でも神様ちゃんの間違って俺を死なせちゃったらしいです、でもいいんです！誰にだってミスはあるんだから！！

神様「それでは転生する世界を決めてください」

そう！何たって俺を転生させてくれるんだぜ

しかも能力も一つだけだけどもらえるらしい

俺「やっぱりここは真・恋姫＋無双でお願いします！！」

神様「わかりましたので能力何にします？」

ヤベーよおい、おk出されちゃった

俺「ならスヴェンのヴィジョンアイで」

神様「わかりました・・・それではそのドアを開いたら転生します頑張って来てくださいね」

俺「よし！いざゆかん恋姫＋無双の世界え！！」

「話呼ばれてないけどジャジャジャッジャーン（前書き）」

荒川アンダーザブリッジの二ノサンの台詞を使わせてもらいました

一話呼ばれてないけどジャジャジャッジャーン

ども！主人公の郭銀元^{かくぎんげん}です真名は空^{そら}って事になりました

何だか真名があると恋姫の世界に來たんだなって気がします、ちなみに転生してから早6年が立ちました

思えば辛かったあれ程までに廁の存在が恋しくなったのは初めてだ自分の足で廁に行けるってすばらしい！

あと今家族二人（母さんは俺が生まれたと同時に死んだらしい）で引越しをしていますなぜなら今までいた村が賊に襲われて無くなっ
てしまったからだ

まあとにかく今引越ししてます

父さん「空もうすぐ村につくぞ」

空「っん！わかった」

村

空「前の村よりちょっとだけ大きいな」

父さん「そうだな、とりあえず私達の家はこの村の少し奥の方向だからいくぞ」

空「わかったよ父さん」

我が家

父さん「着いたぞ」

空「へーここが新しい家か・・・にしちゃちょっとボロボロだな」

父さん「今の時代に家があるだけマシだろ文句を言っな」

空「そうだね」

父さん「それに向かいの家の方がボロボロだろうが」

父さんが指差した方向に家より少しボロボロの家があった・・・
一応空き家ではないらしい

空「父さんたいして交わんないよそして指差さない」

父さん「うちの家のほうが綺麗だもん！」

子供かよっーか大の大人がだもんとか言っよ気持ち悪い

空「わかったから家に荷物入れよ」

父さん「さっさと片付けて家の見栄えをよくするぞ！」

空「まず中をよくしてこうね」

翌朝

空「ふあゝあ」

昨日は結局あのまま家の掃除して寝ちゃったから村をまだ見てない
し父さんも起きる気配はないし

空「ちよつと村でも見てくるか」

「

しかしこの世界の人達の朝は早いからもう店を出してる所が所々にある

店主「じゃあ嬢ちゃん重たいけどこれを運んでくれるかい？」

??「はい！村の入口の店までだろまかせろ」

店主らしき人と黒髪の綺麗な子供が話していた・・・？何だか黒髪の
の単語で何か引っ掛かるものが・

??「ふう！！ぐ~~~~~~~~つたあハアハアハアハア」

何だかさっきの子供が荷物を運んでいるが予想以上に重いのかなかなか前に進めないでい

空「・・・見ちゃったしほっとけないよな」

??「ぐ~~~~~~~~って・・・っあ！軽くなった何で？」

そう言つと少女が後ろを振り向く

空「こんにちは、何だか重そうだから手伝つよ」

??「なっ！だめですそんなの悪いですし」

空「でも一人で運んでたらお昼過ぎちゃうよ？」

??「う！しかし・・・」

空「まあ言いから！人の好意は受け取るもんだよ」

??「それでは・・・お願いします」

そして荷物を全て運び終わって店主に報告しに行った

店主「ほゝ驚いたあの重さだから昼くらいまでに出来ればと思ってたけどよし！！給金を少し色を付けさせてもらつよ」

??「あっありがとうございました！！」

店主から給金を貰つて俺の所に来た

??「先程はホントに助かった、礼と言う訳で受け取ってくれ」

そう言つと貰つた給金の半分を渡そうとした

空「いやいやいや！ちよつと待って！別にいらないよ」

??「しかしそれでは……」

空「それに別にお礼が欲しくてやった訳じゃないしそれとも君はお礼が欲しいから人を助けるの？」

??「!!!!!!」

空「違うでしょ？だから強いて言えば俺の自己満足に付き合つてくれてありがとう」「ニコッ

??「そつそんなお礼を言われることなど!!!!!!」

空「あつ！そうだったそれじゃ俺用事があるから」

そつ言つて自分の家に向かった

自宅

そこには生ゴミもとい腹を空かせた父さんがいた

父さん「今父さんを生ゴミと思つただろ？」

空「まさか」 棒読み

父さん「まあいいや早くご飯を作ってくれ」

空「たまには自分でやれよ」

父さん「そっこの苦手だからと聞こえたけど無視

空「あ！そっこの名前聞くの忘れてた」

2話原作キャラにであつたよ(前書き)

女の子の正体があきらかになってだいたいの人は分かつてるか

2話原作キャラにであつたよ

昼食後

俺は朝の女の子の事を考えていた

空「何であの子あんな事をしてるんだろ見たところ同い年みたいだし・・・いやでもこの時代だし不思議ではないのか・・・とりあえずもう一度話して見るか」

俺は女の子を捜す事に

とりあえずさっきの店に行ってみることに

空「店主ちよつといいかな？」

店主「なんだい坊主？」

空「さっき手伝つてた女の子何処にいるか知らない？」

店主「あの嬢ちゃんかあの嬢ちゃん畑の所で誰かの仕事でもしてるんじゃないのかな？」

空「畑ですか、わかりました」

そついつて店を出ようとしたとき

店主「ちよつと！まちな」

空「はい？何か」

店主「出来ればいいからあの子と仲良くなってくれないか？」

空「・・・はい、もともとそのつもりですから」

俺はその店をあとに畑え向かった

畑

おばさん「お嬢ちゃんその所も頼むよ」

??「ああわかつている」

そこには朝の女の子が畑仕事をしていた

空「んゝ邪魔しちゃ悪いし待つか」

2時間後

おばさん「それじゃ明日も頼むよ」

??「はい、また明日」

空「大変だね朝に荷物運び昼に畑仕事」

??「!? あつ貴方は朝のあの、朝は大変お世話に」

空「だからあれはいいって言ったでしょそれよりさ君の名前教えてくれないかな俺は性は郭、名は銀、字は元よろしくね」

「？？」そういえばまだでしたね性は関、名は羽、字は雲長ですこちらこそよろしくお願いします」

空「えっ！？ええええええええええ！！！！？」

そうだよ！この黒髪この顔で何で気付かないんだよまさか6歳で原作キャラに会うなんて

関羽「あの……いけなかったでしょうか？」

そして少し困った顔で俺を見てきた
やめて！そんな可愛い顔で俺を見つめないで！！

空「いや、何でもないよそれより何でいろんな所で仕事してるの大変じゃない？」

関羽「確かに大変ではありますけど生活がかかってますから」

空「あの……親は？」

関羽「昔に賊に全員」

空「その、ごめ「謝らないでください」……」

関羽「いいんです、家族の仇はいつか打つつもりですが今の私には夢があるんです」

空「夢って?」

関羽「この乱戦を終わらせる事です!そしたら私みたいな人が少しでも減るでしょ?」

ホントに凄いなこの子は

空「ねえ?その夢ってさ俺も参加しちゃ駄目かな?」

関羽「えっ!?!いいのですか?こんな夢物語のようなこと」

空「なに?じゃあ冗談だったの?」

関羽「そんな訳ありません!」

空「なら、俺も一緒に居ちゃダメかな?」

関羽「・・・わかりました、ならこれからよろしくお願いします
まず私の真名は愛紗です」

空「これからよろしく俺の真名は空だよ愛紗」

愛紗「はい、空」

空「そうだ、愛紗もう遅いし送るよ」

愛紗「え!?!いついゃ!いいですよ!迷惑ですし!」

空「迷惑じゃないよそれにもう真名を交換した仲じゃないか」

愛紗「いや確かにそうですが」

空「まあまあまあまあまあ」

愛紗「6回！じゃなくて！ってあ~~~~」

俺は愛紗を引きずって愛紗の家があるであろう所に行った

空「・・・・・・・・・・」

愛紗「・・そつその、こつ此处が私の家です／＼／」

真っ赤な顔でそう紹介された家はその自宅より少しボロい向かいの家だった

愛紗「その・・・ボロボロでしょう」

ハハッつと言つて少しだけ涙目だった

空「（・・・・やばい、変な事言ったら泣かれそうだ・・・・・・真っ先に泣いた愛紗も見たいと思った俺はもう人間として駄目だと思う）」

空「そんな事ないよって言うか俺の家この家の向かいなんだよ」

愛紗「そうなんですか」

よしっ！話をそらせた

空「そうなんだよこの家くらいボロツボロツでさってっは！」
横を見るとあきらかに目に涙をためた愛紗が

愛紗「そつスズツそうですかヒックこの家くらいボロ・・・ボロ・・・で・・・」

多分これ以上喋ったら泣くと思ってかそれ以上は喋らなくなった

空「あゝその・・・今からご飯作るけど食べる？」

愛紗「・・・はい」

自宅

父さん「しっかし引越して翌日に彼女を連れてくるとは」

愛紗「かつ彼女ですか／＼／」

空「父さんそれ以上喋るならご飯あげないよ」

父さん「・・・・・・・・・・」

愛紗「・・・・・・・・息子に負けないで下さいよ」

家に呼んだはいいが父さんがいる事を忘れてた

空「ほらご飯できたぞ」

愛紗「すごいですね」

空「まあ昔から作ってきたからね」

父さん「……………」

空「だからまあ普通の人より自信はあるよ」

愛紗「（チラッ）そっそれでこんなに」

父さん「……………」

空「まあとりあえず食べよ」

愛紗「（チラッ）あのそれよりお父様を許してあげれば」

父さん「……………（うるうる）」

空「……………やっぱりキモいからやだ」

父さん「!!!？」

ガン

orz

空「それで愛紗どうかな味」

愛紗「すっごく美味しいですそろそろお店の味にも飽きてしまいましたから」

そつえば原作で料理がダメだったみたいだから店を利用するしかないのか

空「そうなんだ」

父さん「ガツガツガツガツ」

愛紗「・・・お父様凄い勢いで食べてますね」

空「いつもは喋りかけてくるからこんなのじゃないけど喋れないから」

空、愛紗「「ごちそうさまでした」」

父さん「・・・フハハハハ、もうご飯は食べたもう空に物質にできる物はないこれで心起きなく関羽ちゃんに質問が「愛紗家まで送るよ」・・・父さん悲しい」

愛紗「しかしあんなにも楽しい食事は久しぶりだった」

空「なら今度から毎日でも家に着なよ」

愛紗「その・・・迷惑じゃないか？」

空「父さんの事見ただろ毎日あんな感じだからさ迷惑なんてなれるしそれに比べれば愛紗の事なんか迷惑じゃないよ」

愛紗「そうかならお願いしようかな？」

空「ああそれじゃおやすみなさい」

愛紗「！！・・・何だか久しぶりだな、おやすみなさい何て・・・おやすみなさい」

そう言つと俺は家に帰つた

空「ただいまって何してんの？」

見ると地面で涙を流しながら泣いていた父さんがいた

父さん「空の俺にたいする態度がいつもと変わらない〜〜〜〜！！」

空「・・・変わってないんだ」

それだけ言つと父さんをほつといて寝た

3話 シュンシュン（前書き）

最初の方は見てて気持ち悪い気分になるかもしれませんが

よろしくお願いします

3話 シュンシュン

翌朝何かシュンシュンと鳴る音で目が覚めた

空「んだよ朝からシュンシュンと・・・まっまさか！」

side父さん

父さん「んゝなんだもう朝か、ん？うわっ布団の中少し汚れてる多分引越しの時にでもついたのか・・・は！やばいこれは父さんは何もしてないが父さんが攻められると言うフラグが！！・・・フラグってなんだ？まあいいとにかく隠さねば」

するとドアが開き息子が顔を俯かせながら入ってきた

父さん「（やばい！とにかく布団を押さえて）」

父さん「な・・・なんだ空、急にびっビックリするじゃないか」

どうしよう声が振るえてしまった！！

空「その・・・ごめん」

なっなんだ今日の空は弱きじゃないか

空「あのさ、とりあえずこれ使っていいからもう捨てる予定だから」

そういつて布を渡してきた・・・何故に布？

空「ホントはティッシュがあればいいんだけど、それと母さん死んで溜まってるんなら早く他の人探して結婚しなよそしたら言ってくれれば俺愛紗の家にでも行ってるから・・・その一人でやりすぎるのは体に毒だからさ」

え？何？ティッシュってそれと溜まってるって何が？・・・はっ！！そういうことかお前はもうこの汚れに気付いてたんだな

そして結婚っていう意味は一人で洗うのは大変だから早く結婚して一緒に洗ってもらえてことかそうか空お前はそんなにも俺の事を心配して、でもな空

父さん「空、俺はまだ母さんの事が忘れられないんだ」

空「そう・・・でもホントに毒だから」

父さん「確かに毒かも知れないでも父さんもう少し一人でがんばりたいんだ」

空「っな！！／／／そっそう言う事を息子の前で言っくなよじゃあな」

（バンッ

なんだ急に出て行って？あゝそうかさてはさっきの父さんの台詞に感動したんだな今度何か美味しいもんでも食いに行くか二人で

side 空

まさか父さんがオ○ニーかこの音は！！
やだな父さんがそれしてる時に起きちゃったよマジで最悪だ、とり
あえず何か布でも持つてってやらないと

キー
（ドアを開ける音）

父さん「な・・・なんだ空急にびっぴくりするじゃないか」

急に父さんが布団を押さえた

空「（ヤベーよまさに最中じゃねーか声振るえてるし）その・・・
ごめん」

そうだ布団汚されたらやばいし

空「あのさ、とりあえずこれ使っていいからどうせ捨てる予定だつ
たし」

布より布団大事

空「ホントはティッシュがあればいいんだけど、それと母さん死ん
で溜まってるんなら早く他の人探して結婚しなよそしたら言ってく
れれば俺愛紗の家に行けるから・・・その一人でやりすぎるの
は体に毒だからさ」

正直まだそっちのほうの心のダメージ少ないしせいぜい下は女の子
がいいなと思うだけだし

父さん「空、俺はまだ母さんの事が忘れられないんだ」

いいから忘れろー！ー！！どんなにいい人が知らないけどさ！そろそろいいだろお前の頭の中の母さんもきつと疲れてるから！！

空「そう・・・でもホントに毒だから」

だめだこれ以外の言葉が見つからない

父さん「確かに毒かも知れないでも父さんもう少し一人でがんばりたいんだ」

空「っな！！／／／そう言う事を息子の前で言うなよじゃあな」

何この馬鹿はカミングアウトしてんだよ！！そんなにオ○ニーがい 아니라結婚すんじゃないよ！！おかげで変な事聞いちゃっただろうが！！

空「駄目だ朝から変なの見たから気持ち悪い愛紗でも見てリフレッシューしよ」

愛紗宅

空「おじゃましますって居ないどころだろ？」

すると愛紗の家の裏から音がした

空「裏にいるのか？」

愛紗「はっ！やっ！たあ！！」

そこには木刀を振っている愛紗がいた・・・っかこの音だったのかシンシンって

空「早いのに頑張ってるな」

愛紗「あつ空、まあ私達の目標はこの乱戦を終わらせるのが目標だから一日でも早く強くなってお母さんの使っていた青龍偃月刀を使えるようになっていたいんだ、だがまあまだ重くてちゃんと振り回せないんだけどな」

空「それはしかたないよ、まだ俺達は小さいんだから地道にがんばる」

愛紗「そうだなところで空は何か武術はやってないのか？」

空「・・・ん？」

・・・あれ？俺今まで何してた？父さんのご飯を作ったり父さんを貶したりヴィジョンアイで・・・そうだ確かヴィジョンアイで確か・・・確か・・・魚が来るポイントに釣り餌をなげ込んだりしたっけ

いやゝあれ便利だったよ魚が来る所がわかるから簡単に取れるしあの頃の俺も「僕は釣り界の神になる」とか言ってたっけ、しまいには父さんに「釣りって面白wwwwww」って言われたしこのデスノートだよ

とにかく今までそれらしい事一つもしてないんだよね俺

空「特に何もしてないかな？」

愛紗「聞かないで下さい、はぐ仕方ありません今日にでも武器を見て見たらどうですか？」

初めて愛紗にため息をつかれました

空「うん、そうする」

武器が欲しいことを父さんに話したら好きな物を買ってきなさいと頭を撫でなれそうになったけどヴィジョンアイを使って全力で逃げたあなたの優しさがキモいです

武器屋

空「んゝ武器か、どうせならカックイーのがいいよなゝ」

例えば某矢兵の双剣とかシンフォニアのロイドの双剣とかって双剣しかないじゃん

空「双剣にしよう」

そうと決まれば

空「おっちゃん今から書く物どりの双剣を作ってくんない？」

とりあえず形から入るべく某矢兵の双剣を作ってもらうことにして

みた

おっちゃん「ほゝこれはおもしれえ待つてる明日には作ってる」

おっちゃんはかなり作業が早い事で有名とかないとか

空「とりあえず愛紗迎えに行つて帰るか」

愛紗を迎えに行き家に帰ると父さんが気持ち悪い笑顔でいた

父さん「お帰り二人とも」ニコッ（*^|^*）

空「・・・・・・・・」

愛紗「あっただいま、何かいい事があつたんですか？」

愛紗頼むから聞かないでくれ

父さん「んゝまあいい事はあつたよ朝に（チラッ、ニコッ）」

空「（ゾクゾク）・・・・」

頼むからこつちをむくなよ俺なにかしたか？

父さん「そうだ、みんなで美味しい物でも食べに行こう！」

愛紗「あの、私も行ってもいいのでしょうか？」

父さん「もちろん！」

なぜか二人でキャツキャツキャツやってる、でも冷静に見たら30歳過ぎてるおっさんと6歳くらいの少女と遊んでるのは何だか犯罪が現在進行中で起こってるみたいで不安になって来た

その後は三人で人気のラーメン屋に行き三人でラーメンを食べた。々々父さんが見てくるのは少し参ったがとりあえず美味しいのでみんなで

空・愛・父「「「ラーメンうまつ!」「」」

言っとかないとねこの台詞は

4話 人の死の意味・前編・（前書き）

テラシリアル・・・あつ間違えたテラシリアスです

ベタです中二病ですそれでもいいならどうぞ

4話 人の死の意味・前編・

干将・莫耶（の形に似せた物）が届いてから4ヶ月くらいすぎた

空「や！た！そら！はっ！！」

最近やっと自由に動かせるようになった

つっても30分くらい動ごくのが精一杯だけどね俺6歳だし

愛紗「・・・少しは様になったんじゃないか？」

言いながら愛紗が青龍偃月刀を持ってやってきた、ちなみに愛紗も最近やっと青龍偃月刀を持つ事が出来るようになったらしい

空「まだまだだよ今だって愛紗に勝てないし」

愛紗「まあ私はお前より一日の長だからな強いのは当然と言えば当然だな」

つと無い胸を張って言ったしかしこの今は無乳だか将来はバンイボインの美人になるとは思えないよな、まあ今のロリ愛紗も捨て難いが（ハアハアハア）

愛紗「おい、何だか・・・目が怖いぞ」

空「っは！いや違うんだ！！別にその無乳を見てた訳じゃ、ってあああ！！！！」

愛紗「……………」

愛紗が自分の胸を隠しながら俺をジト目で睨んできた

空「あついや、その……………ごめんなさい」

日本人の伝統宝刀の D O G E Z A

愛紗「……………」

あつ、分かってらっしゃらない

愛紗「……………とにかく鍛練を始めるぞ」

空「……………はい、仰せのままに」

side 愛紗

つたく、空の奴はホントにしょうがない奴だな最初の頃はその・
カッコイイと思ったが／＼でも今ではたまにヘタレだし意味のわ
からない言葉は使うし、今日は……………その・私のむっ胸を見てた
て言い出すし／／／

おばちゃん「お嬢ちゃん手が止まってるよ!」

愛紗「すまない少し考え事を」

ちなみにまだ仕事は続けてる確かに今はもう空の家に住んでいるみ
たいなものだがやはり少し悪い気がして仕事は続けてる

おばちゃん「そついや聞いたかい？最近この近所で賊が現れるって話？」

愛紗「っ！！？どこで、賊が出るんだ？」

今の私の声は恐ろしいくらいに声が低かった

おばちゃん「え！？ああ確か東の林辺りに出るとか」

愛紗「そうか、すまないが今日はここまでで終わりにさせてもらおう」

おばちゃん「・・・そうかい、じゃあまた明日」

私は返事もしないままその場を後にした

side 空

やばいホントにやばいまさかつそんな

皆さん大変です俺は大変な物を作ってしまったらしい、そう

ネコミミを・・・作ってしまった

実は愛紗と真名を交換した後にふと愛紗ってネコミミ似合うんじゃない？っと思つたのでひそかにネコミミを作っていたのだから中々にネコミミの耳部分ができないので時間が掛かったがついにその耳部分

も完成し今日にいたる

空「完璧だどこをどう見てもネコミミだ、早速愛紗に付けてもらわねば」

おばちゃん「銀君いるかい！」

なんだ急に

空「いま銀君は居留守を使っているのではありません」

すみませんおばちゃん今は誰よりも愛紗に会ってネコミミを装備して欲しいんですだからかまってる暇はないんです

おばちゃん「ふざけてる場合じゃないよお嬢ちゃんが」

空「ネコミミ！！っじゃなくて愛紗がどうしたって！！」

どうも欲望が口に出てしまったようだ

おばちゃん「ネコミミ！！じゃなくてお嬢ちゃんに賊の話をしたとたんにどこかに行っち待って！」

おばちゃんにネコミミが移っちったwww

空「んじゃなくて！賊ってどうゆうことだ！」

おばちゃん「東の林のところで賊がでるって話をしたらどこかに行っちまって」

空「まさか愛紗一人で！！おばちゃんありがとう！」

俺は家を飛び出した

愛紗宅

空「やっぱり偃月刀がない」

いつも青龍偃月刀がある場所に青龍偃月刀はなかった

空「くそっ！とにかく愛紗を探そう確か東の林だったか」

30分前

愛紗宅

愛紗「・・・お母さん、私は必ず賊を倒しますだから力を貸して下さい」

私はお母さんの形見の青龍偃月刀を持ち賊がいるであろう場所に向かった

東の林

商人「ひっひいゝ」

賊1「オッサン命が大事なら荷物を置いてうせな」

賊2「兄貴の言うとうりにしな」

賊3「そっそうなんだな」

愛紗「待て！！賊ども！」

賊1「ああゝん誰だ！！」

愛紗「わっ私は関雲きさまら賊はこの私が成敗してくれる！」

賊一味「・・・・・・・・クツハハハハハハハハ！！！」

愛紗「なつなにが可笑い！！」

賊「だってお前振るえてんじゃね〜か」

愛紗「そっそをなこと・・・は・・・」

よく自分を見たら手が振るえているのがわかった

ああそうか私は怖いのか・・・・怖い助けてくれ・・・・空

賊1「じゃあ覚悟、出来てるんだろうな？おいお前らはその商人をやってくれ」

賊2、3「へい！」

愛紗「うつ・・・・はっハアアア！」

とにかく一心不乱に偃月刀を振るった

賊1「なっ！クツクソガキがあー！！」

運よく賊の顔をカスツたがそれが賊の勘に触ったのか逆上して襲い掛かって来た

愛紗「な！・・・っが！！・・・うつ・・・そつ空あ・・・」

賊におもいつきり腹を蹴られて愛紗は気絶した

賊1「このクソガキが、おい！商人の荷物とこのガキをアジトに運べ」

賊2、3「へい」

side 空

空「ハアハアハアっハア確かこの辺りだと思うけど」

とりあえず回りを見渡して見たけど何も・・・？

空「あれは・・・人か？」

パンツ一丁のオッサンが目を回していた

空「（やだ、係わり合いになりたくないけど愛紗の情報も欲しいしでもパンツ一丁だし）」

空「（しかたない）オッサンちょっと起きてくれ！おい！オッサン！」

オッサン「へ？ああ！ごめんなさい！荷物ならあげますから！！暴力だけは、せつせめて顔じゃなくて体に！！」

そう言つてオッサンが体を突き出して来た

空「いや荷物もあんたの体にも興味ねーから」

オッサン「なら、まっまさか後ろですか！流石にその処女をあげる訳には！まだ前の童貞も卒業しないまま後ろに行ったら変な趣味に目覚めちゃうー！！」

空「後ろも欲しくねーよ！！そうじゃなくてここに俺と同年の子供来なかったか？」

オッサン「へ？あああの子が確か賊にやられ「嘘言っんじゃねえ！！！！あいつが賊に殺される訳ねえだろ！！！！」いっいやそうじゃなくて賊に気絶させられてたしかアジトに戻るとか」

空「そっそうか、どこにあるかわかるか？」

オッサン「確か私が気絶する前に見た時は南の方角に向かったとしたか」

空「ありがとぅ、それだけわかれば十分だそれじゃ気をつけて帰れよ」

とにかく早く愛紗を探さなきゃな

side 愛紗

愛紗「ん？ここは・・・どこだ？」

賊1「君の大っ嫌いな賊の隠れ家だよ」

愛紗「っ！！？・・・どうして私を此処に連れてきた！」

賊1「ホントはテメエー見たいなガキすぐにでも殺してやりたいがお前みたいなのでも金持ちの野郎達に高く売れるんでね今はその買い手を待ってるところだ」

愛紗「このゲスが！」

賊1「・・・・・・・・糞が！」

愛紗「がつ！・・・ハアハア」

賊に腹を蹴られた

賊1「生意気言ってるじゃねーぞガキお前は俺達に捕まったんだよ立場を考える」

愛紗「つく・・・」

自然と涙が出そうになった

賊1「お！お客さんが来た見たいだな、おい！テメエーら出迎えてやれ」

賊2、3「へい」

愛紗「（・・・もう会えないのか・・・空）」

賊1「旦那今日はよくお越しにあの、いつも隣にいる護衛の兵は？」

買い手「・・・・・・・・・・」

賊1「いや、すみません旦那込み入った話をして・・・あの？旦那？」

買い手「・・・・・・・・ゴフツ・・」

急にその買い手が血を吹き出し倒れたそしてその後ろには私が待ち望んでた人が

??「お前ら・・・覚悟は出来てるんだろうな・・・人の大事な幼なじみに手を出したんだただですむと思うなよ」

愛紗「・・・空」

空「・・・愛紗は帰してもらっぞ」

side 空

空「ハアハアハアハア今日は走ってばかりだなまあとにかく見つかったし中に入るか」

全力疾走で此処までくるのはかなり辛いな

空「・・・ん？何か後ろから何か聞こえる」

買い手「しっかし今日の商品はなかなかの上玉らしいからな」

護衛「そうですか主」

空「何の話だ？」

買い手「何でも今日のはかなり幼いとか」

護衛「しかも情報では黒髪が綺麗とか」

空「！！？・・・・・・」

俺はその二人の前に立った

買い手「なっ何だお前は！」

空「ただの幼なじみだコノヤロー」

護衛「主離れて、貴様！この方を誰だと思っっているこの近くの街の太守の従兄弟だぞ！手を出してみろただではすまないぞ！！」

空「俺だってそんな事したくないけどさ・・・でもさお前が今から買おうとしてる奴はな、俺の大事な人なんだよ！！」

そう言って俺は護衛に突っ込んだ

護衛「ふっ！」

しかし簡単にかわされてしまった

護衛「お前人を殺すのは初めてか？迷ってるんだろ俺を殺すことを」

空「・・・・・・・・」

迷ってないと言えは嘘だホントは怖いしちょっと吐きそうでもな

護衛「なら俺からいくぜ！！」

でもそれ以上に愛紗のことが心配でたまらない一秒でも早く会いたくてどうしようもないんだよ！！

ヴィジョンアイ！

護衛「があ！！ど・・・・・・・・どうして・・・」

次の瞬間、護衛のお腹に俺の双剣が刺さっていた

空「ごめん・・・俺はまだ死ねないんだ」

そのまま護衛は倒れた

買い手「そ・・・そんな・・・」

護衛の主と思われる人を少し睨みつけた

買い手「ひい！わっわかったもう賊とも縁ん切るその子もいらない・・・だから許してくれ」

空「・・・ホントとか？」

買い手「ああ・・・なっ何なら今まで買ってきた娘達をお前にやるよ」

空「・・・」

買い手「今は興味が無いかも知れないが身の回りの世話くらいなら出来るぞ」

空「・・・」

買い手「そうだお前、俺の護衛にならないか？そしたら毎日美味しい飯を食わせてやる、そして一緒に天下を取ろうお前とならいける気がする・・・る？・・・」

俺は最後まで話を聞かないでそいつを刺した

空「俺はしねえよ」

護衛の奴を殺した時は罪悪感を感じたけどこいつだけは何も感じなかった

空「うつ！ゲホッゲホッ気持ち悪い・・・愛紗を助けないと・・・で

もどつやっつて中に入るか・・・こいつでも使うか」

俺は買い手を使う事にした

空「（クソツ死体を動かすのってかなり難しいな）」

とりあえず買い手が歩いてるように見えるように運んでるけど

空「（そろそろ限界「糞が！」ん？・・・つな！）」

そこにはヒモで身動きの取れない愛紗を賊が蹴っていた

賊1「生意気言っつてんじゃねーぞガキお前は俺達に捕まっただよ立場を考えろ」

愛紗「つく・・・」

賊1「お！お客さんが来た見たいだな、おい！テメエーら出迎えてやれ」

賊2、3「へい」

賊1「旦那今日はよくお越しにあの、いつも隣にいる護衛の兵は？」

買い手「・・・・・・・・」

賊1「いや、すみません旦那込み入った話をして・・・あの？旦那？」

買い手「・・・ゴフッ・・・」

まだ息があつたのか？いや、それより今は

空「お前ら・・・覚悟は出来てるんだろうな？・・・人の大事な幼なじみに手を出したんだ、ただですむと思うなよ」

愛紗「・・・空」

・・・遅れてごめん

空「・・・愛紗は帰してもらっぞ」

そう言つて俺は双剣を構えた

4話 人の死の意味・前編・（後書き）

延ばしてすんまそん

5話 人の死の意味・後編・（前書き）

べ〜タ〜！！です

5話 人の死の意味・後編・

空「・・・愛紗は帰してもらうぞ」

賊1「何だ？ テメエは」

空「その子の幼なじみだよ」

賊1「じゃあその幼なじみが何大事な買い手を殺してくれたんだよこれじゃこのガキを売れねえじゃねえか」

空「売らせないために殺したんだよ」

賊1「つち！ おい！ 野郎ども、やれ」

賊「へい」

クソッどうするさつきヴィジョンアイを使ったからかなり体力が減ってるから流石にこの2人は辛いぞ

空「（つく！ せめて愛紗の縄がなかったら・・・一か八かで突っ込んで愛紗の縄を切るか）」

賊2「怨むなよ？ お前が悪いんだ買い手を殺すから」

賊3「そっそうなんだな」

空「うるさいよチンピラと裸の大將が、早くこいよ」

賊2「チンピラ？何言ってるかわかんねえけど死んじまえ」

空「（引き付けて・・・引き付けて・・・ヴィジョンアイ!）」

俺は二人の動きをヴィジョンアイで先読みし愛紗の所に向かった

賊2「つな！外した!？」

空「愛紗今縄を切るから」

ブチッ

愛紗「・・・その、すまない」

空「いいよ後で説教するから」

愛紗「うっ！お手柔らかに頼む」

空「愛紗早速で悪いけどこれ」

そう言つて自分の双剣の片方を渡した

愛紗「ああわかった・・・」

空「・・・恐い？」

愛紗「・・・恐い・・・情けないよな？乱戦を終わらせる何て言つと
きながら」

空「・・・別に可笑しくないよ、俺もさっき人を殺した、ホントに

恐いし今だって出来ることなら逃げたいヘタレだし」

愛紗「なら、どうして」

空「・・・愛紗を、守りたいからっかな？」

うは！くっさ俺！こういったことは一刀君だけで十分だったのww

ww

愛紗「／／／／／そっそうか」

あれ何フラグ立った？

・・・ないな、だって前世オタクだぜ？ヘタレだぜ？・・・あれ？悲しくなってきた

愛紗「少し元気が出たありがとう」

空「うん・・・それじゃ賊退治に行きますか！」

賊1「へっ！勝てると思ってるのか？数で見ればこっちが3人そっちが2人しかも子供、どっちが優勢だろうな？」

賊達が一斉に笑いだした

空「・・・そんなのな～愛紗」

愛紗「・・・ええそうですね」

空・愛「俺（私）達だろ？」

賊1「・・・テメエヲやつちまえ!!」

空「リアル三下台詞!」

賊2「さつきからわからない言葉ばかり言いやがって!!」

切り掛かって来た奴の剣を愛紗が防ぎ俺がそいつの腹を切った

空「もう優勢じゃないね?」

賊1「おっおい、お前も行けよ」

賊3「まっまだ死にたくないんだな」

賊1「なっなあ見逃してくれねえか?」

空「うん!それ無理(朝倉風)」

賊達「「ギヤアアア!」!」

その後は賊達の腰が引けて一方的に倒して終わった

・・・ちなみにネタを言った後に本気でどこかの宇宙人が介入してくるんじゃないかとちょっとだけ心配になった

「おえ!ハアハアハア」

愛紗

空「愛紗、大丈夫か?」

愛紗「ああ大丈夫だそれよりなんでお前は平気なんだ?」

空「？ただ愛紗にカッコ悪いとこ見られただけですけど何か？」

愛紗「・・・・・・アハハハハハ！」

空「何！？急に笑い出して？」

愛紗「ハハハ、いや別にさあ帰ろっか」

空「まあいいけど・・・・・・つか最終回ぼくね」

まだ終わりませんよby作者

帰りには愛紗と二人でCMソング歌いながら帰りました博多の塩とか金のつぶとか

村

村に帰ると愛紗と接点があるであろう人達が出迎えてくれたという
か村の半分以上の人が愛紗を待っていた

おばちゃん「大丈夫だったかい？怪我とかないかい？」

愛紗「心配しすぎだ、私は怪我一つないそれに私には叶えなければ
ならない夢があるからな、そうだろ空」

空「あっああ」

愛紗「私達の冒険は始まったばかりだ!!」

そう言つて夕日に向かって走りだしそうなのを全力で止めて家に帰った

ホントに最終回じゃないからね!!

自宅

父さん「ぐあゝぐあゝ」

家に帰ると父さんがイビキをかいて寝てました

空「・・・・・・・・（ブチッ）」

息子が頑張つてるのに寝てるのが腹が立ったから目の上に唐辛子を練った物を目に塗り塗りしといた

空「愛紗、うるさくなるから父さんを部屋に入れる手伝して」

愛紗「っえ？ああ」

俺達が部屋に父さんを放り投げ部屋を出たと同時に父さんの悲鳴が聞こえたが無視

空「愛紗今日のご飯「痛つてゝ!!何だ目が痛い、いやちがつ目が辛い!!」どうする疲れたから体力になる物にする？」

愛紗「そうだな確かに今日は「辛い!辛いよ!目が!!こんな初

めて!!!」疲れたからそれがいいな」

空「そうかじゃあ酢豚でも」っあ!やばいちょっと気持ちよく……
ってなるか!!!」作るうか」

愛紗「どうせ私は食べるだけだから文句は」っていうか目が辛いつ
てどう言うことだ?目も味覚を感じられるという事は目でめ食べら
れるんじゃない!」ない」

空「なら酢豚にする」空!!ご飯を作ってくれ!!」今から作るか
ら少し黙ってる!!」はい!!」ふうくじゃあ作るか」

愛紗「慣れてる自分がやだ」

その日の晩御飯は父さんの二つしかない目が目でご飯を食べようと
する父さんによって危険になった

愛紗「あの……空?」

空「何?いま食器洗ってるんだけど」

愛紗「その……一緒に寝ないか?」

ビィシャン!

皿が割れた

空「……………誘って」違う!!／／／」ならなんで?」

愛紗「その・・・今日の事が夢に出そうで・・・怖いんだ、だから・・・駄目か？／／／」

そんな可愛い顔で照れながら言って来られたらおｋに決まってるじゃないですか！！

空「じゃあ寝よか？」

夜

空「そっそれじゃロウソク消すな？／／」

愛紗「あっああ／／／」

今布団で二人で寝てます

空「（なんだこの嬉し恥ずかしのイベントは！！愛紗はどうしてるんだ？）」

愛紗のほうを見てみると

愛紗「すう／／すう／／」

空「（ねっ寝てらっしゃる！！この状態で寝てらっしゃるだ！！・・・せっせめて手を繋ぎたい！！）」
変態

空「そお／／とそお／／と・・・って何か愛紗寝言ってないか？」

よおしく耳をすませて聞くと

愛紗「金の玉つぶそ」

よく聞き慣れた歌を恐怖の歌に変えられた瞬間だった

もちろん俺はこのあと何もせず黙って自分の金の玉を守ってたよ

朝

愛紗「っん・んっは朝か・・・って何してるんだ？空？」

空「・・・愛紗」

愛紗「なんだ？」

空「・・・歌はちゃんと唄おうね、そうじゃないと知らない犠牲を払う事になるから」

愛紗「ん？」

その日はただただ愛紗が恐かった

6話 幽霊（前書き）

真・恋姫十無双萌将伝買おうか迷ってる

6話 幽霊

金の玉事件（3話と4話）から半年たった時の話をしよう

空「幽霊が近くで出た!？」

金の玉事件から半年立った今、俺と愛紗は賊の情報があると片っ端から潰して来たそして今回の情報が

愛紗「ああ何でも隣町の村で幽霊がでるって話らしい」

幽霊かなんか果てしなく胡散臭いな・・・つか待て

空「愛紗は幽霊とか大丈夫なの？」

愛紗「そんな者居るわけないだろ？」

あつれ〜？愛紗って幽霊駄目じゃなかったけ？原作では苦手ってたけど

空「まあとりあえず行ってみるか」

隣町

空「じゃあ情報収集しようか」

愛紗「ああ私は右に行こう」

空「……………行っただか」

しかし何故だ！？何で愛紗お化け平気なんだよ！畜生！いつかお化けネタで愛紗を怖がらせて

愛紗（妄想）「いや〜ん！こ〜わ〜い」（泣）「

怖がる愛紗

空「ハハハハ！大丈夫だよ、俺が居るじゃないか！！」

助ける俺

愛紗「（キウ〜ン）何？この胸の高鳴りは？」

ときめく愛紗

空「愛紗」

愛紗「空」

そして結ばれる二人！！

空「最高じゃないか……………フハハハハハハハハハハ！！！」

途中でシッポリムフフな事を想像した

子供「ママ、変な人がいるよ」

ママ「こら！見ちゃいけません！」

いつのまにかギャラリーが集まってきた

空「え〜と・・・ハハ、別に見て楽しい物じゃありませんよー！」
つと少しギャラリーに近づこうとしたら一斉にギャラリーが散らばった

空「・・・・・・・・いや〜ん、こ〜わ〜い・・・・・・・・」(泣)

自分がホントにキライになった

Side 愛紗

愛紗「なんだ空の居た方向が騒かしい」

後、自分の身の危険を感じた気が

愛紗「・・・まあ情報収集するか」

愛紗「すまない少し話を聞かせてくれないか？」

一般人「なにを話せばいいのかな？」

愛紗「最近此处で幽霊が現れると聞いたのだが詳しく教えてくれないか？」

一般「それなら俺も知ってるから教えやるよ、たしか洛陽から来た商人の話しでなその商人は早く村に行きたかったから普段は使わない南の森を通ったんだそしたらそこには、女の子がいて何故かその女の子はずぶ濡れでジツとこっち見てくるんだそれで商人が、恐くなってきて逃げようとしたときに幽霊がこっちを見て笑いながら「実は私その滝で落ちたんです」と言って川の奥にある滝を指したんだ」

愛紗「そ・・・それで？」

一般「どう見てもその滝から落ちたら速死って高さだったんだ、それでホントにやばいと思った商人が荷物を置いて逃げたって話だ」

愛紗「・・・そっそうかじゃあ私はこれで」

そう言って私は早く集合地点の茶屋に向かう事にした

べつ別に幽霊の話が怖くて早く空に会いたい訳ではなく、あっあくまで情報が手に入ったから会いに行くだけだ！

茶屋

空「・・・愛紗・・・遅いな」

それはもう、さっきの事でやる気がなくなつてとりあえず茶屋に逃げ込んだはいいけど周りの目が痛いさつきから「道の真ん中で笑つてた子だよね」的な声が聞こえるのでとにかくつらい

愛紗「ハアハアハア、空もっもういたのか」

空「・・・愛紗、何でそんな息切れしてんの？」

愛紗「いついや、べつ別になんでもナイヨ」

めっちゃ動揺してるじゃん最後片言だし

空「まあそれはいいとして何か情報あつた？」

愛紗「っ！・・・あっああ有ったぞ確か南の森に出るそうだ・・・」

喋りながら顔が青くなつてきた・・・何？これってまさか

空「愛紗まさか幽霊恐くなつた？」

愛紗「っな！！そっそんな訳ないだろ！！訂正しろ！！」

そう言つて青龍偃月刀を俺に向かって振つてきた

空「ぬおおお！！愛紗ごめん！わかつた、わかつたから武器を降ろしてえええ！！」

愛紗「わっわかればいいんだ」

これは冗談言えないな．．．．待つヨロシ俺、今なら当初の計画うまくいくんじゃないかね

空「．．．．（ニヤリッ）．．じゃあ愛紗、今日の夜に南の森に行こうか」

愛紗「えっ！？あっああ行こう！そうだ行ってやろうじゃないか！
」

よし！フハハハ、今日こそ愛紗にフラグを立てる時だよワトソン君
！！

夜 in 南の森

案の定愛紗が手を握ってきます

泣きそうです今まで生きてきて1番良かった事はなんですか？って聞かれたら即答で愛紗のデレです！！と答えられそうだ．．．．でもね

愛紗「そつ空そつちは大丈夫か？」

空「おっおう！だだっ大丈夫だ」

．．．俺も．．．苦手なんだよ．．．．お化け

愛紗「というかお前は大丈夫じゃないのか！」

空「いつ俺がお化け得意と言った！」

愛紗「男だろ！男気を見せろ！！」

空「なら愛紗もそろそろ手を離してもいいんじゃないか！」

愛紗「そつそれはお前が恐いだろうと握ってやってるんだ感謝こそすれ迷惑に思われるスジはない！！」

お互い怖くて些細なことでケンカし始めた

ガサガサ

空・愛「っ！？！？！？」

愛紗「いつ今動いたよな？」

空「えっえ？なっ何？俺何も見てないからわかんない」

愛紗「頼むから現実を見てくれ！！」

ガサガサガサ！！

空「ちっ近づいてきてる~~~~~！！！」

愛紗「何とかしてくれ・・・（涙目）」

ガサガサ！！！！

空・愛「いやあああああ！！！！」

愛紗「・・・キュウ・・・」

あつ愛紗が気絶した

空「とつとにかく・・・逃げる！！！」

そう言つて愛紗を背負つた時に

??「まつ待つてください！！」

空「待てと言われて待てるかああああ！！！」

そして走りだし・・・（ガシッ！）

足掴まれた

空「・・・・・・・・」

もうわけがわからなくなりフリーズ

??「あつあのホントに待つて下さい」

空「・・・・・・・・（フリーズ中）」

??「あのおゝ聞いてます？」

空「・・・・・・・・（フリーズ中）」

??「あつ足を離せばいいのか」

パッ

空「・・・（フリーズ中）・・・ってあれ？俺はなにを」

??「あの・・・話を聞いて貰えますか？」

空「えっああまあいいよ」

愛紗を降ろして

空「っで？」

??「はい？」

空「いや、はい？じゃなくて話聞いて欲しいんですよ」

??「あっそうだった！えっととりあえず自己紹介ね？私劉備字は玄徳だよ！」

空「・・・・・・・・・・」

劉備「・・・あの、足は掴んでないけど？」

空「（何で劉備がここに！？確か原作でも劉備はまだ愛紗と会うには早いんじゃない！もうオラワクワクすっぞ！（最後意味不明）」

劉備「名前教えてもらっていいかな？」

空「そうだね俺は郭銀・字が元　よろしく、所で何で劉備はこんな所にいるんだ？」

劉備「私ね？川で遊んでたんだ、でも足を滑らしちゃって少し川を流された後その滝に落ちて、それで此処に来ちゃって帰り道がわからないから仕方なくこの森で生活してたんだ」

空「よく今まで生きてこれたな」

劉備「うん！なんだか親切な商人さんが荷物をくれてそれで生活してたんだ」

くれたんじゃありません貴方が恐くて置いていったんです

空「は、俺は何に怖がつてたんだろ・・・家どこらへん？」

劉備「……え？どいつて？」

空「いや、帰り道わからないんでしょ言ってくれば家まで送るよ」

劉備「……ふうっ！ふうええええええええ！」

空「ええええええええ！！何故泣く！？」

劉備「ぐすつ・その、今まの人は私を見ただけでみんな逃げちゃうから何もお話出来なくて」

それはみんなが貴方をお化けと勘違いしてたからで実際俺達も逃げ
そうだったし

劉備「だから……うれしくて……やっとお家に帰れると思ったたら」

空「・・・つらかったね、じゃあお家に帰ろうか？」

劉備「うん！」

その後劉備の家を聞いて家まで劉備を送くり家族との感動の再会をした

劉備「あの・・・ホントにありがとう！銀君が居なかったら私あのままずつと森に住んでたと思うだから感謝の印しに真名をもらって欲しい！」

空「劉備がいいなら遠慮なく」

劉備「私の真名は桃香だよ」

空「俺の真名は空だよ」

桃香「あと・・・これも御礼ね／＼／＼」

そう言つて俺の頬つぺたにキスをした

空「・・・・・・・・・・」

桃香「じゃ・・・じゃあね！今度遊びに来てね！」

そつ言つと自分の家に入つていった

空「・・・・・・・・・・とりあえずあれだ・・・・・・・・うれすいゝい」

人はうれし過ぎるとリアクションが薄くなるらしい

自宅前

どうしよ嬉しさのあまり朝までリンボーダンスしてたら愛紗の事思
い出して森に行ったけどいなくてしかたなく自宅前にいる

空「（帰つてるといいんだけど・・・愛紗）」

ガチャ

空「ただいま」

シーーン

空「・・・いないかまあとりあえず寝るかさすがに朝までリン
ボーダンスはきつい」

ガチャ

愛紗「すうゝすうゝ」

空「・・・そうきましたか」

愛紗が俺の寢床で寝てますた

愛紗「うつ・・・うつゝん・・・って空!」

ガバツと勢いよく布団を剥ぎ俺に抱き着いてきた

空「（何だ！今日俺のモテ期か！桃香にチツスされるは愛紗に抱き着かれるはで……ありがとうございます！！！！）」

愛紗「ぐすつ……心配したんだそ！？お前が幽霊に、殺されたと思つて……」

空「……その……ごめん」

本気半分下心半分で愛紗を抱きしめた

愛紗「……ん？クンクン………空？」

空「何？愛紗、俺はもう愛紗を悲しませたりさせないよ」

愛紗「ああそれはたしかにそうしてもらうが……お前から別の女の匂いがするのだが？」

とつさに愛紗を抱きしめてた手を離すと愛紗が信じられない位の力で抱きしめられた

空「あっあの、その……さっき女の子に出会って家まで送ったんだ」

嘘は言っていない！

愛紗「………特に頼つぺたから何か匂うのだが？」

ギリギリッ

空「痛い、万力機に締め付けられてるみたいに痛いよ！」

愛紗「・・・速く答える・・・」

ギリギリッ

空「はっ・・・はい・・・別れ際にキスされました」

愛紗「私にわかる言葉で」

空「せつ接吻です」

愛紗「・・・・・・・・・・・・・・・・死ね」

空「いたたたたたた！（ボキッ！！）・・・・・・・・」

その日俺の肉片が俺の部屋に散らばった

7話 どうでも（前書き）

短いです

7話 どこでも

この町に引越して早6年もの時間がすぎた

そんなに時間を飛ばすなって？仕方ないじゃないか！愛紗と父さんだけでは限界があるんだよ！by 作者

どうも空です、みなさん覚えているでしょうか？・・・・ネコミミを

あの事件以来ネコミミを出す機会がなかなかなく部屋の物置に置きっぱなしだったネコミミを最近思い出し今度こそ愛紗に装備してもらおうと頑張るお話です！！

空「しかし最近愛紗もロリボディーから卒業して原作に近い体になってきて・・・・たまらんとです！！」

あつもちろん俺も大きくなったよ・・・・あつ興味ないか

空「さあゝて愛紗はどこにいるのかな」

家を出ようとした時に

パンツ！！

愛紗「空！！隠れる！！」

空「・・・・・・なんでさ？」

とりあえずエミ○ヤの台詞を言ってみたり

愛紗「いや、なんでも近くの太守がお前を探しているらしいんだ！」

何？なんで俺？俺なにかした覚えはないんですけ・・・ど・・・
あれ？俺確かやばい事したような

回想

護衛「主離れて、貴様！この方を誰だと思っているこの近くの街の
太守の従兄弟だそ！手を出してみろただではすまないぞ！」

空「俺だってそんな事したくないけどさ・・・でもさ、お前が今か
ら買おうとしてる奴はな、俺の大事な人なんだよ！」

回想終了

・・・ヤッベーーーー！！！！何してんだよ俺！
！なにカッコつけてんだよおお！！

空「あつ愛紗・・・おつ俺、太守の従兄弟殺しちゃった」

ガクガクブルブル

愛紗「なっ！何でそんなことしたんだ！！！」

愛紗が掴み掛かってきた

空「いやっね？愛紗昔賊に捕まっじゃん？それで愛紗を買おうとしてた奴が太守の従兄弟だったみたいで・・・」

愛紗「そっそうだったのか・・・とつとにかく今は隠れる」

されるがままに寢床の下に隠れる事にした

S i d e 愛紗

・・・空は私のせいで太守に追われてるんだ私が何とかしたいと！

兵「貴様ら！此処に太守の従兄弟を殺した奴が居るのはわかってるんだ！！隠し立てするなら容赦はしないぞ！！」

太守の兵達がみんなに話を聞いて回っている

兵「おい！貴様は何か知らないのか！？」

店主「ひい！なっなにも知りません」

兵「お前は！」

おばちゃん「しっ知りません」

どうすればいいんだ

兵「おい！お前も何も知らないのか！？」

愛紗「・・・ああ何もしらない」

今の私にはこれぐらいしか言えない

1時間後

兵達が町 みんなに話を聞いた後に最後兵の一人がみんなに

兵「そうだ、太守の従兄弟を殺した奴は双剣を使ってたそうだ、それふまえて明日またくる今度は家の中まで調べるからな」

そう言つて町を出ていった、それと同時に町 みんなの視線が空の家に集まった

店主「・・・嬢ちゃん・・・どういう事が説明してくれないか」

私は町 みんなに事情を説明した・・・

S i d e 空

寝床に隠れて1時間俺は・・・一人しりとりをしてる

空「水樹奈々・・・な・・・な・・・夏だ！海だ！俺だ！・・・だ・・・

だ．．」

一人しりとりは基本なんでもありだ

愛紗「．．．．．空．．出てきていいぞ」

空「だ．．だ．．大好きって言葉じゃ軽すぎる愛してるじゃ曖昧すぎるだから、ありがとう「H2Oより」あれ？ちょっと違うような？まあいいや．．．．．今でるよ」

空「．．．．．？．．どうした？」

愛紗「．．．．．今、町のみんなでお前の事を話あって決めたんだ．．．．．」

愛紗「．．．．．空．．．．．お前は町から出ていけ」

空「わかった」

愛紗「．．．．．それだけか？もつと何か言う事は」

空「いや、俺が悪いんだし迷惑かけたくないからまあせめて父さんに挨拶してから行くよ」

愛紗「そうか．．．私はとりあえず家に帰るよ」

空「うん、じゃ」

愛紗は俺の部屋を出でいった

空「……………父さん、そろそろ出てきたら」

……………

空「……………（あれ？）……………父さん、そろそろ出てきたら」

……………

空「……………あの、ホントに出てきてくれない」

父さん「……………いや、ね？父さん出られないんだよね」

声が聞こえる方を見るとダンスとダンスの間に挟まった父さんがいた

空「……………そんな空気じゃないだろ（怒）」

父さん「父さんだって最初に呼ばれた時に出て行きたかったよ？力ツコよく出て行きたかったよ？でもね……………出れないんだよ（泣）」

空「……………頼むから消えてくれ（怒）」

父さん「……………（泣）」

空「・・・・・・・・・・行ってきます」

父さん「・・・・・・・・・・いつてらっしゃい」

そう言つて町をでた

空「これからどこ行こうかな？・・・そついや愛紗に何も言わないで来たけど大丈夫かな」

愛紗「大丈夫だ私も一緒に行くから」

空「そうか・・・・・・・・」

愛紗「ああ・・・・・・・・」

空「・・・・・・・・・・いやいや待てよ俺、そしてお前も待て」

愛紗「何で待たないといけないんだ？早く行かないと兵達が町にきてしまうぞ？」

空「いや、何でついて来る？」

愛紗「・・・・・・・・お前が心配だから？／＼」

空「・・・・・・・・・・」

なんも言えねえ

空「あのさ、責任感じてるんなら来なくていいから」

愛紗「たしかにそれもある、でも1番にただお前一緒に居たいんだ」

空「・・・何処か行きたい所ある？」

愛紗「どこでも」

7話 どこでも（後書き）

やっと町をでました

8話 鳳統・・・って次は普通張飛じゃね？（前書き）

タイトルどおり張飛じゃなくて鳳統です

8話 鳳統・・・って次は普通張飛じゃね？

町を出て1週間がたった

空「あつ・・・愛紗・・・腹減った」

愛紗「・・・・・・・・・・」

空「愛紗あゝ腹「わかってます」でも」

愛紗「仕方ないでしょう・・・町がどこにあるかなんてわからないんですから」

そう、町を出たはいいいけど何処に次の町があるとかかわからないままとりあえず歩いてるだけなのだ

空「でも普通何か食べ物とか持って来てもいいんじゃない？」

愛紗「私は料理できませんから」

空「ああ・・・・・・・・・・」

愛紗「・・・・・・・・・・」

お互いお腹が減って喋るのも辛くなってきた

空「・・・・・・・・・・メルト溶けてしまいそおゝおゝ好きだなあゝんて「うるさい!!」・・・・・・・・・・」

愛紗「・・・・・・・・・・」

空「…………やばい 止まらない 止まらない 昼に夜に朝に「黙れそして腐れ」…………(グスツ)」

愛紗「…………ん？空あれ町じゃないか？」

空「え！マジ！どこ！？…………あつ！あつた！愛紗いぐそー！」

愛紗「はい！」

空「待ってるよおお！GO！GO！GO！GO！オロナミンC
！！」

愛紗「まだ引つ張りますか」

町2

昼食中

昼食終了

いや別に書のがめんどくさいわけじゃないですよb y作者

空「いやゝ食ったね」

愛紗「ああ食べた」

空「…………お金どうする？」

昼食に路銀すべて使ってしまった

愛紗「とにかく働きましょう」

空「そうだな・・・その店なんかどう？」

愛紗「そうですね」

結果から言おう・・・俺だけ面接落ちた

回想

店主「そこのお嬢ちゃんはいいいけど君は何かしそうだから駄目だ」

回想終了

何かしそうって何だよ！！隣で愛紗も「ああ」とか言い出すし！俺が何した！！

空「とにかく仕事さがそ」

つと道を曲がろうとしたら人にぶつかった

空「（フラグか！）じゃなくて大丈夫？」

??「あうゝだっ大丈夫です」

あれ？どこかで聞いた事あるボイス

空「ごめんね？考え事しててさ」

??「あわわ！ほつホントに大丈夫です．．あの．．これで」

そう言つてトテトテと足を鳴らしながらさつて行つた

空「あわわ？．．．ないないそんな訳無いって愛紗と桃香に会つたら次は張飛つて決まつてるだろ？それに帽子なかったし．．．あわわつて」

そんな疑問を持ちながら仕事を探す事にした

6件めをやつと採用してもらえたしかも断つわられた5件の理由も「何かやりそう」だって．．．俺そんな信用ないかな？

店員「サボつてないで仕事しろ！」

空「あつういつす！」

あつちなみに飲食店だよ

バリッン！！

空「なんだ？厨房で誰かが皿でも割つたか？」

店員「どうせまた〴〵あの子〴〵だろ」

空「あの子つて誰ですか？」

店員「なんでもこの店の店主の子で親切の親切の親切の子供らしい」

空「もはや他人じゃないですか」

店員「ああだから店主もあまりよく思っていないらしいんだ」

空「ふう〜ん」

宿

仕事が終わったあとに愛紗と合流して宿にいる

愛紗「いやあくまさかお前、だけ、落ちるなんてな」

その言葉に悪意を感じるのは俺だけだろうか

空「愛紗、俺ことキライでしょ!？」

愛紗「いや別に」

空「・・・ハア〜しかし以外にこれが旅始まって初めての宿なんだな」

愛紗「そついえばそうだな」

空「今までずっと野宿だったからな」

愛紗「しかし以外だったなお前が私が寝てる時にイタズラしなかったのは家にいる時は墨でヒゲを書いたりしてたのに」

空「それは・・・毎回愛紗が寝言で替え歌を唄うから自分の息子を守るのに必死だからね」

愛紗「・・・？私は寝言を言ってるのか？」

空「無意識で人の未来をつむごうとしてるのか！」（なんの事かわからない人は4話の最後を見てねby作者）

朝

空「んゝさすがに今日は歌わなかったな、それじゃあゝ・・・離リンでも探すか」

そつ、昨日一晩中考えた結果昨日の曲がり角でぶつかったのは離リンだと言っ事にした

空「まあ確かに帽子被ってなかったけど、とにかく探すか」

それに昨日はフラグ踏んでたし曲がり角でぶつかるなんてフラグの王道だし

曲がり角

空「とりあえずもう一回来てみました！」

もう一度曲がり角にきて曲がったところでまた離リンフラゲゲット
！と考えてみた

空「今回はフラグを確かな物にするべくパンはないけど肉まんをく
わえて行きたいと思います！では、いざ！！」

そして曲がった

ドンッ

空「（やったフラゲゲット！）」

チンピラ「おい！兄ちゃん肩折れたやないか」

・・・

空「チンピラフラグかよ！」

とりあえずボコツときました

店員「銀、お前なんでそんなに疲れてんの？」

空「いや、フラグって大変だなんて」

店員「は？」

実はあの後ベタなフラグを全部やったけど全部空振りだった、おま
けに最後に死亡フラグの

俺、この戦争が終わったら結婚するんだ

使用方法：

自分が結婚する予定であり尚且つ戦争に行く時友人（または家族）に使う

をやっちまってホントに死にかけた

空「はあどこにいるんだよ」

バリッ！！

空「またか・・・ちょっと様子見てみるか」

店主「お前は何回言はせれば気がすむんだ！！」

??「あうゝごめっヒックごめんなさい」

店主「つたく！人手が足りないからお前を引き取ったけどこれじゃ邪魔なだけだよ！」

??「あうゝ・・・ヒック」

空「（バイトは見た！じゃなくてあれは雛リンじゃあ〜りませんか！）」

なんで雛リンがあんなに怒られなきゃいけないんだよ！

可愛いは正義ってどっかの偉い人言ってたでしょ！！

店主「もういい！外で火を見とけ！」

??「・・・・はい」

外

??「ヒック・・グスッ」

ハアハアハアハア可愛いいいよおお泣いてる雛リン可愛い
いよおお

だが！今こんな感じで雛リンの前に出てみる絶対に引かれる！そう、
なるべく紳士に！

空「どうして泣いてるの？」

??「ふえ！ってあわわ！！あの・・・鼻血が」

空「え?・・・・っな!!」

やばい！いつの間にか鼻血が！どうしようこのままじゃ紳士は紳士
でも変態という名の紳士じゃないか!!

空「気にしないで？ホントに大丈夫だからそれより自己紹介しようか、俺は郭銀、字は元だよ」

??「はひ！わたつ私は鳳統、字は士元です」

知ってます、だから声をかけたんですよ

空「鳳統ちゃんは何で泣いてるのかな？」

ある程度の事情はわかってるけど聞いとかないとね

鳳統「あの・・・私のお父さんとお母さんが・・・死んじゃって・・・ヒッグ・・・親戚に引き取ってもらったけど私・・・掃除とか上手く出来なくてそれで私・・・たらい回しにされ・・・て」

不謹慎だけど・・・・・・お持ち帰りしたい！！

何この可愛い生物！！俺この子になら殺されてもいい

空「そうか・・・大変だったね」　とりあえず紳士的に振る舞う

鳳統「グスッ・・・（コクリ）」

空「（やっべ！キュン死する）・・・そうだ！鳳統ちゃん今から暇？」

鳳統「へ？・・・ええ」と確かまだ仕事があったと思います」

空「（軽く拒否られた！？でもめげない！）じゃあ全部終わるまで待ってるから終わったら声かけて？俺も此処で仕事してるから」

鳳統「はっ・・・はい」

それから2時間くらいたった

鳳統「あっあの終わりました」

空「よし！じゃあ行こっか」

鳳統「あの・・・どこに？」

空「ん？帽子屋」

帽子屋

やってきました帽子屋！いやね？やっぱり鳳統「魔女っ子帽子って方程式があるのに帽子がないって！だから買いに来ました」

鳳統「あの？何か買うんですか？」

空「うん！君の帽子をね」

鳳統「え！？あの私その・・・お金ないですよ？」

もうやだ、一々可愛いよこの子

空「大丈夫俺がだすよ俺のせいで辛い過去を思い出させちゃったし」

鳳統「でっでも」

空「あつあれなんかいいんじゃない？」

鳳統「え？あつまっ待ってください」

その後は30分くらい帽子を見て回って目当ての魔女っ子帽子を購入した

鳳統「ホントにいいんですか？帽子買ってもらって？」

空「うん、てか鳳統ちゃんのためにあるような帽子だから鳳統ちゃんが被らなくて誰が被るんだよ」

鳳統「あの・・・今日はありがとうございました、それじゃ私はこれで」

そしてトテトテと帰っていった

空「ホントに可愛い・・・・・・・・愛紗にはない魅力だね」

愛紗「確かにあの子は、可愛い、ですね」

空「・・・・・・・・」

愛紗「・・・・・・・・」

ダッ！！ 愛紗から逃げる音

ガシッ！！！！ 愛紗が空の頭を掴んだ音

ぷら〜ん 愛紗に持ち上げられた音

空「愛紗さん・・・はっ話合いましたようジツクリと」

愛紗「私はこのままお前の頭を粉碎してもいいと思ってるんだが？
ザツクリと」

空「あのですね多分誤解があると思うんですよ俺は」

愛紗「別にないだろ？お前が私達！の路銀を使って女の子の気を引こうとしたんだろ？」

空「ちっ違います！」

愛紗「・・・・・・・・」

ギリギリ

空「いたたたたた！なんで聞こえなかったかな！？」

愛紗「お前と何年いると思うんだ、嘘くらいわかる？」

空「微妙なんだ」

愛紗「・・・・・・・・天誅！！」

8話 鳳統・…って次は普通張飛じゃね？（後書き）

ただたんに雛リンが好きなだけです!!

9話 デレ？（前書き）

愛紗のデレが書きたかっただけなので見なくてもいいですよ

9話 デレ？

愛紗「・・・・・・・・・・」

空「あつ愛紗あゝ・・・・・・・・・・生理？」

ドクッ！バキッ！！

空「ふみまへん・・・・」

駄目だ今の愛紗に冗談が通じない

どうやらさつき（8話）の事をまだ怒ってるらしい

まあ確かに雛リンの気を引こうとしてない！・・・・とは否定できないのが事実だし実際に下心あったしね！

空「・・・・そうだ！愛紗！お前に贈り物があったんだ！」

愛紗「！！！！！！！！！！」

顔だけこつちを向けてきた

空「じゃあっさ！ちょっと鏡の前に座って目を閉じて」

愛紗「・・・・・・・・・・ギュッ」

ゆっくりだけどこつちに向かってきて鏡の前にある椅子に座って目を閉じた

待たせたな

空「…………目…………開けていいよ」

愛紗「ギユウウ…………は？」

俺の…………ネコミミー！

愛紗「こっこれはなんなんだ？（怒）」

空「それさ俺が作ったネコミミ…………愛紗マジ可愛い」

ホントにすっごい似合ってるやっぱ黒髪にクロミミだからよけい可愛い

愛紗「そっそうか／＼／＼って待て私！おかしくないか私とあの子の差が」

空「どこが？」

二人とも似合ってんじゃない

愛紗「いや…………あの子はちゃんとした帽子なのに私のは人前にでたら恥ずかしいことになるじゃないか！」

空「ええ〜可愛いじゃん！ついでに『にゃん』って言うて」

愛紗「にゃ…………にゃん／＼／＼てだから待て私！そのだから私もちゃんとした物…………が欲しいんだ」

空「何いゝ愛紗まさかあの女の子に嫉妬してんの？」

ニヤニヤしながら言ってみた

ジャキツ！

空「あっあの？無言で武器を構えないでください」

愛紗「ハアアアアア！！」

空「待って！話せばわかつ（ブシャアアア！！）ギャアアアアア！！」

その日はそれ以上話してくれなかった

朝

ガバツ

空「・・・・・・朝だ」

隣を見るが愛紗は居なかった

空「起こしてくれてもいいのに・・・」

ちよつと虐めすぎたかな？

空「考えてもなんともならないし・・・・仕事いくか」

お店

空「おはっす！」

シーン

あれ？此処でも俺を無視ですか・・・泣きたい

店主「本気なんだな？」

なんだ？奥から店主の音が・・・つかなんで本気なんだな、だよ俺挨拶したただけだろ？もう一回言っか

空「おはっす！！」

店主「わかった」

あっわかってもらえたようだ

店主「水鏡女学院に送ればいいんだな」

なんでえええ！！え？何？俺何か間違えた？挨拶したただけだよね！
？でもとりあえず謝らなければ！！

空「店主殿！なんでかわからないですが！女学院に送るのはやめてください！せめて童貞を卒業してから息子とお別れをしたいです！一回も使わないでお別れして女学院にいくのは俺の息子が可哀相すぎるううう！！」

つと、ジャンピングDOGEZAをしながら奥に入ったら空気が重いなんのって

空「あれ？・・・空気読み間違えた？」

バキッ！ボキッ！ドカツ！！

空「ふみまへん、でひれば事情を説明ひていただけうと嬉しいのでふが？」

殴られすぎてうまく喋れない

事情を説明中

空「つまり鳳統ちゃんが水鏡女学院に行きたいから店主に相談してた所に俺が来たっつと」

ちゃんと喋れますよギャグでのケガは早く治るこれお約束ネ

店員「そうだよボケが」

空「・・・鳳統ちゃん、それで行ける事になったの？」

めんどくさいので店員の言葉を無視した

鳳統「はい……あの？郭銀さん」

空「あい？」

鳳統「その……わっ私の真にゃ！あう……真名を預かってほしいんです！」

空「いいの真にゃを預かって？」

鳳統「はい」

真にゃって言ったのにツッコまれなかった

空「俺の真名は空だよ」

鳳統「はい私の真名は雛里です」

空「わかったよ雛リン」

雛里「……リン？」

あつ！やべ！いつも頭の中で雛リンだったから普通に雛リンって言うっちゃた

空「ええ〜と何だかリンのほぅが可愛いかなあ〜と」

雛里「かつ可愛いですか／＼／／」

あれ？乗ってきた？

空「そつそつだよ可愛いよ雛リン！」

雛里「あっあわわ／＼／」

今日初めてのあわわ、いただきましたああ！！

その後は雛リンが店主の馬で水鏡女学院に送ってもらえることになり送ってもらった

ちなみに雛リンは馬で行きながら俺が見えなくなるまでずっと手を振っていた

．．．．．一瞬だけどその姿を見てたら本気でお持ち帰りしようと思った

宿への帰り道

空「バルサミコス〜ってあは．．．．．買って帰るか」

宿

空「ただいまああ．．．．．って居るなら返事してよ」

愛紗が布団に包まっていた

空「なあ愛紗朝のことまだ怒ってる？」

愛紗「．．．．．プイッ」

プイッってそんな可愛いことされたら………襲っちゃうぞ！

空「あ！そうだ！愛紗にお土産があっただった」

愛紗「……………ジーーーーー」

かなり疑ってらっしゃる

空「大丈夫！今回は自信あるからだから、ほら！椅子に座って」

鏡の前にある椅子を少し引いて座りやすくした

愛紗「……………」

一応来てくれたけど

空「愛紗……武器を降ろそうか」

青龍偃月刀も一緒に来た

愛紗「これはもし！空が朝みたいな物を渡して来た時に切り伏せるために持ってきただけだから気にするな」

まさかの俺の一生が掛かったプレゼントに

空「そつそれじゃ！目を閉じてください」

愛紗「……………ギュッ」

S i d e 愛紗

空が帰ってきてまた私に贈り物があると言ってきた

愛紗「（朝の事もあるし余り期待はできないってヒヤア！なんだ！急に私の髪をいじりだして）」

空が私の髪の毛をいじりだした

愛紗「（……………どっちにしろいい物じゃなさそうだな）」

自然と偃月刀に力をこめた

空「…………よし！愛紗目、開けていいよ」

言われるままに目を開けた

S i d e 空

空「…………よし！愛紗目、開けていいよ」

愛紗「ギユウウ…………え!？」

俺が贈った物は髪止めだった

空「いやああね？折角綺麗な黒髪なのに何もしないのは勿体ないなあ……と」

愛紗「ってまだ原作みたいにポニテじゃないからせつかく体が原作に近づいてきたから髪も原作に近づこうと

空「うん！やっぱり似合ってるよ、愛紗」

つと顔を覗こうとしたら

バキッ！！

・・・殴られました

空「痛いよ！！なんで？今回は自信あったのに！？」

愛紗「お前が悪いんだ！・・・お前がこっこんな・・・物を・・・贈るから」

何故か泣きそうだった

空「ああゝその嫌なら付けなくても「いや・・・じゃない」・・・さいですか」

愛紗「ああ・・・その・・・空・・・ありがとう／＼／」

空は思いました

空「（何だかいい感じじゃね？このまま行ったらあんな事やそんな事やパソコンパソコン出来るんじゃない？ね？）」

やっぱり空も男の子ですので

空「じゃああ何かお礼が欲しいなあ何て？」

愛紗「そっそうだな／＼ならお前も目を閉じろ」

空「……………（まっマジか！小説始まって9話でゴールですか！？いやそんなの知らない！今はこのイベントを楽しむだけさね！）…………ギョッ！」

愛紗「いっいくぞ／＼」

空「……………待てよ俺、こんなに簡単に普通行きますか？いいえいきません！？少なくとも俺の人生そうじゃなかった！何か裏があるはずだ！」

そう思いながら目を開けた瞬間に愛紗の顔がまじかにあった

空「…………マジで」

その後はご想像にお任せすると言っことで

最後に一言いうなら……………世界が優しく見えました

9話 デレ? (後書き)

アンケート

次に誰に会うかを皆さんで決め手ください感想のところに名前を書いてください

1番票が多かった人の所に行きます

同票の場合は僕の独断と偏見で決めさせていただきますからあしからず

ボツネタ（前書き）

15万PV突破しましたこれも皆様のおかげですありがとうございます！

今回の話は番外編です

ボツネタ

もしも〇〇が〇〇だったら偏

もしも愛紗がヤンデレだったら

愛紗「空」

空「なに？愛紗？」

愛紗「料理を作ったんだ食べてくれるよな？」

空「別にいいよ、少しは料理出来るようになったか？」

だけど運ばれてくる料理はもはや料理と呼べる代物じゃなかった

愛紗「ぶつちやけクソマズイです・・・でも空なら愛の力で何とかなるんじゃないかと」

空「・・・・・・・・」

待つて確かに愛紗の事は好きだよ・・・でもなる事とまらない事もあるわけで

愛紗「さあ！さあ！！さあ！！！！」

空「ちよっ！愛紗待っ「ガシッ！」あっいやな予感」

喋ってる最中に頭を掴まれた

愛紗「……………空がワルインダ……………ハヤクタベナイカラ」

そして俺の頭を料理に勢いよく突っ込んだ

グリグリ

愛紗「空？どうだ？美味いだろ？何たつて愛が籠った料理なんだカラナ……………アハハハハハハハハハ！！！！！！」

グリグリグリグリ！

もちろん俺は最初に料理に突っ込まれた時に気絶していた

もしも愛紗が妹だったら

愛紗「兄上、兄上！朝です起きて下さい」

空「あゝだるい、とにかくだるい、これはあれだな愛紗？俺を兄上じゃなくて『お兄ちゃん』または『にい』に『または『お兄さま』のどれかを言ってくれないと起きれない」

愛紗「まっまたですか／＼」

空「またです」

愛紗「うゝ……………おっお兄さま？／＼／」

空「そこで『お兄さま』を選ぶ愛紗萌ええええ!!」

我が家はいつもこんな感じだ

もしも愛紗がドMだったら

鍛練中

空「ハアアア!!」

愛紗「あんっ!」

今愛紗と木刀で勝負してるんだけど・・・

空「・・・愛紗・・・今は避けれるだろ?」

愛紗「だっだつてええ!最近空、私に冷たいんだろ?だからこうやって空からの攻撃を受け止めることで我慢してるんだ」

空「何を我慢してるんだよ!」

愛紗「おっ女の子の口からそんな卑猥な事・・・いや!でもそうゆう趣向だと思っ・・・た・・・らハアハアハアハア」

空「いや、もういい」

愛紗「うっハアハア・・・あん!だっ駄目だ空・・・ハアハアわっ私もう・・・限界・・・がハアハアハアノノ」

空「・・・・・・・・覚悟しろよ」

愛紗「あっああ！どんなことでも受け止めてやる！！」

空は少しSだった

もしも愛紗あらため空が雛里に最初に会った時にハアハアしながら出て行ったら

雛里「・・・・・・・・グスッ」

空「ハアハアハアハアハア・・・可愛いよおおーおっお持ち帰りしたい」

雛里「え？・・・ヒイ！！・・・あの・・・こっ来ないで・・・」

空「大丈夫だよ・・・痛いのは最初だけだから」

雛里「ヒッグ！エッグ！なっ・・・何がずがぁーヒッグ！」

空「さぁ！行こうね！」

雛里「ビエッビエエエエエエエエ！！！」

このあとスタッフで美味しくいただきました

嘘です、愛紗に半殺しにされました

もしも桃香が幼なじみだったら

桃香「空君くあくそくぼく」

空「たたくるくい」

桃香「ええく遊ぼうよお」

空「ああくわかったわかったじゃあ何する？」

桃香「ええつとねえく鬼ごっこ！」

空「・・・・・・二人で？」

桃香「うん！二人で」

外

空「じゃああ最初は俺が鬼で」

桃香「わあく逃げろ」

テテテテ

空「いいく、ある、さん、すうく、んじゃあ行くぞ」

桃香「わあ」

テッテッテッテ 桃香の足音

ダダダダダ！ 空の足音

空「・・・はい、捕まえた」

桃香「ううう空君速いよおじやあ次私ね？」

空「ああ」

ダダダダダ！

桃香「いいい、ある、さん、すうう、よし行くよ！」

テッテッテッテ

30分後

桃香「ヒッグ！エッグ！空君速すぎるよお」

あの後結局桃香が俺を捕まえることは出来なかった

だって桃香足遅いんだもん

空「だから二人でやるの？って聞いたじゃん」

絶対に桃香が俺を捕まえる事なんて出来るわけないじゃん

桃香「……………だって空君と二人で遊びたかったんだもん」

ああもう！可愛い！！

空「よし！桃香、お医者さんごっこをしよう！」

桃香「どうやるの？」

空「それを今から手取り足取り腰取り教えてあげるからね」

その後近くの大人に止められた

空「……………もう少しだったのに」

何が！！by作者

もしも蜀の王が桃香じゃなくて空だったら

空「やだ！やだ！やだ！もう政務やだ！！」

愛紗「しっかりしろ！空はこの国の王なんだぞ！」

空「その呼び名もおかしいよね？何で一刀だけご主人様なのに俺がそのまま空なの？なんなの？みんな俺より一刀のほうが王様になったほうがよかったかと思ってんの！！」

愛紗「ご主人様は天の御遣いですから」

空「んだよ！なら王様命令です俺をご主人様と呼びなさい！言わない奴はお尻ペンペンの刑にしよす俺直々に」

愛紗「単にお尻触りただけだろ！それと王様が我が儘言わない！」

空「お前魏の曹操見てみ？我が儘じゃん！ハーレムじゃん！百合じゃん！酒池肉林じゃん！」

愛紗「いいから仕事しろ！！」

もしも空が魏の将だつたら

華琳「空、貴方は警備隊長をしなさい」

空「働きたくないでござる！」

華琳「……………ああん（怒）」

空「冗談だよ冗談、ハハハハハハハ」

空「ええゝ今日から警備隊長になった空でえゝす」

真桜「なんや兄さんが隊長なったんか」

空「ホントはやりたくないけど」

沙和「なんだか楽しくなりそうなの」

凧「よろしく願いします隊長！」

空「っあ！そだ、みんな俺の事は隊長じゃなくて大佐と呼ぶように」

真桜「なんでやの？」

空「男はみんな大佐に憧れるもんなんだよ」

三人娘「「「・・・・・・・・・・」」」

空「何か言つてよ」

警備中

沙和「あゝ！！新しい服が出てるの！」

真桜「こつちも新しい物出とるやないか！」

凧「お前ら！警備中だぞ！真面目にやれ！！隊長からも言うてく
さいって隊長！どこですか！？」

ズズッ

空「はゝやっぱり日本人はお茶だよな」

真桜「あつ隊長ずるい！一人でお茶しとる！」

沙和「沙和も混ぜてえ」

凧「……………華琳様・隊長を隊長にしたのは間違いだと思います」

もしも空が呉の将だったら

明命「ああ〜お猫様〜モフモフです」

空「ああ〜髪型がモヒカンです」

祭「おい！空！一緒に飲まんか」

空「いただきます！」

やんや やんや

冥琳「はあ〜祭殿だけでも大変なのに空！お前まで私に説教させるつもりか？」

空「すみませんおっぱいさんにつあ！間違えた祭さんに誘われて断るのは至難の技なので」

祭「お主が儂をどう見取るかよ〜わかった」

雪蓮「ちよつと二人とも！何で私を呼ばないの！私もお酒のみたい」

祭「なら策殿も一緒に」

雪蓮「ホント！？じゃあ飲もつと空、お酒ついでえ」
空「了解です」

冥琳「お前ら黙れ！！」

ボツネタ（後書き）

アンケート受け付けてます

10話 呂布強し(前書き)

アンケートの結果呂布ちゃんに決まりました

アンケートに参加してくれた皆様ありがとうございました!!

10話 呂布強し

雛リンの町を出てから3日たとうとしていた

空「もう歩けないでござる」

限界が来ました

愛紗「情けないまだ3日しかたつてないじゃないか」

いやね？俺も町を出た時はさテンションMAXだったよ晴れて上の
ファーストキス
童貞を卒業して気分サイコーだったよ？

でも現代人に3日歩くのは辛いんだよしかも現世オタクだぞコノヤ
ロー

空「そうだ！馬を買おう」

愛紗「そんな金ある訳ないだろ？」

空「なら作ればいい」

愛紗「ん？どうやって？」

空「人形を作って売るんだよ」

愛紗「なんで人形？それに私はそんな物作れないぞ」

そう！何故人形かと言うとハッキリ言ってミッ〇ーが見たい！ただ

それだけなんだよ軽いホームシックなんだよ！

それにミ○キーなら売れるだろ？現代人に売るんだからこの世界の人に売れないわけない！何たって○ツキーなんだから！！

空「それと愛紗には始めから期待していません」

愛紗「っう！わっ私だってなんとか「無理ですそれも絶対に！」うゝゝゝ」

イジメられる愛紗萌えゝまあイジメてるの俺だけど

空「っお！町発見！さあゝてミツ○ーを売って売って売りまくるぞおゝ著作権が恐くて転生できるかああああ！！」

愛紗「お前ホントにやばくないか？」

町3

空「じゃあ愛紗は人形の材料買ってきて紙に書いてあるから」

愛紗「・・・わかった」

空「俺は宿探そつと」

宿

愛紗「買ってきたぞ」

空「ありがと……じゃあやるか」

空「……………」

愛紗「……………」

空「……………あつそこ違う」

愛紗「…ホントだ……………」

空「……………（じつ地味だなんだなああ）」

愛紗「……………イタツ……………」

地味過ぎるのでカット

合計で25個のミツキ〇ができた

空「んゝ流石にこれだけのミ〇キーがあるとなんだかモザイクが欲しくなるね」

主に著作権的な事で！

愛紗「モザイクが何なのかわからないが何だか私までいけない事してる気分になる」

空「俺達にモザイクがかからない事を祈るしかないね」

犯人的な意味で！！

空「まあ○ツキーは明日売ると言う事で」

朝

ガバツ！

空「朝だよおおおっつてあれ？愛紗はいずこに？」

昨日寝てたベットには愛紗が居なかった

空「ん？なんか書いてある」

ベットに紙が置いてあった

空「え〜と・・・私まだ・・・捕まりたくないって・・・俺も捕まりたくないよ」

まあ大丈夫だろ

市

とりあえずミ○キー並べて見ました！

空「・・・・・・誰も見ちゃいねえ」

何故だ！？俺の○ツキーの何処がいけないんだ！！

空「・・・・・・・・テツテテゝ テツテテゝ テツテテツテエゝ
(ミッ○ーマウスの歌唄ってみたい)」

??「・・・・・・・・・・」

空「・・・・・・・・・・」

何だろう？お客さん？らしき人がミツキ○と睨めっこしてる

空「・・・・・・・・えっと・・・・・・・・かつ可愛いでしょ？」

話す言葉がみつかんねえー！

??「・・・・・・・・・・(コクッ)」

なんだ？無口キャラだったのか？

空「一個くらいなら持ってっていいよ」

??「・・・・・・・・・・いいの？」

空「うん、それに何だか売れそうにないからさあ」

??「・・・・・・・・・・ここじゃだめ・・・・・・・・きて」

とりあえず着いていってみることにした

道

空「此処がどうしたの？」

??「・・・・・・ここなら・・・・・・売れると思う」

まあ確かにさっきの場所より人は多いけど

空「んゝまあどうせあそこで売ってても売れそうにないし」

試しに此処で売ってみる事にした

ワイワイ！ガヤガヤ！

よくわからないけどミッ〇ーがめっちゃ売れました

空「いやね？うれしいよ？ミッ〇ーが売れて」

でも不思議でしかたない・・・・・・まっいつか！全部売れたし！かなり儲かったからいつか！

空「あつそだ！君今から連れとご飯食ベに行くけど一緒に行く？御礼に奢るからさ」

??」「……（コクツコクツ）」「空」「じゃあ行こつよ」

宿

空「愛紗あゝご飯食べに行こ」

愛紗「早いなやはりあの人形はう・れ・な・……誰だそいつは」

愛紗は俺の隣にいる……ええとお

空「そう言えば名前聞いてなかった名前聞いていいかな？」

??」「……呂布」

空「呂布だつて」

愛紗「……もういい、ご飯食べに行くんだろ行くぞ」

何故か愛紗に呆れられながら店を探した

飲食店

愛紗「お金は大丈夫なのか？言つとくがあの人形でかなり使つてないぞ」

空「大丈夫！人形全部売れて今儲かってるから」

愛紗「あれ全部売れたのか！？」

空「そうこの子のおかげ「グイグイ」って何？」

呂布「・・・早く・・・ご飯食べたい」

空「あつ！ごめんじゃあ何食べる？」

そう言つてメニューを渡した

??「・・・・・・決まった」

空「はや！愛紗は？」

愛紗「じゃあ私は麻婆豆腐」

空「わかった、すみません！」

店員2「はい！ご注文はお決まりでしょうか！？」

何故かつねに笑顔の店員だった

空「俺ラーメン」

愛紗「私は麻婆豆腐を」

呂布「・・・ラーメンと麻婆豆腐と肉まんと餃子と天心飯と青椒肉絲とシューマイ」

空・愛「・・・・・・・・・・」

開いた口が塞がらない

店員「はい！ではご注文を繰り返します、ラーメンが二つ麻婆豆腐も二つ肉まんが一つ餃子が一つ天心飯が一つ青椒肉絲が一つシユウマイが一つ以上で？」

何でこの店員は驚いていない、そして何故まだ笑顔

そしてご飯がきたはいいけど

空「・・・・・・・・呂布・・ホントに全部食べられる？」

呂布「（コクツコクツ）」

机いっぱいご飯が並んでいた

愛紗「まっまあとにかく食べよう」

空・愛「いただきます」

呂布「・・・・・・・・いただきます」

呂布「あむ・・あむ・・モキュ」

なっなんだろ・・可愛い、この子が戦場でご飯を食べるだけで戦争

が終わると思う

空「（やばいずっと見てたい）」

隣の愛紗を見てみると

愛紗「はわわ」

某軍師の口癖を使っていた

空「しかし可愛いなあ」

呂布「あむ・・・あむ・・・あむ？・・・どうしたの？」

空「何が？」

呂布「ずっと見てた」

空「いや、美味しそうに食べてるなあゝて・・・あつ！ラーメン食べる？」

呂布「・・・・・・・・食べる」

そして俺のラーメンも『あむあむ』と食べた

愛紗「あつ！空あずるいぞ！呂布？私の麻婆豆腐も食べる」

呂布「・・・・・・・・食べる」

とにかく二人で呂布の『あむあむ』を堪能していた

呂布「……………」

呂布が料理にむかって「ごちそうさま」

空・愛・店員「「ごちそうさまでした!」「」

呂布にむかって「ごちそうさま……………」てか店員あんたも見てたのか

空「呂布はこれからどうするの?」

呂布「……………」

愛紗「なら送って行こう」

呂布「……………」

愛紗「そっそうか?なら気をつけて帰るんだぞ?」

呂布「……………」

なんだか愛紗が呂布のお母さんに見えてきた

空「それじゃ気をつけてな」

店員「お別れの最中申し訳ありません、会計を」

空「はい、はあい」

どうぞと言って渡された金額をみてゾツとした

空「ミ〇キーで稼いだお金の半分が飛んだな」

でもいいんですあの顔が見れたのだから！

空「……ちょっとまけてもらえませんか？」

店員「できかねます」

それでもやっぱり半分はきついです

空「……馬……買えないね」

愛紗「いいじゃないかあの顔が見ただけで」

空「……うん」

チンピラ「おい！嬢ちゃん痛いじゃないか」

ん？声がする方向をみると呂布がチンピラに絡まれてた

空「な！あのや「貴様あああ！！私の呂布に何をしている！！！」え？」

その声と共に愛紗が呂布の元に飛び出していった

てか、なんだよ私の呂布って親かお前は！もしくは彼氏

チンピ「こいつが俺にぶつかってきたんだよ」

子分「兄貴にぶつかつたんだ覚悟しとけよ」

愛紗「貴様らこそ覚悟しとけよ私の呂布に手をだしたんだからな」

呂布「……………待つて」

愛紗「なんだ？呂布？危ないから後ろに下がっておけ」

呂布「……………恋がやる」

愛紗「え？」

呂布が前に出てきた

チンピラ「なんだ嬢ちゃん俺にやられにきた「バキ！」がはっ！」

喋ってる途中のチンピラの顔を おもいつきり呂布が殴った

子分「あつ兄貴テメエ何しや「うるさい」っえ？グフツ！」

チンピラを殴った後に一言言つて子分の腹を蹴った

空・愛「……………え？」

「」

「……そういや呂布ってあの呂布じゃん！何故気付かない俺！
？あれ？昔にこんなこと言ったよっな！？」

呂布「……………帰る」

そう言つと呂布はさつていった

空「強いね……………呂布」

愛紗「ああ強すぎるくらいに」

愛紗も可哀相に、かつこよく出て行つたのに呂布一人で片付けられ
ちゃってさ

空「今日は帰ろ？いっぱい慰めてあげ「いらない」そっだ！いらな
いぞ俺！」

宿に帰つてすぐに寝た

10話 呂布強し（後書き）

ちよつと無理矢理な話でした

11話 義勇軍（前書き）

鈴々にく空達がく出会った（ウルルン風）

11話 義勇軍

おはようの人もこんばんはの人もとりあえずこんにちは、空です

今俺達は近くの義勇軍に居ます何故かって？どうも最近近くで賊が出るらしくてそいつらを倒すために義勇軍が編成されてるって情報があつたから愛紗と共にその義勇軍に参加する事になった

愛紗「なっなんだか緊張するな義勇軍に参加なんて初めてだから」

空「なっなに？あつ愛紗緊張してんの？おつ俺？緊張してねっねえよ」

愛紗「カミカミじゃないか」

義勇兵「静まれ！！今から大将によるこの義勇軍の活動方針を発表する！！」

そう義勇兵が言った後に後ろから少し太った男が出てきた

大将「えゝお前達には此処から少し行つた所にある賊の住家を倒してもらつ絶対に敗北は許されない！細かい指示は後で言つ以上！」

愛紗「こっこんな感じなのか？義勇軍と言う奴は？」

空「いや、違つだろ多分此処が特殊何だと思つ」

あの大將って奴からやる気が感じられない、つかアイツ肉まん手に持ってたし

空「まあ出陣まで時間あるみたいだし休もうか」

愛紗「そうだなじゃあ休むとしようにやにや！そんなの待てないのだ！早く出陣したいのだ！」何だ？誰が騒いでいるんだ？」

騒いでる方向を見ると小さい女の子が暴れていた

空「（あの武器って張飛の武器だよな・・・じゃああのちっこいのが張飛か・・・のだ」って言ってたし）」

張飛「早く暴れさせろなのだ！」

愛紗「はあゝしかたない私が止めてくる」

空「頑張って」

張飛「早く出陣させ！おい！お前！」にや？何なのだ？

愛紗「少し静かにしろ周りの人に迷惑だろ！」

張飛「だっだって早く暴れたいのだ！」

愛紗「それで周りの士気を下げたら意味ないだろ」

張飛「うゝ・・・ならお姉ちゃんが鈴々の相手をするのだ！」

そう言つと張飛は武器を構えた

愛紗「ふっ！いいだろう掛かってこい！」

愛紗も武器を構えた

空「……………ほっとこ」

そう！今の俺に出来る事なんて見守る事しか出来ないんだから下手に手を出さない

空「……………寝よ」

とにかく放置

S i d e 大将

大将「……………おい、あの暴れてる奴らを何とかしろ目障りだ」

義勇兵「はっはい……………ですが多分無理だと」

大将「なんで無理なんだ」

義勇兵「はい、多分あの二人の武はこの義勇軍1かと」

大将「ほお、つまり他の奴らじゃ齒が絶たないと」

義勇兵「もっ申し訳ありません！」

大将「別にいい……………アイツらが」

S i d e 空

チュンチュン

空「・・・あゝよく寝た」

小鳥の鳴き声で起きるのってこんなにも気持ちいい事なんだね

張飛「ハアアアアア！！！」

ガキッ！

愛紗「くっ！どうした！力が弱まってきたぞ！？もう降参か？」

張飛「にやにや！！そんな事ないのだ！」

・・・これさえ無ければ最高にいい朝なのに

空「・・・さすがに止めるか」

・・・止められるかな・・・俺（泣）・・・死んだりしないよね・俺（泣）

空「久しぶりの干将・莫耶（に似せた双剣）だし・・・大丈夫だよね・・・俺（泣）」

張・愛「ハアアアア！！！」

二人が武器を振り下ろした

ガキッン！！

空「ストップだ！此処での戦闘は危険すぎる！」

俺は二人の武器を受け止めた、そしてどこかのKYの言葉を言ってみた

愛紗「空！止めるな！！あと少しで決着がつくんだ！」

張飛「そうなのだ！関係ない奴は引っ込んでろなのだ！！」

美少女二人に非難されてちよつと心が傷ついたけど

空「いやね？もう朝だからさ、多分そろそろ指示もくると思うからおとなしくしてよ？」

愛紗「んゝしかたない空が言うならやめるか」

張飛「しかたないのだ、それよりお姉ちゃん強いのだ！鈴々とここまで出来る人初めて見たのだ！」

愛紗「ああ私も空以外でここまで接戦したのは初めてだ、そう言えば自己紹介がまだだったな私は関羽、字は雲長、真名は愛紗だお前になら呼ばれてもいい」

張飛「わかったのだ！鈴々の名前は張飛、字は翼徳、真名は鈴々なのだ！よろしく愛紗！」

空「じゃあ俺は名前は郭ぎ「静まれ!!」・・・ん・・・」

愛紗「始まるようだそ空」

空「うん・・・わかってるでも自己紹介の時に始まらなくても」

義勇兵「今から賊の住家に突入する、そこで部隊を四つに分けたいと思う1番隊は先鋒、あとの2番隊と3番隊もそれに続く後の4番隊は本陣つまり大将を守ってもらおう!」

愛紗「空、私達はどこに入る?」

鈴々「鈴々は1番隊がいいのだ!」

空「4番隊で」

愛紗「・・・・・・一応理由を言ってみろ」

空「あんまり戦わなくて済みそうだから」

愛紗「よし!鈴々!私達も1番隊に入るぞ!!」

空「待って愛紗!俺言ったよね!?4番隊がいいって!?!」

愛紗「じゃあ行くか」

ズルズル

空「待って引つ張らないで!延びちゃう!服が延びちゃうって!!」

1 番隊

愛紗「すまない私達も1番隊に」

義勇兵「ああ……っってお前昨日騒いでた奴らか」

愛紗「えっええまあ」

義勇兵「そうか……ならお前達二人は4番隊だ」

愛紗「なっ何故ですか」

義勇兵「とにかくお前ら二人は4番隊だ」

空「いいじゃないか4番隊でさぁ行こうか!」

義勇兵「待て、行くのはその黒髪と赤髪だけでいいお前は1番隊に残れ」

空「……マジで?」

義勇兵「マジで」

愛紗「じゃあ私達は行くから」

鈴々「いいなあゝお兄ちゃん」

そしてさって行く美少女達

空「・・・・・・・・・・（血涙）」

さっ 淋しくなんてない・・・ん・・・淋しい（泣）

賊の住家前

義勇兵「これより1番隊は出陣する!!」

オオオオオオオオ!!

何でみんなそんなにやる気があるんだろう

現状確認をしようかまずうちの義勇軍の数が350人賊の数が300人で少しこちらが有利な訳で

1番隊が100人2番隊が100人3番隊が50人で4番隊が100人な訳で

義勇兵「行くぞおおお!!」

ワアアアア!!

空「おっ・・・おお・・・」

周りの空気について行けません

空「は〜早く愛紗に会いたい」

賊「クソガキがあああ!!」

ビュン!

賊が切り掛かる

空「ふっ! あたら無ければどうということはない」

空が避ける

そんな先鋒でした

4 番隊 (Side 愛紗)

愛紗「……………空は、大丈夫なのか」

鈴々「愛紗どうしたのだ?」

愛紗「鈴々か、いや空の事が心配だな」

鈴々「なんだか今の愛紗可愛いのだ」

愛紗「なっ! / / ばっ馬鹿な事を言うな! / / / ただ、アイツとは

子供の頃からずっと一緒に戦ってきたから今日みたいに戦った事がないんだ」

鈴々「……………愛紗ってさっきのお兄ちゃんの事が好きなの？」

愛紗「えっ！？……………そっそう言えば考えた事なかったなそんな事」

私はどうなんだろう？ただの幼なじみか好きなのか

義勇兵「でっ伝令！1番隊が押されています！！」

大将「どっどっという事だ！！」

義勇兵「はっ！どうやら想定していた賊の数が違うようで」

大将「どれくらいの数なんだ」

義勇兵「ごっ500人……………です」

大将「くっクソ……………しかたない……………3番隊と2番隊を連れて撤退だ！」

え？

愛紗「まっ待ってくれ……………1番隊はどうなるんだ？」

大将「見捨てる、どうせもう全員死んでるだろ」

愛紗「なっ！！私だけでも行く！！」

大将「待て！お前は此処にいる！お前には俺を守るために4番隊に
いてもらはないと困る！」

愛紗「そんなの知るか！！」

私は1番隊がいる所に向かおうとした

鈴々「待つのだ愛紗！」

愛紗「なんだ鈴々早く行かないと空が！！」

鈴々「今大事なのはお兄ちゃんを探す事じゃなくて義勇軍の人達を
無事に安全な所まで行かせる事なのだ」

愛紗「なっなら・・・空を・・・みつ見捨てると？」

声が震える

鈴々「・・・・・・・・・・」

愛紗「うつ・・・くつ・・・や・・・だ・・・やだ」

鈴々「・・・・・・・・愛紗・・・行くのだ」

愛紗「・・・・・・・・空」

涙は出なかった、だって認めたくないから・・・私が空を見捨てる
事が

1 番隊 (Side 空)

義勇兵「グハッ！」

義勇兵が切られた

空「マジで……てかこれ絶対に300人って数じゃないだろ」

あきらかにこっちの軍より多い

空「うら！ハアハア……もう無理疲れた2番隊も来てないし3番隊もいないし仲間は……あれ？いない」

周りを見たけど仲間の義勇兵がいなかった、つか俺賊に囲まれてる？

賊「へへっもうお前一人だぞ」

空「おお……ジーザスJesus」

俺終了のお知らせってか？

11話 義勇軍（後書き）

駄文だぞ

12話 符連世亜（プレセア）（前書き）

ホントにごめんなさい!!

友達にテイルズオブシンフォニアを借りて「プレセア可愛い!」ってなって書いてしまいました

12話 符連世亜（プレセア）

Side 愛紗

愛紗「ハアハアハアどこだ・・・空」

あの後私達義勇軍は近くの町まで避難した後に私は1番隊がいた場所に来ていた

愛紗「ハアハアしかし・・・なんだ・・・この死体の山は」

そこには賊の死体が大量にあった

愛紗「・・・ん？あれは・・・空の・・・双剣」

空の双剣が無造作に置いてあった

愛紗「・・・双剣は見つかって肝心の空が見つからない、か」

私は双剣を地面に突き刺した

愛紗「空なら取りに来るだろ」

双剣の下の地面に空に向けて文字を書いた

愛紗「・・・生きてるって信じてるからな」

自然と空から貰った髪止めを撫でた

S i d e
空

空「・・・・・・・・・・・・・・・・ディズニーさんごめんなさい!!」

やばいホントに怖かったディズニーのキャラクター達が襲い掛かる夢

空「・・・・・・・・てか此処どこさね？」

今俺はベットに寝かされてます

空「整理しよう今まで事を・・・・確か賊に囲まれたあと」

回想

賊「さあどうする？まあ選択しなんてないけどな」

ハハハッとアメリカ人並に笑いだした

空「覚悟決めるしかないのかな？」

賊「やっちまえ!!」

空「クローズかつ！」

回想終了

まああの後200人くらい切ったあとに疲れきって倒れて覚えてないけど、てか俺やれば200人も切れるんだね

空「……………なら此処どこ！？え？何？怖い、まさか此処はデ
イ○二一の監禁場所！？」

ガチャ

空「ごめんなさい！もうミツキ〇なんて売りませんだから許して！」

ベットの上でDOGEZATって最近俺こればっか

「あ、あの……私別に謝られる事された覚えはないんですが」

どうやらデ○ズニ関係じゃなかったみたい、とりあえず顔を上げてみた

空「いえ、こっちの話で……す……か……ら」

「どうかしましたか？」

なつ何故・・・・・・・・プレセアが此処にiiiiiiiiiii！

なんだ？気絶してシンフォニアの世界にでも来たのか！！！？

空「あつあの・・・なな名前を聞いても？」

??「あつそうでしたね紀才^{きさい}字^{えん}は延です」

空「よかった違う」

紀才「何がですか？」

空「こつちの話だから気にしないで、俺は郭銀、字は元だよあと何で俺此处で寝てんの？」

紀才「はい、それは私が連れて来ましたから」

ん？

空「どうゆう事？」

紀才「実は私武に少し自信がありますから義勇軍の力になればと義勇軍がいる所に行ったら郭銀さんが一人で賊と戦っていたので私も手助けしようと思ったたら郭銀さんが倒れたから」

空「じゃあ紀才は俺の命の恩人って訳だ・・・でもどうやって此处まで運んできたの？まだ賊も居たでしょ？」

紀才「そつ・・・それは・・・私だから」

空「・・・（聞いちゃいけない乙女な部分だったか！？馬鹿！俺の馬鹿！）いや言いたくないならいいよ」

紀才「はい……」

空「じゃあ俺行くわ」

紀才「え！？もう行くんですか？」

凄く驚いたような悲しいような表情をした

空「いや、迷惑だろうし」

紀才「別に迷惑なんかじゃありません……」

空「（やべっ落ち込んだプレセア……じゃなかった紀才可愛い！）
……ええ……と……いたたた、やばい多分これ脇腹折れてる紀才、
すまないけどしばらく家に泊めてくれないかな？」

紀才「あっはい！いくらでも泊まっていてください」

凄く可愛い笑顔で言ってきた

空「（やべっ雛リンの時みたいにお持ち帰りしたい……って俺
がお持ち帰りされてるじゃないか！！）」

空「じゃあお世話になります、あっそうだ俺の真名は空だよ」

紀才「私の真名は符連世亜^{プレセア}です」

空「……（やっぱりプレセアだぁぁ！！なんだ今の当
て字じゃん！）」

プレ「どうしました？」

空「いや、なんでも！それより親御さんは？挨拶したいんだけど」

プレ「その、私一人で住んでるんで」

空「ごめん・・・（馬鹿！何回同じ過ちを繰り返すんだよ俺！）」

プレ「いいんですそれよりご飯食べに行きましょう」

空「うん、行こう」

道

空「・・・・・・・・・・」

プレ「・・・・・・・・・・」

なんだろう視線を感じる・・・・・・・・いや！別にナルシストとかじゃないからね！！？

空「・・・・・・・・・・なんか視線を感じるね」

プレ「そう・・・ですね」

店

空「ん〜じゃあ俺麻婆豆腐」

プレ「なら私も」

店員「はっはいすぐにお持ちします!」

何?なんで俺怖がられてんの?ヤクザか何かと間違えてない?

空「……プレセア、俺って怖い?」

プレ「?……いえ、別に」

店員「おっお待たせしましたどうぞごっごっゆっくり!」

空「……あむ……おいひ」

もうツツコまない事にした

空「美味しかったな」

プレ「はい、そうですね」

空「……プレセア先に家に帰っというて」

ブレ「わかりましたけど、どうして？」

空「いや、俺が倒れてた場所に大切な人がもしかしたら居るかも知れないから見ておきたいんだ」

ブレ「・・・わかりました・・・でも・・・もしその大切な人が居たとしてもとりあえず戻って来て下さい」

空「わかったそれじゃ！」

俺は1番隊がいた場所に向かった

空「ハアハアハア・・・やっぱりいないか」

そこには死体しかなかった・・・訳でもなかった

空「・・・俺の双剣・・・・・・・・！！・・・絶対に見つけてやるよ」

双剣の下の地面に『待つてるから見付に来い』と書いてあった

空「・・・とりあえず帰るか」

帰り道

空「もう一回 もう一回 私は今日も転がります と少女が「お前さん」言う?・・・なんさねじいさん」

じいさん「お前さんあの子とどういう関係なんだ?」

なんだ?いきなり人が歌ってるのを止めたと思えばプレセアとの関係はなんだ?ってお前がなんだ?

空「別に今日あの子に助けられたっていう関係だけど?」

じい「そうか・・・なら今すぐあの子と関わるのはやめなさい」

空「やだ、以上バイバイ!」

じい「まっ待つのじゃだからあの子と関わるなと」

空「いやね?だから『やだ!』って言ってるでしょ?」

じい「りっ理由を聞かんのか?」

なんであんたが動揺してんだよ

空「・・・別に興味な「聞いて下さい」しかたない聞いてやろう」

さすがにじいさんに頭下げられたらね?

じい「確かあの日は「そんな語りはいいから早く言えよ」・・・

この村が賊に襲われた事があつての？あの子がその賊達をやっつけてくれたんだ」

空「じゃあ何でみんなあんなにプレセアの事を見るんだよ」

いくら俺でも誰に視線が向いてるかくらいわかる・・・まあプレセアの前ではわからないふりをしてたけど・・・紳士だね！俺！

じい「だけどそんな事が一時期頻繁に起きたんだ・・・だけどあの子は一度も負けなかったどん人数差でも負けなかったんだ」

空「・・・・・・・・いいことじゃん」

じい「でもあんなに小さい子が賊を何十人も倒すんだ・・・・・・気味が悪いだろ？」

空「・・・・・・・・・・」

じい「それ以来村のあの子を見る目がかわつたんだよ」

空「・・・・・・・・わかった・・・じゃあ俺そろそろプレセアの所に帰るか」

じい「あれ？話し聞いてた？」

空「だから何？こちらら6才で賊倒してたんだぞ？今更何？って感じ？」じい「・・・・・・・・・・」

空「じゃね」

早く帰らないと

プレセア宅

空「ただいま」

プレ「あっお帰りなさい、遅かったですね」

空「ああ村の人にプレセアの事聞いてたから」

プレ「えっ・・・あっあのきつ聞いたんですか？」

動揺したプレセア可愛い

空「聞いたけど？」

プレ「・・・・・・・・気味悪いですね？・・・私」

空「いや、別に俺も6才くらいに賊倒してたし、それにそんなに小さいのに大人を倒してるって言うギャップ萌え！みたいな」

プレ「言ってる意味わかりませんが・・・・・・・・ありがとうございます」

空「うん・・・・・・・・ところでプレセアって何歳？」

プレ「ええ」と確か14だったと思います」

空「（）．．．．．年上．．．．．なんですわかり．．．．．たくなかった
（泣）（）」

ブレ「あの、それが何か？」

空「いや．．．．．なんでも．．．．．ないよ」

ブレ「．．．．．？」

とりあえず寝て忘れようと思った

12話 符連世亜（プレゼア）（後書き）

愛紗と少しの間別れます

13話 キー（前書き）

華琳様の登場です

13話 キー

おはようございます空の時間です

・・・ごめんなさいちょっとだけニュースキャスターに憧れただけなんです！

先にみなさんに謝つときます、ごめんなさい！！

何故謝つたかとまた時間飛ばしちゃいました・・・3年ほど・・・あつこの小説自体興味ないか

空「・・・・・・・・・・愛紗に・・・会いたい」

やっべ！マジやっべ！転生して毎日と言つていいほどに愛紗に会つてたのに3年だよ！？3年も会つてないなんて！！

空「しかも最近『黒髪 mountain 山賊狩り』の噂も聞くようになったし・・・愛紗・・・頑張ってるんだろうな」

それなのに俺何してる！？またミッ○ー売ってるぞ！たまにキテ○ーちゃん売ってるぞ！！？でもかなり売れるんだよ？○ティーちゃん！

ガチャ

プレ「ただいま、空さん」

空「あつお帰りプレゼア」

たまにプレセアもキテ〇ーちゃん売るの手伝ってくれます、そのおかげかわからないけどみんなのプレセアを前みたいな目で見る事はなくなつた

そればかりかプレセアに告白してくる奴もいやがるしかもたいていの奴が大きいお兄さん達まあみんなフラれてるけどな、ざまwww

空「プレセア、俺旅に出るから」

ボトツ

プレ「えっ？どっどうして？」

プレセアが持ってたキティ〇が落ちた

空「いや、そろそろ幼なじみ探さないと殺されるし、あと会いたいから」

プレ「そっそう・・・ですね」

やめて！そんな捨てられた子犬みたいな目で涙目にならないで！！

空「いつ一緒に・・・行く？」

無理です俺にはこんなに可愛い子を一人にして旅に出るなんてできません！

プレ「いいいんですか？」

ペア〜と言つ効果音が聞こえそうなくらいの笑顔になった

空「もち!」

ブレ「じゃあ今すぐ旅の準備しますね!」

トテトテと部屋の奥に入って行つた

空「・・・・・・・・しっしかたないよね」

俺達は町を出た

空「とりあえず何処行く?」

ブレ「どこでも」

空「いやいやいや待ってそれは前に聞いたから今回は決めよ?」

ブレ「初めて言ったんですけど、なら陳留に行ってみますか? あそこは昔から行きたいと思ってたので」

空「陳留って確か……誰かいたっけ?」

とにかく行ってみる事にした

陳留

空「結構時間掛かったね」

ブレ「そうですねそれに路銀もかなり少なくなってきましたしね」

ミッ「キーキーで貯めたお金が

空「かなり人気出てきて儲かってたのに……また売るか」

ミッ「キ○達を売る事にしたみた

空「らっしやいらっしやい最近人気がでてきたミッ「キ○だよキテ○
ーもあるよ!」

女の子「ミッ「キ○ください!」

空「はい、どうぞ」

いやゝっぱりミッ○ーキティ○は人気あるねそれに女の子とかが来るから目の保養になるし

空「最高ですな！」「おい！これはなんだ？」「ああ人形ですよ」

??「ほおゝこれが最近噂の」

??「どうする姉者？華琳様を買っていくか？」

・・・・・・・・ん？

空「（え？何？姉者？華琳様？・・・いやいや、まさかね？だって此处陳留じゃない・・・・・・・・陳留だ・・陳留だよ・・此处）」

??「ああ！おい！お前このきつキ○イーと言つやつを一つ」

空「あっはい・・・・・・・・どうぞ」

なるべく顔を見られないように俯きながら渡した

??「よし！ほら秋蘭いくぞ！」

??「ああ姉者先に行つててくれ」

何故貴方は行かない・・・俺のせいじゃないよね

??「ん？ああなら先に行つてるぞ」

そして赤い人はさつていった

??「おい、お前何か武術をやつてないか？」

俺じゃない絶対に俺じゃないそう信じよう

??「人形を売っているお前に聞いているんだが？」

ギヤアアアアアス！！

空「あつ俺ですか？別にやつた事はないですよ（汗）」

??「おかしいな？なら何で腰に双剣を持っているんだ？」

にゃんとお！！

空「ごご護身用ですよ旅は危険がいっぱいで「空さんすみません斧を研いでたら遅くなりました」・・・遅かったね（滝汗）」

まだ言つてなかったけどプレセアの武器は斧だよ

??「旅人が斧か・・・それも護身用か？」

空「いや、けして誰かを殺そうとか考えてませんから！ホントにただ旅をしてるだけです！」

??「・・・まあ今回は信じてやろうお前の名前は」

空「はい、性は郭、名は銀、字は元です」

??「そうか私は夏侯淵、字は妙才だ機会があればまた」

水色の人も帰って行った

ブレ「・・・知り合いですか？」

空「・・・そう見え「ないです」だろうね・・・怖かった」

夏侯淵マジ怖え

玉座

パンツ！

??「華琳様あゝただいま戻りました！」

華琳「春蘭、もう少し静かに入ってこれないの？」

春蘭「すみません、それより華琳様！最近噂の人形が売ってたので買って来ました」

そう言いながらキティ○を持ち上げた

華琳「へゝそれが、なかなか可愛いじゃないそれより秋蘭はどうしたの？」

ガチャ

秋蘭「ただいま戻りました」

春蘭「おい！秋蘭今まで何をしてたんだ」

秋蘭「何、人形を売ってた奴と少し話しをしてただけだ」

華琳「あら、秋蘭が興味を持つなんてそいつがどうしたの？」

秋蘭「はい、そいつが多分ですがかなりの武を持っているかと」

華琳「ふゝん会ってみたいはね」

秋蘭「多分明日ならまだ居ると思いますから行って見ますか？」

華琳「ええなら明日行ってみましょう」

そんな会話を空がしるよしもなかった

宿

空「やだ！やだ！やだ！もう俺外に出たくない！！怖わいよ夏侯淵！！ヤバイよ曹操！！」

ブレ「でもミツキ〇売らないと旅が出来ないですよ？」

空「それもやだ、現実って厳しい」

人は現実からは逃れられない……って今俺いいこと言った！

朝

ガバッ

空「……まあ何があっても朝は来る訳で」

頼むから曹操こないでくれ

華琳「貴方が人形を売ってるの？」

……あれだね曹操の噂をすれば曹操が来るってやつだ……
……馬鹿だろ俺

空「まあ売ってますけど」

華琳「そう、貴方武をやっているそうね」

え？

俺は曹操の隣に居る夏侯淵を見た

じっ 俺

プイッ 夏侯淵

目を背けやがった

空「別にやってな「嘘をつくなら首を跳ねる」はい、やっています」

怖いよ曹操

華琳「隣の貴方は？」

プレ「少し程度ですが」

華琳「そう………」

曹操が何か考え始めた

空「プレセア、いやな予感がするんだけど（小声）」

プレ「はい、私もなんだか（小声）」

華琳「貴方達、春蘭じゃなくて夏侯惇と勝負しなさい」

空・プ「（予感的中！）」

城の庭

春蘭「さあ来い！どっちからだ！小さい方が男の方か！」

空「……………プレセア、俺悪い事した？」

プレ「……………逆に聞きます、悪い事しました？」

空「……………したかも」

プレ「……………はあゝ」

俺には曹操の考える事がわかんない！？何故バトル？今の俺ただの旅人じゃん！？なのに何故！！

プレ「じゃあ先に逝きますね」

字が違うと言えないのが悔やまれます

春蘭「まずはお前か」

プレ「よろしく願いします」

華琳「それでは……………始め！」

先にプレセアが動いた

プレ「ハアアアッ！！」

夏侯惇の横腹めがけて斧で切り掛かった

春蘭「つく！かなりの力だな」

夏侯惇がそれを大剣で防いだ

プレ「まあ力には自信がありますから」

春蘭「そうか、華琳様！こいつ・・・いや名前をなんと云う」

プレ「紀才、字は延です」

春蘭「そうか私は夏侯惇、字は元讓だ、華琳様！紀才は強いです私と同等の力です！」

華琳「そう、貴方がそこまで言うなんてね・・・紀才！貴方私の部下にならない？」

多分こうなると思っていました

プレ「・・・すみません私は貴方の部下にはなりません」

ギヤアアアアス！！

華琳「・・・理由は？」

やっべえよ！曹操絶対怒ってるって！！

プレ「私は空さんと一緒に居たいんですだからごめんなさい」

華琳「そんなにその男がいいの？」

俺を見ながら言ってきた

プレ「はっはい／＼／」

何故そこで照れる、貴方の発言で俺の命の危機だと言つのに

華琳「そつ、でも私はあきらめないわよ」

プレセアが狙われた！

空「じゃ俺達はこれで帰るプレセア」

プレ「はい！」

そうして城からさつて「待ちなさい！」・・・なんでさ

空「何かご用で？」

華琳「まだ貴方を見てないじゃない」

空「野郎が戦う所なんて見たくないでしょ？」

華琳「あたりまえじゃない」

キッパリ言わなくても

空「ならな」「ごちゃごちゃ言わずにやる!」・・・グスッ」

春蘭「さあやるぞ!」

元気な事で

空「はぁ〜お手柔らかに」

夏侯惇VS空の始まり

13話 キオイー（後書き）

駄文でサーセン

14話 華琳（前書き）

空VS夏侯惇です

14話 華琳

皆さんピンチです夏侯惇さんがやる気満々です

つまり殺る気満々なんです!!

春蘭「さあ! 始めようか! 華琳様合図を!」

空「待つてください夏侯惇さん心の準備並びに此処から逃げる準備
「させるとでも?」させてくれるだけの心を持って欲しかった」

華琳「なら、始め!」

今度は先に 夏侯惇さんが仕掛けて来た

夏侯惇「デエリヤヤヤヤヤ!」

何故だろうさっきの試合より殺気が溢れだしてる

空「くっ! あのおゝ心なしかさっきより殺気が増えてる気が」

夏侯惇「当たり前ださっきは女の子今回は男だからな」

今だけで女にならないかな

夏侯惇「なんだ? こないなか? ならまた私が行く・・・ぞ!!」
言いながら突っ込んできた

空「うひゃ!」

突っ込んできたのを横に避けた

春蘭「貴様！何故よける！」

空「なら聞こう何故殺そうとする！！」

春蘭「なんとなくだ！！」

何となくで人を殺すって！反抗期の中学生か！！

空「っ！！ちよっマジでやめて！」

春蘭「さつきからちよこまかと、死ねえ！！」

空「（・・・面倒臭いけど死ぬのもいやなんです！まだ愛紗といちゃつくって夢があるから！）・・・ヴィジョンアイ」

久々のヴィジョンアイ！夏侯惇の動きを3秒だけ見た

夏侯惇が上から切り掛かってくるであろう場所を避けて夏侯惇の後ろに回り込んで夏侯惇の首に双剣を構えた

空「（成功してよかった）・・・あの？終わ리と言っ事で」

春蘭「・・・・・・・・・・」

夏侯惇が剣を構えたまま動かない

空「あのお・・・・・・・・曹操さん終わりでいいですか？」

曹操に聞いてみた、だって夏侯惇動かないんだもん

華琳「……………ええ貴方の勝ちよ」

なんだろ？終わったのに曹操から睨まれてる

空「じゃあ自分帰りますね？プレセア帰ろ」

プレ「あっはい、帰りましょう」

空「それじゃさよう「待ちなさい」……………（拒否権を発動させたいけど聞いてくれないんだろうな）……………何でしょうか？」

華琳「貴方達今日の宿は「決まってます」……………」

睨まないでください決まってる物は決まってるんだから

華琳「ならそこはやめて此処に泊まりなさい」

命令系なのは気のせいだと思う

空「間に合ってますか「泊まりなさい？」はい、仰せのままに」

さすが霸王だよ殺気がハンパねえ」

華琳「貴方は此処を使いなさい、紀才は隣の部屋を昼食の時間にな

「つたら呼びに来るから」

ガチャ

空「……プレセア、どこかに抜け道ない？」

プレ「ないですね……外にも見張りが」

俺は何時から囚人になったんだ？……ミッ○ーか！此処に来てデイズ二〇からの攻撃なのか！！

空「俺……これが終わったらミ○キー売るのがやめる」

プレ「……そんな事3日前にもいいましたよね？」

空「うん、言った」

プレ「……」

曹操

春蘭「……」

華琳「……秋蘭、早く春蘭を起こしなさい」

秋蘭「……はっ！、姉者起きろ！姉者！」

ユサユサ

春蘭「・・・・・・・・・・はっ！あっあいつは！どこに！？」

秋蘭「姉者もう試合は終わった」

春蘭「そうか、しかしあいつは何なんだ！いきなり人の動きがわかるみたいに私の攻撃を避けてきて気が付いたら私の後ろにいた！？どうゆう事だ秋蘭！！」

秋蘭「さあ、私にも何がなんだか？華琳様は？」

華琳「全くわからないわ、まあそれも込みで今から昼食に誘ったから行くわよ」

秋・春「はっ！」

その化けの皮剥がしてやるんだから

昼食中

あのあと結局部屋から抜け出せなくて曹操達と昼食中何だけど

曹操「・・・・・・・・・・あむ・・」

秋蘭「・・・・・・・・・・姉者零れてる・・」

春蘭「ガツガツガツ・・・・ジーー・・・・ガツガツガツ！」

やだ、この空気

曹操はたまに俺を見ながら食べてるし夏侯淵は姉者だし、夏侯惇はめっちゃ食べながら俺をガン見するし

空「……………新手の拷問かな（小声）」

ブレ「…………あむ…………モグモグ…………さあ？少なくとも私は何もしてません（小声）」

…………最近プレセアが冷たいような

華琳「……………郭銀と言ったかしら？」

空「は…………はい」

華琳「最後に春蘭の攻撃を避けたじゃない？どうやったの？」

空「反射神経がいいんですよ」

嘘つく意味ないけどとりあえず

華琳「…………でも春蘭が攻撃に入るまでに動いていたけど？」

空「ただ起きてから動くより動く前に動いてみただけですよ……………貴方だってそうするでしょ？」

ちよつと最後は強気に言ってみた

春蘭「貴様ああ！！調子にの「春蘭！少し黙りなさい今は私が喋っているのよ？」はっはい」

やばい、怖いもう調子に乗らないだからお家帰して

華琳「・・・・・・そう、あくまで知らんぷりって事ね・・・・ねえ貴方私の部「ごめんなさい」・・・・・・」

あつまた睨らんでらっしやる

華琳「・・・・・・なら客将「それもごめんなさい」あつ貴方！さっきから何！？最後まで喋らせなさいよ！！」

空「じよっ冗談じゃないですか冗談・・・・・・まあ客将くらいなら・・・・それとお願い聞いてくれないかな？」

華琳「報酬って事ね？」

空「似たような事かな？情報が欲しいんだ『黒髪 of 山賊狩り』の」

華琳「理由を聞いても？」

空「・・・・・・幼なじみなんですよその子」

華琳「ふうんまあいいわ・・・・・・他に何かある？」

空「別にないよ」

華琳「そ、ならこれからよろしく」

空「よろしく・・・あ、そくだプレセアはどうするの?」

プレ「空さんがなるなら私もなりたいです、曹操さんいいですか?」

華琳「もちろん、貴方達に私の真名を預けるは真名は華琳よ」

空「俺の真名は空です」

プレ「真名は符連世亜です」
プレセア

華琳「貴方達も預けなさい」

秋蘭「私の真名は秋蘭だよろしく頼む」

春蘭「・・・・・・・・・・・・・・・・」

秋蘭「どうした?姉者?」

春蘭「女の方はいい、だが男の方は気に入らない!」

うん!わかってたよそんな簡単に真名を夏侯惇が預ける訳ないもん・・・・・・・・一刀君頑張ったね

華琳「あら、春蘭は私の命令が聞けないの?」

凄い、いい笑顔で夏侯惇に尋ねた

春蘭「かつ華琳様あ・・・・・・・・おい!特別に真名を教えてやる!真名は春蘭だ!」

そんな脅しみたいに教えなくても

空「ええーじゃ俺の真名は空です・・・よろしく」

華琳「なら帰るわよ」

今日から曹操の客将になりました！・・・・・・いじめられないよね？

その日の夜

空「しっかしミッ〇ー売っただけで華琳の客将になっちゃうんだもんな」

ブレ「これから忙しくなりそうですね？」

空「それが曹操の職場って事だね？・・・ごめんね俺のせいで客将なんかになって」

ブレ「別に構いませんただ空さんと一緒に居たいだけですから」

空「プレセア」

ブレ「空さん」

・・・・・・どうしよう、流れてプレセアの事見ちゃたけどこのあとどうしたらいいんだろ

プレ「空・・・さん／／」

待つて！ホントに待つて！何故赤くなる！これじゃまるで今からキ・
・キスするみたいじゃないか！！マジで待つて！現世で俺彼女で
きた事はあるけど手も繋がらないキスもしないで彼女と別れたって異
名があるんだぞ！！ 作者談

プレ「空さん・・・ギユ／／」

・・・・・チュー・・・って待て俺！！うれしいよ！でもまだ愛
紗とあんな事とかあはゝんな事とかしてないのに！

プレ「チラツ・・・ん／／」

いくら俺が仕掛けてこないから自分からって／／・・・それもあ
りだな

空「ん／／「ガチャ」ん？」

華琳「あら、邪魔したわね？さあ続けて」

そう言うのと近く椅子に座った

空「・・・何か？（怒）」

すっげえいいタイミングできやがってプレセアなんて今部屋の隅っ
こで体育座りしてるぞ！

華琳「別に用はないわ」

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

空「…………一発だけ殴っていいですか？（怒）」

その後が怖いけどそんなの知らないとにかく殴る

華琳「いやよ、痛いじゃない」

空「……………」

華琳「……………んゝってか？」

ニヤツ 華琳

ブチッ 空

空「待てやゴラァァァァァ！」

華琳「い・や・よ！」

華琳は俺に言った後すぐに部屋を飛びでた

それを俺が追う

空「王様なら何してもいいのかよ！！」

華琳「当たり前じゃない！！だって王様だもの！」

その後夏侯姉妹が鬼ごっこは続いた

14話 華琳（後書き）

最後はちよつと華琳じゃなかった

15話 “あれ”（前書き）

“あれ”の季節ですね

15話 “ あれ ”

華琳の客将になって数日がたって少しは仕事になれてきた

空「でも仕事は辛い」

だつて今までしてきた事つて言えば肉体的な仕事ばつかだしまあ確かに父さんに勉強とか教えてもらつてたけどさ

空「・・・てか部屋の掃除しないと」

仕事に慣れてないせいで部屋はゴミだらけになっていた

空「・・・明日しよ」

俺はその日は疲れて寝てしまった、しかしまさかこれがあんな事件になるなんてこの時は思いもしなかった

次の日

俺は秋蘭に見てもらいながら政務をしていた

空「・・・秋蘭、ここどうかな？」

秋蘭「ん？・・・ああ別にいいと思うぞあとここは「秋らああああん！！大変だ！」どうした？姉者？」

春蘭「あれ“が出たんだ!”」

秋蘭「あつ“あれ“か!”」

春蘭「ああ“あれ“だ!”」

そう言うと二人は出て行った

空「……せめて“あれ“が何か教えてよ」

とりあえず付いて行ってみる事にした

玉座

ガチャ

空「失礼しまあゝす」

そこにはプレセアと夏侯姉妹と華琳が居た

空「みんな勢揃いでどつたの?’」

華琳「ええ貴方に言うておかないとね、“あれ“が出たのよ」

空「あれってなんなの?’」

秋蘭「それは、あつ“あれ“だよ」

春蘭「ああ、“あれ”だ！」

プレ「はい、“あれ”です」

空「・・・華琳、具体的に」

華琳「・・・くっ黒くて、ちち小さくて、カサカサ動く」

空「ああ・・・ゴキブリ」「ギヤアアアアア！」「」なっ何！？」

春蘭「貴様！私達が必死に名前を言うないで頑張ってきたのに！！
わざとか！？わざとなんだろ！！」

プレ「ひどいです！空さん！皆さんが頑張ってたのをたった一言で
なかった事にするなんて！そんなの鬼畜の所業です！」

空「ごっごめんなさい」

美少女二人に攻められて勝てる男の子はいません

華琳「まっまあいいわ、とにかく今はあれの居場所を発見ならびに
破壊！以上！行きなさい！」

夏侯姉妹「はっ！」

プレセア「はい！」

完全武装で3人はどこかに行った

華琳「ほら、貴方も行く」

空「・・・ちなみに第一発見者って誰？」

華琳「・・・・・・・・・・・・・・・・」

ゆつくりと手をあげた

空「大変だったね」

華琳「大変なんて物じゃないわよ！！春蘭としてる最中に出たのよ！！これじゃ不完全燃焼よ！！」

プイッとそっぽをむいてしまった

空「・・・行つて来ます」

そのまま玉座を出た

空「しっかしどうやって探そう今までこんなに本気でゴキブリなんて探した事ないからな」

とにかく城をぶらぶらしてみた

空「まあ確かに現世では苦手だったけどこっちに来たらそんなのどうでもよくな「ハアアアッ!」今のプレセアの声!」

声がするの方向にむかった

プレ「ハアアア!リヤアア!」

春蘭「死ね!死ね!死ね!わっ!こっちくるな!死ぬ!くるな!死ぬ!」

ゴキブリが来ただけで死ぬか!

空「秋蘭見つけたの?」

秋蘭「ああだか見ての通りこんな状況に」

プレセアと春蘭が暴れて廊下がめちゃくちゃになっている

空「秋蘭は大丈夫なの?あれ」

プレセア達の回りをうろろしている“あれ”を指差した

秋蘭「得意でもないが別に……」

春蘭「プレセア!そっちに行ったぞ!」

プレ「はい！．．そこだあ！！」

秋蘭「あれ程ではない」

空「ですよねえ」

それから華琳も参加して30分くらいたってやっと住家がわかった

華琳「．．．．．」

夏侯姉妹「．．．．．」

プレ「．．．．．」

空「．．．．．テヘッ（ペコちゃん顔）」

そう住家が俺の部屋だった

春蘭「諸悪の根元はお前だったか」

無言で大剣を向けてきた

空「ごめんって！今すぐ部屋を片付けるから！！」

華琳「はあ．．．まあとにかく掃除をしましょ」

空「手伝ってくれるの！？」

華琳「こっ今回だよ！！」

生ツンデレｗｗｗｗ

プレ「しかしいろいろありますね」

空「あの、あんまりまじまじと見ないで」

春蘭「貴様が悪いんだろうが・・・ん？何だこれ？『ネコミミ企画パート2』何だこれは」

空「ギヤアアアス！！なっ何見てるんだよ！そして何故読む！」

春蘭「しかたないだろ、このままにしていたら“あれ”が出るんだから」

クソツ「このままじゃ俺のプライベートが侵害されてしまう！・・・はっ！なんだ！？この視線は！」

俺は視線の方向を見た

華琳「ニヤツニヤツ」

・・・ヤッベーーーー！！華琳絶対に俺の部屋にある物で俺をいじめる気だ！やつやばい早く何とかしなければ

プレ「ん？ええっと『春のメイド服3連打！』ってなんですか？」

プレセア！声にして読んじや駄目！！奴が！

華琳「プレセア！ちよつと見せなさい！」

奴が！

空「プレセア！見せちゃ駄目！！」

しかし願い叶わず

華琳「へゝ以外な才能があるのね？しかし何？『メイド服3連打』って、恥ずかしくないの？ねえ？」

クソドSが！

空「夢見るくらいいいじゃないか！いつか幼なじみに着てもらおうと考えて作ってるんだから！」

華琳「別に悪いなんて言っていないじゃない、ただ・・・プツ・・・馬鹿にしてるだけじゃない」

空「なお悪いは！！つかやっぱり一人で片付ける！だから出てくさい！」

華琳「いやよ、こんなに面白い事ほつとける訳ないじゃない」

空「・・・・・・一発殴らって逃げるなコラアアアア！！」

華琳「い・や・よ！痛いじゃない」

また鬼ごっこが始まった

春蘭「……華琳様楽しそうだなあゝあっ『夏のスク水増刊号』だつて」

秋蘭「そうだな、ん？『男のロマン！裸エプロン偏』なんだこれは？」

空の知らないところで空の心の傷が増えていた

1時間後

空「やっと終わった……俺も終わった」

結局俺が書いた物全部見られた

華琳「おかげで貴方の性癖もわかったけどね」

空「……グスッ」

プレ「どんな事があっても嫌ったりしませんから」

空「……プレセア……ありがとう」

ホントにいい子だよこの子

春蘭「そのかわり私達はお前を前みたいに見れないがな」

秋蘭「一步引いた所からお前を見るよ」

夏侯姉妹が少し俺との距離をとった

華琳「まあとにかく今度からちゃんと掃除をするように」

空「・・・はい」

そして事件は終わったと思っていた

夜

空「反省しないとな今度からちゃんとし」「ギヤアアアアア！」「なんだ！？」

とにかく廊下に出てみたら

春蘭「ギヤアアアア・・・」

下着姿の春蘭が廊下を何かから逃走していた

空「・・・」心の中に留めておこう

とりあえず春蘭、ごちそうさまでした！

秋蘭「空！姉者を見なかったか？」

秋蘭がやってきたもちろんちゃんと服を着てるよ

空「春蘭なら向こうに下着姿で走っていったよ」

秋蘭「そうか、はあ」

空「何であんな事に？」

秋蘭「いや、多分だが姉者が着替えようとした時にでも“あれ”が出たんだろ？」

空「春蘭の部屋も汚いの？」

秋蘭「そんな事私がさせないのだが昨日は華琳様との最中に“あれ”が出てむしゃくしゃして部屋で暴れた結果」

空「俺の部屋からお引越しっ」と

秋蘭「はあ」

俺は秋蘭に十円ハゲができない事を祈りながら寝る事にした

後日俺が春蘭の部屋を掃除させられた

15話 “あれ” (後書き)

ホントに嫌いです

16話 再会（前書き）

30万PVになったぜ！

16話 再会

side 空

空「まあなんとかできたかな？」

最近やっと政務に慣れてきた空です、秋蘭に見てもらわなくても一人で出来るようになった

空「……てか俺何してんの？愛紗探しに来たのに何政務してんの？」

本来の用事を忘れて来ました

玉座

華琳「空、最近近くで『黒髪の子盗り』の噂があるらしいのよ」

空「マジ！どこで！」

華琳「確か北西の方角だったって貴方何処に！」

空「ちょっと行ってくる！」

俺は玉座を飛び出した

林

空「確かこの辺りだったと思うけど」

華琳に聞いた後華琳だけじゃ信用できないから町の人にも話を聞いて回って此処にきた

空「たく、華琳のせいで無駄な時間掛かったこれも華琳の日頃の行いが悪いせい」「キヤアアア」「美少女の叫び声！待ってるよ美少女！」

美少女の声には敏感な空なのです

賊「へへっお前が悪いんだぜ？そんな胸をしてるのが」

??「ううつ好きでなっただんじゃないもん！」

賊「まあとにかく」「俺の右手が真っ赤に燃える！！」「はあ？」

空「フラグを立てると轟き叫ぶ！！」

賊「何言ってんだ？」

構えてる所をまじまじと見られてる

空「あのさ、こう言う時は何もしちゃいけないってルールがあるの！はい！、始めっから」

賊「え？ああ、へへっお前が悪いんだぜ？そんな胸してるのが」

？？「ええと、ううっ好きでなったんじゃないもん！」

やってくれる所を見と実はいい人なのかも知れない

賊「まあとにかく「俺の右手が真っ赤に燃える！」はあ？」

空「フラグを立てると轟き叫ぶ！！（あらためて言うときずかしいな、おい）」

空「爆熱！ゴッド・フィンガアアアアー！！」

賊「グハッ！！」

実はそんなに力を入れてないだってやり直してくれたんだもん

賊「クソッ覚えてるよ！」

空「ありがとう！そこまでしてもらって！ホントにありがとう！」

始めて賊に感謝した

??「あの、ありがとうございます!」

空「いえいえ、当然の事をしたまでですよ!」

言つてみたい台詞の30位に入ってる台詞が言えた

??「それでもありがとつてまさか・・・空君?」

空「え?何故真名をつてまさか!」

??「うん!桃香だよ!」

空「え?ああうん、そう、桃香だよね(まさかの後に愛紗と言いそうになつた)」

桃香「よかったあゝ町の皆に聞いたら何処かに行つたつて言うから心配してたんだよ?」

空「ごめん、いや桃香に話す時間がなかったからさ、所で何でこんな所にいるの?」

桃香「えつとね、人助けをしてるんだ!」

空「誰を?」

桃香「皆を」

空「皆つて」

桃香「この国に住み人皆」

ワオ！スケールがでかいね！

空「また突拍子もない事を」

桃香「いやね？私さ、空君に助けてもらってから考えて私も人を助ける事が出来たらなあ！って」

空「それで賊に捕まったと」

桃香「うっ痛い所を」

空「（結局愛紗には会えなかったな、まあ桃香に会えたからいつか）
じゃ桃香、俺仕事あるからまた！」

桃香「うん！また！」

俺は城に帰った

side 桃香

桃香「行っちゃった」

もう少しお話したかったな

愛紗「桃香様！どこですか！桃香様！」

桃香「あっ愛紗ちゃん！こっち！」

愛紗「桃香様！まったく勝手に出歩かないでください！」

桃香「つう！ごめんなさい」

鈴々「にやはは、何言っても駄目な物は駄目なのだ」

愛紗「はあゝ・・・ん？桃香様何か楽しい事でも？」

桃香「ん？うん！初恋の人に会っちゃった！」

鈴々「にや？桃香姉ちゃん好きな人居たの？」

桃香「うん！・・・どうしたの？愛紗ちゃん？」

愛紗「・・・いえ、少し昔の話を」

桃香「ふゝん、じゃあ行こっか！」

玉座

空「華琳の馬鹿！なんだよ！行っても賊しか居なかったよ！なんだお前は！」

華琳「知らないわよ！噂なんてそんな物よ！私に当たらないで！！」

空「お前な！こっちは会えると思ってネコミミとメイド服持って行

「ったんだぞ！なのに居ないしさ！俺はなんだ！？ネコミミとメイド服を持った不審者だよ！」

華琳「わっわかった、なら私が着てあげればいいんでしょ！？」

空「お前の幼児体型で入るかボケ！」

華琳「つな！！春蘭！空の首をはねなさい！！私も手伝うから！」

春蘭「はっ！！空あああ！！！」

空「いやあああ！！くるな！つかくるな！！！」

華琳「待ちなさい！優しくしてあげるから！」

空「首をはねるのに優しくもクソもあるか！！！」

秋蘭「はあゝ平和だな」

プレ「はい、平和です」

華琳「ま・ち・な・さ・い！！！」

空「い・や・だ！！！」

秋蘭「プレセア、お茶のお代わりいるか？」

プレ「あっいただきます・・・あゝ幸せです」

華琳「待ちなさい、待ったら貴方に幸せをあげるわ！」

空「残念ながらそれは貴方だけです！」

秋蘭「……………帰ろうか」

プレ「……………はい」

例のごとく30分くらい鬼ごっこが続いた

side 愛紗

愛紗「……………は……………初恋か」

昼に桃香様が言っていた初恋と言う事が気になっていた

愛紗「あれから双剣が無くなっていたから生きていると思うが……………」

やっぱり確かな情報が欲しい

桃香「愛紗ちゃん？どうしたの？」

愛紗「桃香様、幼なじみに会いたいです、昔に生き別れた」

桃香「……………愛紗ちゃん、私もね最近になってやっと初恋の人に会ったのホントは死んだと思ってたんだ」

愛紗「……………」

桃香「でも会えたの、だから会えるよ私が会えたんだから」

愛紗「桃香様・・・はい、私は信じます」

桃香「うん、ほら鈴々ちゃんが呼んでるよ」

愛紗「はい!」

私はもう一度信じてみる事にした空の事を

side 空

空「痛い、マジで痛い」

あの後何とか捕まらなかったが体中が筋肉痛で痛い

プレ「くだらない事でこんな事にならないでください」

空「面目ない」

プレ「なんだか空さんって知れば知る程残念ですよね」

空「何それ、始めて聞いたってか残念って何、痛いたああ！駄目だ
ツッコミが入られない」

プレ「・・・ホントに残念な人」

16話 再会（後書き）

まだ会いません

17話 メンマ壺（前書き）

青髪の人に会います

17話
メンマ壺

ども！右手にネコミミ左手にメイド服がモットーの空です！

早い事で華琳の客将をし始めて3年、最近では『黒髪 mountain 山賊狩り』より最近はあるの『天の御遣い』の噂のせいで消えている

空「んゝ一刀が何処に落ちるかなんてわからないし………
・とりあえず桃園を探すか」

やっぱりあそこに行かないと物語が始まらないしOPも始まらない

玉座

空「そんな訳で俺旅に出るでござる！」

みんな
「
「
「
・
・
・
・
・
・
」
」
」

空「……………テヘッ」

華琳「……何が『テヘツ』よ」

空「いや、余りにも空気があれな感じなんでつい」

春蘭「しかし何で急に？」

空「最近『黒髪 mountain 山賊狩り』の噂より『天の御遣い』の噂を聞くだろ？」

秋蘭「ああ確かに前みたいに聞かなくなったな」

空「多分探してるんだよ、俺の幼なじみは、だから俺も探してみよっかなって」

華琳「……そう、ならさっさと行きなさい」

空「うん、じゃあ明日の朝にでも出るよプレセアはどうする？」

プレ「もちろん行きます！」

空「じゃ準備してくるから」

準備をしに部屋に向かった

華琳「……馬鹿」

朝

空「ああ、疲れたマジで疲れた」

多いよネコミミとメイド服っあ！あとスク水

ブレ「私の荷物の倍じゃないですか」

女の子の荷物の倍って

秋蘭「空、今から出るのか？ならこれを持っていけ」

渡されたのはメンマの壺、手にしたのは星のフラグ

空「待って、何でメンマしかも壺？」

いやいや、俺はどこかの蝶々仮面と違ってメンマを貰ってそこまで嬉しくないよ？

秋蘭「何、たまたま近くで天下一のメンマ！って売っていたのを買ってきたんだ」

……ん？

空「え？それって毒味じゃ」「空すまない姉者が呼んでいるから行くぞ」待って！秋蘭！つか待て！」

足速にさって行っただけ

空「……あの人は少しさだと思う、いまさただけ」

ブレ「行きますよ、空さん」

空「そだね・・・あつ！ええつとおゝい君！名前も知らない君！」
名無し「はい、なんでしょうか？」

空「これ、華琳に渡しといて」

side 華琳

華琳「・・・・・・・・・・」

べつ別に寂しくなんてないんだからね！

華琳「・・・馬鹿じゃないの私は」

でも今まで居たのが居なくなると、ね？

華琳「はあゝ」「曹操様、曹操様にお届け物が」誰から？」

名無し「はい、郭銀殿から」

華琳「へっへっそっそう仕方ないわね、みつ見てあげましょう」

名無し「それではこれで」

華琳「ええ「ボタン」・・・行ったわね、しかし空もこんな物で私を

釣ろうなんて100年早いのよ」

なんやかんや言ってるけど嬉しい

華琳「私に物を贈ったんだから中途半端な物は許さないわよ」

そして袋を開けた

華琳「……………これは？……………何？」

袋の中にはスク水が入っていた

華琳「……………キヨロキヨロ……………」

又ギ又ギ、

春蘭「華琳様！！空がこんな物……………を……………」

華琳はスク水春蘭はメイド服と二人とも空が贈った物を着ていた

華琳「……………」

春蘭「……………」

華琳「……………春蘭、似合ってるわよ」

春蘭「……………華琳様こそ」

二人に微妙な空気がながれた

華・春「（私だけに贈った訳じゃないのね）のか」「」

side 空

プレ「空さん、何だか楽しそうですね？」

空「ん？だって今頃華琳達が面白い事になってる気がするからさ」

プレ「……まあいつもながら無駄な事を考えますよね」

空「ハハッ褒めるな褒めるな」

プレ「……町が見えて来ましたよ」

空「……」

プレ「どうしたんですか？」

空「いや、たださっきまでのテンションが冷静になったらすごい恥ずかしくて」

プレ「……黙っててください」

町

空「しっかしどうしょ?」

ブレ「考えてないんですか?」

空「ん」とにかく幽州のどこかの桃園! って事しかわかんないからなあ」

ブレ「やっぱり聞き込みとかしなきゃいけないみたいですね」

空「んじゃ! 聞き込みスタート!」

一人目

空「幽州の近くで桃園がある所知らない?」

市民「知らないな」

二人目

空「幽州の近くで桃園がある(中略)」

市民「わからない」

四人目

空「幽州の近くで桃園（中略）」

市民「わからないわねえ」それより遊んで行かない？」

六人目

空「幽州の近くで桃（中略）」

筋肉「わからないわねえ」それより私と遊ばなあい？」

七人目

空「ゲプッ気持ちわる・・幽州の近く（中略）」

ヒゲオカマ「知らんなそれよりうむのその眼差し！この儂のハートがムネムネ「おえっ！すんませんでじだ」何で少し泣きが入ってるのだ？」

30分後

だっ駄目だ、気持ち悪いなんで連続筋肉が出るんだよマジ最悪

グウ

空「・・・腹減ったな・・・そうだ、メンマがあった」

まさかこんな所で使う事になるとは

空「いただきまあゝ「ドサツ」すって何だ？」

いきなり青髪の人が倒れた

空「（何故倒れた、つか倒れる前からチラチラ見てたし・・・
係わらないでおこ）」

空「改めていただき「あつ人が倒れてるぞ」「何？大変だ！」・・・
」

・・・それ全部自分で言ってるよね？青髪の人

空「・・・パクツ・・・おいひ」

青髪「ガーーーーーン！」

自分で言っなよ

空「・・・パ「グウゝゝ」「やばいぞ倒れてる人はお腹が空いてる
みたいだ！」ク・・・もっきゅ」

だから自分で言っなよ

空「・・・パ「ジーーーーー」・・・（今度はガン見だよ）
」

どうしよ、そろそろ・・・やっぱり面倒だからいいや

空「パクッ・・・パクッ・・・もきゅもきゅ」

青髪「そこのお前」

空「パクッパクッパクッ・・・もきゅもきゅもっきゅ」

青髪「・・・お前に心はあるのか!」

空「いや、何で俺怒られてんの?」

青髪「普通美少女がお腹を空かせて倒れていたら手持ちのメンマを譲るとかするだろ!」

空「いや、お腹空いてたから」

青髪「なら美少女とメンマならどっちを取る!」

空「んゝ美少女?」

青髪「なら何故助けない!」

空「なら青髪はメンマをあげて美少年を助けますか」

青髪「ふざけるな!メンマを取るにきまっておろう!」

空「なら俺は間違ってないね」

メンマを一口

青髪「ああメンマが・・・たっ確かにお主のした事は間違っってい

ない・・・だが！美少女だぞ？その後の展開が気にならないか？」

空「背に腹は変えられないって昔の人は言いました」

メンマをもう一口

青髪「ううゝメンマ・・・・・・食べさせてください」

空「始めからそう言えばいいのに」

実は始めっからこの言葉を言わせたかった

青髪「では失礼」

谷間からマイ箸を取り出した

空「・・・・・・凄いな！あと、ありがとうございました！！」

青髪「何、たいした事ではない」

そしてメンマ壺からメンマを取り出し食べた

青髪「んゝやはり私の目に狂いはなかった、お主これほどの物を何処で」

空「さあ？知人に貰った物だからよく」

青髪「そうか・・・まあ今回はこのメンマに出会えた事でよしとしよう、しかしホントに美味しい」

それから二人でメンマを食べ続けた

空・星「「ごちそうさまでした」」

空「しかしホントに美味しかったな星」

星「そうだな、空」

メンマで貰えた真名

空「つか何で星はこんな所にいるの？」

星「いや、今伯珪殿の所で客将しているのだがな？メンマの残量が少なくなってきたから買い足しに来たら空に会ったんだ」

空「ふゝん・・・っあ！星？」

星「なんだ？」

空「幽州で桃園がある場所知らない？」

星「んゝああ知ってるぞ」

空「マジで！？教えてくんない？」

星「通り道だから送って行って行ってやるっ」

空「ありがとう！じゃあ連れ呼んでくるわ」

それから三人で桃園に向かう事になった

17話 メンマ壺（後書き）

星の口調がわからない

18話 桃園（前書き）

短いです

18話 桃園

side 空

空「・・・星、まだ？」

星「もうすぐ何だが・・・見当たらないな！」

プレ「迷ったなんて言いませんよね？」

星「・・・・・・・・」

プレ「ジーーーーー」

空「まあまあいいじゃないの、どうせ急ぐ旅じゃないんだから」

キラーーーーーン！

空「・・・・・・・・」

星「流れ星か？しかしこんな昼間から「星！何処！？桃園は何処じやああああ！」今、急いでないって言った所では？」

空「なら！流れ星を追っぞ！」

ダダダダダ・・・・・・・・

プレ「空さん！待ってください！」

星「何なんだ急に？」

S i d e 一 刀

さつき此処に落ちて賊に襲われていた所をこの三人の女の子に助けられた

桃香「大丈夫ですか？」

一刀「ああ、あんたらのおかげで助かったよ」

鈴々「ねえ、お兄ちゃんが天の御遣い？」

一刀「天の・・・御遣い？」

桃香「お待ちしておりました、光が降りたこの場所にいた貴方が・・・天の御遣い様なのですね！」

一刀「へ？」

桃香「実はお願いがあるんです」

一刀「なっ何？」

桃香「私達は人々が笑顔で暮らせないこの狂った時代を止めたくて・

・・
」

桃香「・・・無力な私だけでもみんなの力になりたくて・・・でも私達三人だけじゃもう限界なんです・・・」

桃香「だから・・・天の御遣い様！今より多くの人を助けるためにどうか力を貸してください！」

そう言つて女の子は頭を下げた

一刀「・・・その、さ・・・俺は自分で何が出来るか分からないけど・・・俺を必要としてくれるなら手伝うよ」

桃香「ホントですか！？」

一刀「うん」

桃香「ヤッター！愛紗ちゃん！引き受けてくれるって！」

愛紗「はい！桃香様！」

でも自分もあんまりわからないのにこの子達の力になれるのかな？

S i d e 空

空「何処じゃああああ！！一刀は何処じゃああっあ！何かが落ちた跡発見！そこか！」

何かが落ちた跡にダイブした

プレ「空さん！待ってください」「ゴン！」大丈夫ですか！？空さん」

・・・痛い・・・しかも誰もいない

空「何処だよー刀・・・もう愛紗に会っちゃったのか？」

プレ「大丈夫ですか？・・・頭にタンゴブできてますね」

空「大丈夫・・・上から押せば無くなるから」

プレ「凄いですね・・・あつ星さん遅かったですね」

星「あぁいや、近くで桃園があつたから少し見ていた「何処！桃園何処！！」確か来た道を少し戻った所に「あんがと！じゃあ！待ってるよ！！かぁあゝずううとおおおゝ！！！」・・・行つたな」

プレ「私達はどうします？」

星「近くに村があるからそこで昼飯でも食べようか」

プレ「はい、」

空「何処だ！愛紗！貴方の空は此処ですよ！！……………」

しかしあるのは桃園だけ

空「…………ふあ…………寝よ」

諦めて木の上で寝る事にした

Side 一刀

一刀「何で俺は皿洗いをしているのだろうか」

さかのぼる事数時間前

回想

桃香「じゃあとりあえずご飯食べに行きましょう」

鈴々「賛成なのだ！鈴々もうお腹が減ってお腹と背中がくつつきそうなのだ」

そう！ここまではよかった

回想終了

一刀「まさかお金持っていないでお店に入るなんて」

いや、俺もおごって貰えると思ってたのが悪いのかも

桃香「あの〴〵御遣い様？」

一刀「ええつと桃香さん？だっけ？」

桃香「桃香でいいですよ」

一刀「じゃあ桃香、何？」

桃香「いや、何か手伝える事ないかなって」

一刀「別にいいよ、ところで関羽さんは？」

桃香「愛紗ちゃんなら接客係を「なんで！ラーメンにメンマがないのだー！」「へ？」

お客さんが騒いでるちよつと覗いてみるか

星「なんでラーメンにメンマが無のかと聞いている！」

愛紗「だから！私は今日入ったばかりで何も知らないと言っているだろー！」

女将「まあまあまあ！」

関・・・愛紗がお客さんとメンマについて言い合ってた

星「ありえないだろ！メンマとラーメンでやっとラーメンなのにメンマがないとは！・・・なんだ？これは！このメンマのないラーメンを私はなんと呼べばよい！」

ブレ「星さんやめましようよ」

愛紗「普通にラーメンと呼べいいだろう！あと文句なら女将に言え！」

女将「嬢ちゃんもやめなつて、あと私を巻き込むんじゃないよ」

その後女将がお客さんのラーメンにメンマを入れてようやく揉め事はおさまった

所変わって今は店の女将に教えてもらった桃園に来ていた

一刀「ところで此処で何するの？」

愛紗「はい、言うなれば桃園の誓いですかね」

一刀「（桃園の誓いってどこかで・・・・・・あつ！！それって三国志じゃん！そうだよ！何で劉備で気付かないんだよ俺！！）」

愛紗「どうかなさいましたか？」

一刀「ん？いや、何でもないよ！」

愛紗「そうですか、なら」

愛紗「我ら三人！姓は違えども姉妹の契りを結びしからは！」

鈴々「心を同じくして助け合い皆で力無き人々を救い！」

桃香「同年同月同日に生まれることを得ずとも！」

愛・鈴・桃「」「願わくば同年同月同日に死せんことを！」「」

一刀「乾杯！！」

俺ってこの輪に入っていいのかな？

鈴々「プハアゝ美味しいのだ！」

桃香「あんまり飲み過ぎないでね？」

一刀「呑んでも呑まれるなって事だ」

鈴々「鈴々そんなに子供じゃないのだ！」

一刀「ははっ……………愛紗どうしたの？」

愛紗「……………」

桃香「……………多分愛紗ちゃんはこの場所に呼びたかった人の事を思ってるんだよ」

一刀「誰？」

鈴々「・・・・・・・・愛紗の幼なじみなのだ・・・・・・・・」

一刀「なら何で呼ばないの？・・・・・・・・ってああそう言う事か・・・・・・・・ごめん」

鈴々「いいのだ・・・・・・・・それに愛紗はまだ生きてるって信じてるから」

一刀「そっか」

それならいつか逢わせてあげた「ドサッ！！」ん？

一刀「何だ！？」

いきなり人が桜から落ちてきた

愛紗「・・・・・・・・え？・・・・・・・・どう・・・・・・・・し・・・・・・・・て」

空「愛紗・・・・・・・・・・見つけたよ？ちゃんと愛紗の事、この何年
間ずっと・・・・・・・・・・捜してたから」

18話 桃園（後書き）

愛紗に久しぶりに会った空

設定

性郭 名銀 字元

真名空

年齢 18

性別男

髪型 f f 7 のザックスのクラス 2 n d 時代の髪型

武器 干将・莫耶（に似せた双剣）なんの能力もない

能力 ヴィジョンアイ（数秒先を見る事ができる）

備考

基本テンションが高くプレセアいわく知れば知るほど残念な人

たまに自分で作ったミッ〇ーなどを売って生計を建てている本人いわく「いつかデイズ〇ーがせめてくる！！」・・・・・・・・らしい

姓紀 名才 字延

プレセア
真名符連世亜

年齢 16

性別女

髪型 原作と同じ

武器 フォーチューンアックス（空が「やっぱりプレセアはこれ！」
つと言って武器屋に頼んで作って貰ってプレセアにあげた）もちろ
ん能力はない

備考

原作のように無口・・・・・・・・あれ？他に何か言う事が・・・
・ねえっす

19話 俺参上！（前書き）

ミストでバイト決まったので更新が遅れるかも知れませんがど完結を目指して頑張ります！

19話 俺参上！

Side 空

．．．．．ん？なんだ？下から何か声が

愛紗「我ら三人！姓は違えども姉妹の契りを結びしからは！」

鈴々「心を同じくして助け合い皆で力無き人々を救い！」

桃香「同年同月同日に生まれることを得ずとも！」

愛・鈴・桃「」「願わくば同年同月同日に死せんことを！」「」

一刀「乾杯！！」

空「．．．．．え？あれ？．．．愛紗がいるのはわかった．．．でも．．．俺．．．居ないよ？」

いやいや、俺愛紗と何年一緒に居たと思ってるの？なのに何で俺が居ないのにやってるの？しかも一刀君が何当たり前みたいに「乾杯！！」とか言ってるの？

だってあんたさっき此処にきたばかりだよな？何？俺は数時間前に会った一刀に負けたの？俺

空「．．グスツヒグツ．．ズズツ．．．うう」

やばい、泣きそうつか泣く

一刀「ははっ・・・愛紗どうしたの？」

ん？

愛紗「・・・・・・・・・・」

桃香「・・・・・・・・多分愛紗ちゃんはこの場所に呼びたかった人の事を思ってるんだよ」

マジで！？あつ愛紗、まだ俺のごどつ覚えで

一刀「誰？」

俺だ！！

鈴々「・・・・・・・・愛紗の幼なじみなのだ・・・」

一刀「なら何で呼ばないの？・・・ってああそう言う事が・・・ごめん」

鈴々「いいのだ・・・それに愛紗はまだ生きてるって信じてるから」

一刀「そっか」

あの・・・・・・・・生きてますから貴方達の上に居ますから

空「・・・・・・・・よし、感動の再会といこうか」

俺は、桜から降りた

一刀「なんだ!？」

愛紗「・・・・・・・・え?・・・・・・・・どう・・・し・・・て」

空「愛紗・・・・・・・・・・見つけたよ?ちゃんと愛紗の事、この何年間ずっと・・・・・・・・捜してたから」

愛紗が今にも泣きそうな顔をしていた

空「・・・・・・・・愛紗」

俺はゆっくりと歩きながら愛紗のもとに向かった

空「（抱き着こう、今回は下心とかではなくて純粋に力一杯愛紗を「バシン!」ん?」

・・・・・・・・なんで俺ビンタされたの?

空「あの、愛紗さん?何で今俺を叩いたのでしょうか?」

今回はホントに意味がわからない

愛紗「・・・・・・・・別に・・・お前が嫌い・・・・・・・・叩いたのではない・・・・・・・・私が悪いんだ」

空「うん、叩かれたもの何もしないのに」

愛紗「そうじゃない、私はお前を・・・・・・・・見捨て・・・・・・・・た・・・・・・・・んだ・・・・・・・・だから・・・・・・・・駄目だ」

空「……………」バシン！……………ここは普通されるがままにする
でしょ」

また抱き着こうとしたらビンタされた

愛紗「…ヒグッ…だ…め…だあ…」

空「……………」でも、俺は愛紗に会えたからそれでいいと思う」

愛紗「……………」で…も「ギュ」っあ」

今回は成功した

空「似合っていないってわかるけど言わせて？……………」愛紗……………
大好「空さぁくん！……………」

馬鹿！！ホントに馬鹿！！プレセアの馬鹿！！！！

プレ「空さ……………」お取りこみ中でした？」

空「……………」うん、俺の人生で二度くるチャンスの一回目くらい
に（血涙」

プレ「あつごめんない」

キギギッ

愛紗「……………」空、そいつ誰だ？」

さっきまで泣いてたのにこの変わりようしかもなにげに腕に力を込めて・・・いつもの愛紗だ！

空「ええ～・・・命の恩人です」

愛紗「・・・そうなのか？小さい奴」

抱き着いたまま俺の後ろに居るプレセアを見た

プレ「む！確かに貴方に比べれば小さいですけど・・・確かに空さんの命の恩人になってます」

ああ美少女二人が俺を巡って喧嘩を「ギリギリ！」

空「あ・・・愛紗・・・さん・・・腕・・・力・・・腕」

駄目だ・・・単語しか言えない

愛紗「そうだったのか空の命を助けてくれてありがとう、いつかお返しはするからお前はどこかに行け」

ドスの効いた声でプレセアに言った

プレ「別にもうお礼とかどうでもいいんです、ただ空さんと居たいだけなので」

ギリギリ！

空「あ・・・あ・・・い・・・しゃ・・・」

あかん、俺の命が今にも消えそうや 何故か関西弁

愛紗「・・・すまない、正直言おう・・・邪魔だどこかに行け」

ブレ「いやです、なんとわれようと空さんの側に居ます」

ギリ！

空「・・・・・・・・なっなんくるないさあゝ」

・・・・・・・・自分でも何言ったかわからない

桃香「あつ愛紗ちゃん！空君が！危ない感じになってるよ！」

ナイス！桃香！ナイス！

愛紗「・・・桃香様、なんで空の真名を呼んで？」

桃香「え？ああ実は昔に空君に預けてもらって」

へへつと桃香が言っただと同じに俺の意識は途絶えた

30分後

空「いや、ね？・・・限度をしろうよ」

あの後30分くらい気絶していたらしい

星「ははっしかしお主も大変だな」

気絶してる時に来たらしい星

愛紗「・・・・・・・・・・」

ブレ「・・・・・・・・・・」

まだ睨み合う二人

一刀「そろそろやめようよ」

なだめる一刀

桃香「空君！お水持ってきたよ」

介抱してくれる桃香

空「あんがと、ゴキユ・・・・は・・・・美味しい」

されるがままの空

空「・・・・ところで桃香達はこれからどうするの？」

桃香「え〜っと・・・・・・・・どうしよう？」

愛紗「・・・・そうですね、やはりどこかの国に取り入れてもらいそこから上がっていく方が良いのでは？」

桃香「っだ！そっだよ！」

桃香さんは何も考えていなかったんですね

星「なら私が今仕えてる伯珪殿の所に来られるか？」

桃香「伯珪・・・あっ！そういえば白蓮ちゃんがこの辺りに赴任するって言ってたな・・・」

愛紗「真名を知ってる仲で忘れてたのですか？」

そっか桃園の誓いも終わったし次は残念な人の所に行くんだ・・・
ん？

空「・・・ところでプレセア？」

プレ「はい？」

空「俺を一言で表すと何？」

プレ「残念」

今ならわかりますよ公孫贇さん、残念と言われる気持ち

空「なら行こうよ早く、星案内頼める？」

星「ああどうせ私もそろそろ帰らなければならぬからな」

てな事で公孫贇さんの所に向かう事になった

愛紗「紀才少し空と近付きすぎないな？（怒）」

プレ「別に普通ですよ“いままで”だってそうしてきましたから」

愛紗「……………あぁん？（怒）」

プレ「なんですか？（怒）」

空「……………（泣）」

やだ、この二人相性最悪

つか別に手を繋いでる訳でもないしそこまで怒らなくても

空「やめれ？争いは何も生まないよ？」

愛紗「確かに何も生まないかもしれない」

プレ「それでも」

愛・プ「憎い相手を葬る事はできる（できます）」

空「だからやめれ！」

この二人が仲良くなるには何年掛かるのだろうか

19話 俺参上！（後書き）

ホントはこんな感じにするつもりじゃなかったのに

20話 賊は徹底的に潰しましょう(前書き)

ホントにサーセンwww

18 禁な表現が含まれてますwwwwww

20話 賊は徹底的に潰しましょう

公孫賛城

ハム「おおー桃香！久しぶり！元気にしてたか？」

桃香「うん！白蓮ちゃんも元気だった？」

ハム「ああ！……」

桃香「どうしたの？」

ハム「いや、桃香少し待っててくれ……作者、台詞の前の名前の所をちゃんと書いてくれつか書け」

サーセンwww 作者

白蓮「つで、何しにきたんだ？」

桃香「ええっと私達を使ってくれないかなっと思って」

白蓮「は？……ああ……そう言う事が、つまり私を使って大きくなるうと？」

桃香「へっへへっだっ駄目かな？」

白蓮「まあ桃香の頼みだ、とこでその後ろにいる奴らは何なんだ？」

桃香「えつとね？私の仲間なの！っでこっちの男の人は天の御遣い様！」

一刀「どっどうも」

白蓮「ふうんお前が……」

ハムの人が一刀を見ている

白蓮「じゃあその隣に居る奴らは？」

空「俺は、郭銀、字は元でござえます」

ブレ「私は、紀才、字は延です」

白蓮「じゃあお前らが」

空「なに？俺噂にでもなってるの？」

白蓮「ああ確か紀才は『夢みる黒き旅人』だったかな？あと『斧っ娘』

」

まあ俺達も賊退治とかしてたし通り名くらいあっても不思議じゃないか

つかプレセアの通り名原作の称号と同じなんだ

空「っで！？俺の通り名は……！」

どうせならカツコイイのがいいな

白蓮「確か『人形を売るヘタレ』だったか？」

．．．．．うん、わかってたよどうせそんなのだって

空「．．．．．ううゝ．．ヒグッ」

愛紗「大丈夫だ、空の通り名がどんなのだって私は空を見捨てたりしない」

空「あつ愛紗．．．抱きしめてもよかですか」

やっぱり最高だあんた

プレ「空さん、騙されないで下さいその女空さんの好感度上げるために言ってるだけです．．．でも私は空さんがどんな通り名でも嫌いになんかなりませんから．．隣に居る女と違って」

とげがあるでもいいんです、こんな俺を嫌いにならないでいてくれるんだから！

空「プレセア．．．抱きしめてもよかです「何を言う！貴様こそ嘘を言うな！！」「嘘を言ってるのは貴方でしょ？」．．．．．一刀．．殴ってもよかですか？」

一刀「え？やだ」

なんだよ皆！俺はいらない子なんだな！そうなんだろ！

星「なら私の所に来るか？」

そう言いながら星が両手を広げた

空「星さん……ギュ」

抱き着いた

空「（あつ軟らかい）」

あえて何とは言わない

愛紗「空！貴様何してるんだ！！来るなら私の所に来い！！」

ブレ「星さん！貴方も何勝手にやってるんですか！それと来るなら私の所え！！」

桃香「え？え？なっなら私も」

一刀「じゃあ俺も」

白蓮「なら私も」

空「（勝手にダチヨウ倶楽部やってるよ馬鹿三人！！今はこの軟らかいのに包まれてたいんだから！）」

そんな騒ぎが終わるまで1時間掛かったとか掛からなかったとか

S i d e 空

白蓮「はあはあ・・・あゝ疲れた・・・じゃあ早速だが仕事を頼んでいいか？」

桃香「別に大丈夫だよ」

白蓮「実はこの付近に賊の根城があるからその討伐を頼めるか？」

桃香「私はいいけど・・・皆は？」

愛紗「私はそのために居るんですよ？」

鈴々「久しぶりに暴れるのだ！」

ブレ「まあ私に出来る事があるなら」

空「え？何？皆行くの？・・・」

一刀「いや、それで終わり？」

空「だってやだもん、行きたくないも」空さん（ニコッ）「行きます！絶対に行きます！！」

ニコッまでなら「プレセア萌えwww」で終わるけどその後斧だすんだもん、怖いよ

桃香「皆、大丈夫だって！」

白蓮「なら明日の朝までに兵の準備をさせるから今日はもう休んでくれ」

空「じゃ、俺は休むから」

その後メイドさんに部屋を案内された後にすぐに寝た

・・・てかメイドさん萌えｗｗｗｗ

賊根城前

やって来ました賊の根城！つえ？朝の事もちゃんと書けつて？サーセン、何故か書く気になれなかっただけです

空「・・・・・・・・・・帰っていいコッ」・・・・・・・・サーセン・・・・・・・・」

やべｗｗｗｗプレセアの笑顔がｗｗｗｗ怖い

白蓮「とりあえず賊の数が５０００人対してこっちは３０００人・・・・・・・・ちなみに兵法の基本は相手より多くの兵を集める事らしい」

空「伯珪殿、それは自分で墓穴を掘っている事に気付いてる？自分の軍だよ？」

白蓮「・・・・・・・・わかってる・・・・・・・・星なんとかしてくれ」

星「はあ・・・・・・・・確かにこちらの兵の数の方が少ない」

白蓮「星・・・もう私を虐めないでくれ（泣）」

星「しかしそれを率いる将はあちらの比ではない、まあ私を初め愛紗、鈴々、プレセア、そっ・・・これだけの将が居るのです負ける訳がありません」

いや、いいんだよ？自分でもわかってるから・・・でもね？始めっから俺を抜くのはやめて

一刀「まっまあとにかく作戦を決めよ？」

空「（貴方も俺を無視するのですか）」

てな訳で俺以外のメンバーが軍議を始めた

30分後

愛紗「そついじけるな、冗談じゃないか」

ええ軍議終わりましたよ？ホントに俺抜きで

空「・・・・・・・・っで？俺の居ない軍議で何が決まったんですか？関羽將軍」

愛紗「うっ！・・・・・・・・鈴々とプレセアの部隊が先鋒して敵の出鼻を潰

した後私達が敵の根城に潜入して敵の大将の首をとる」

空「・・・・・・・・・・・・・・・・」

愛紗「はあく・・・・そうだ！これが終わったらお前のお願いを一つ聞いてやろう」

空「！！・・・・・・・・なんでも・・・・ですか？」

愛紗「あつああ／＼／」

空「・・・・・・・・死亡フラグじゃない・・・・死亡フラグじゃない」

愛紗「何を言ってるんだ？」

空「いや、それより！約束守れよ！！ぜってえ！！守れよ！！！」

愛紗「あつああ」

フハハハハハ！！！！来たよ！！ついに俺の時代が！！！！

空「郭銀元！真名は空！誠心誠意頑張らせていただきます！！！」

鈴々「じゃ、行ってくるのだ！」

プレ「行って・・・・きます」

空「行つてらっしゃい！くれぐれも気をつけてね！ハハハハ！」

白蓮「・・・何であいつあんな感じになつてゐるんだ？」

星「おおかた愛紗が空に助平くな約束でもしたのだろう」

愛紗「なっ！星！見ていたのか！」

星「・・・すまない、冗談のつもりだったのだが・・・まさかホントに」

愛紗「！！！！／／／／」

空「なあゝにやつてんさ　そろそろ敵の根城に潜入すんぞ」

一刀「・・・ごめん・・・俺お前の事あんまり知らないけどイラッときた」

根城

空「なんだなんだ？　皆元気がないぞお」

愛紗「・・・頼む・・・静かにしてくれ」

空「・・・・・・・・・・」

星「黙るのか」

しっかしどこに居るんだよ大将さんは……まあどうせムサイ男なんだろうけど、それに比べて俺って勝組だよね！美少女二人に挟まれてさ！はは、マジワロスwwww

星「……シッ！……多分この奥に大将が」

おお、いつの間にか『この先にボスが居ますよ』ってくらいの扉が目の前に

空「……よし！行ぞ！」

俺はおもいつきり扉を蹴った

バンッ！！

空「は・か・た・の・塩！！……ん？」

愛紗「此処の大将はどいつだ！！この関雲長が相手だ」

大将「アタイが此処の大将だよ……まさかたった三人で乗り込んで来るとはな」

星「なんだ、女だったのか私はてっきり此処の大将はムサイ男だと……なあ？そっ……空？」

空「あい？（怒）」

星「何故そんなに怒っている？」

空「いや、ね？俺盗賊のしかも女ってさ．．．．大っ嫌いなんだよね！！！」

星「．．．．は？」

空「ホントに嫌いな、ドラクエとかやってるとさ？出て来るんだよ、それがホントにウザイし嫌いな．．．．読者に女盗賊が好きな人がいたらごめんなさい！！でも嫌いなんです！！」

大将「あんた初対面の人に向かって少し失礼じゃ「黙れ！！！」っ！！！」

空「次喋ってみるケ○穴に水を大量に入れて腹がパンパンになった所でケツ○にコルク入れて一週間放置するぞゴラ！！」

大将「ヒイツ！」

大将がお尻の辺りを押さえた

愛紗「そっ空？とにかく今はこの戦闘を何とかしよう」

空「．．．．しかたない．．．おいクソ賊！」

大将「はっ！．．．はい．．．」

空「此処で俺に片方のマツゲを切られるか此処から逃げて真面目に働くかの二択ださあどうする？」

大将「逃げます！そして真面目に働きますから．．．ゆるじでぐだざ．．．ざっ．．．ヒグ．．．ざい」

フハハハハ！それでいい、そしたら全てうまくいく！

大将「みつみんな！…行くよ…ヒッ！…」

最後俺と目を合わせた後に悲鳴をあげて賊はさっていった

空「はあ…フフ、いとワロスｗｗｗｗ…スキリした…
・愛紗、星、帰ろうって何でそんなに離れて？」

5mくらい俺と離れてる

愛紗「いや、別になんでもな…いやなんでもないです」

何故敬語…今まで俺に使った事なんてないじゃん

星「あぁなんでもないぞ…いや、なんでもないです」

いや、貴方は楽しんでるでしょ？顔が笑ってるもの

空「とりあえず帰ろっか」

二人の冷たい視線を浴びながら帰った

20話 賊は徹底的に潰しましょう（後書き）

ホントサーセンwww

21話 合体剣！（前書き）

ごめんなさい

アドベントチルドレン見ちゃいました

21話 合体剣！

二ーハオwww

はい、いきなり意味のわからない事言つてすんまソンwww空です
実は今武器屋に居ます何故かって？それは今日の朝にさかのぼりま
す……

ザックス「……お前にやる……俺の夢や誇り……全部やる」

空「ちよつwwwザックス死ぬなあゝ死んだら死ぬぞwwwつて
今死にそうなのかwww」

ザックス「お前が……生きるんだ……俺の分まで……」

空「ok任せるそんなのは大得意だwww」

ザックス「……」

空「ザックス？おい、ザックスうゝ……プギャーwwwザ
ックス死んじゃた」

空「っは！・・・なんだ夢オチか・・・でもカッコイいな・・・クラウドの合体剣」

いや、ザックスの剣もいいけど俺『アトベントチルドレン』見ちゃたんだもんクラウドマジカッキーし

そして最初の文に戻る訳で

空「っゝ事で店主、今から書く武器作ってくんろ」

店主「んゝ6本で一つの剣なのか・・・まあ時間が掛かるかもしれないがやってみるよ」

さすが職人だぜ、しかしこれで干将・莫耶（に似せた双剣）ともオサラバだバイバイ！双剣！バイバイ！アーチャー！

ぐゝ

空「ふむ、腹が減ったんさ！・・・肉まん買って帰ろう」

腹が減ったらデストロイ！なんて諺があるくらいだしね！

ありがとうございました！

空「やっべｗｗｗｗ肉まん熱いｗｗｗｗ」

勢いよく噛み付くもんじゃないね！肉まん！

空「（どうしよう、クラウドの武器にするからクラウドの髪型にしたほうが・・・ん？」

別になんのへんてつもない曲がり角だが高んだかオモシロそうな臭いが

空「・・・ここで引き下がる空様ではないわ！ｗｗｗｗいざ行かん！」

曲がり角を曲がった

空「（・・・なんだ何も無いじゃ「バンツ！」）ふおっ、壁にぶつかった」

何だよ何も無いよあるのは壁とまな板しか・・・・・・・・ん？

空「（え？もう一回見て見ようええっと・・・・・・・・壁と・・・・・・・・まな板・・・・・・・・）」

壁に背中を合わせながら体育座りをしているまな板な女の子が居た

空「（・・・何？じゃあ今俺が壁にぶつかった所見られたの？（チラッ）」

女の子「……………」

空「（無言だけど明らかに見ている……どうせ笑われるならこつちが笑ってやるう、なんたって壁とまな板のコンビが目の前に居るのだから！）」

そして覚悟を決めて

空「ちよっお前wwwいくら自分の胸がまな板だからって壁とコンビ組むな「ゴン！」あべし！」

石投げられました

女の子「……今ツツコム体力ないんだから私に構わないで」

そう言うത്そっぽを向いてしまった

空「……いや、ただ笑われるくらいなら笑ってやれと思いつい」

女の子「……別に笑わないからどっか行って気が散るから」

空「何？お前“気”とか使える人！？」

女の子「そい言う意味じゃってちよつと近づかないで」

それでも止まらない

女の子「……クン……あっ」

グウ……

女の子のお腹が鳴った

空「・・・何？腹減ってんの？なら肉まん食う？熱いけど」

肉まんを女の子の前にもってきた

女の子「・・・いらない！私は誰の施しも受けない！」

始めて大きな声を聞いた

空「でも腹減ってんなら食べよ、別にその後にお金とか要求とかしないし、肉まん食べよ、熱いけど」

女の子「・・・ホントに・・・いいから」

女の子は俯いてしまった

空「・・・・・・・・・・そおい！！」

俺は女の子の口に無理矢理肉まんを押し込んだ

空「ホラホラ、肉まん食べよ熱いけど」

グリグリ

空「ホントに美味しいから、肉まん食べよ熱いけど」

グリグリ！

鈴々「あっ！！空だけ肉まん食べてるのだ！」

空「いや、別に自分のお金で買ったものだし」

肉まん食べるだけで注意するなよ

鈴々「鈴々も食べたいのだ・・・」

シヨボーンと鈴々の回りで効果音が流れる

空「・・・・・・・・おっ！一刀！ちよっちこっちに」

一刀「ん？何だ？」

空「鈴々、一刀お兄ちゃんが肉まん買ってくれるって」

鈴々「ホントに！？」

ニパーっと笑顔になった

一刀「ちよっ空「さらばじゃ！」あっおい！待てコラ！」

待てと言われて待つ馬鹿は吉本にも居ないんだよ！

空「あゝ落ち着く、ベッドの上マジで落ち着く」

しかし後此処にパソコンがあれば完璧なのに

空「……………しかしあのまな板……………ツンデレなんです
ねわかります」

まだあんまり話してないけど多分あれはツンデレだ！華琳に並ぶ素
質を持っているやもしれん！！なんて恐ろしい子！！

空「……………寝よ」

ごめん今の俺には寝る事しか頭がないんだよ

それでは次回をお楽しみに……………プギャーwww

21話 合体剣！（後書き）

ツンデレな予感！

22話 壁（前書き）

50万PVいったんさ!!

22話 壁

前回のあらすじ

空が夢でザックスに会い「クラウドの合体剣カッキーww」っと思
い武器屋に行って作って貰う事になった

空「あれから五日たったんだ、そろそろ一個くらい出来てるだろ」

よし！いきますか

武器屋

空「店主殿！武器できた？」

店主「まだ一つだけだが、ええっとファースト剣つてのが出来たぜ」

そう言うとおから俺が書いたとおりのファースト剣が

空「おつwwwマジファースト剣じゃんwwwヤツベ、テンション上がるwww」

しかしホントに出来るとは、さすが職人！

空「んじゃ、俺とりあえず帰るわ」

まだできないみたいだしとにかく帰る

曲がり角

空「・・・・・・・・しかし俺は曲がり角に縁でもあるのかよ」

また曲がり角に来てしまった

空「まあ、ちよつと見て行きますか」

また俺は曲がり角を曲がった

空「ん・・・・・・・・おっ！いたいた・・・・・・・・」

居たは居たけどなんだか五日前に比べて痩せてるみたいだ

空「あ・・・・・・・・大丈夫？」

女の子「・・・・・・・・微妙・・」

なんだか今にも消えそうな声な訳で

空「・・・・・・・・なんか食いに行こうよ・・・・・・・・おごるから」

女の子「・・・・・・・・ホントに・・いいから」

空「いやいや、産まれたての小鹿でも今のお前に比べれば元気だぞ？」

女の子「・・・小鹿と一緒にしないで・・・」

どんだけ頑固だよ

空「いいから来いよ、そのままじゃ死ぬぞ？いやマジで」

女の子「・・・わかってる・・・わかってるけど・・・」

空「何でそこまで拒むんだよ？・・・何か理由あるの？」

女の子「・・・昔ね？私両親に捨てられて此処でどうしようか考えてたの、そしたらあんたみたいなやつが来たの」

空「わかった！つまりそいつに襲われて「ないわよ」・・・ならなん
で」

女の子「そいつにご飯とか食べさせてもらってさ、しまいには家にまで呼んでくれて・・・それで私あいつの事好きになって」

空「別にいいじゃん相手も絶対脈ありだよ」

女の子「・・・でも相手も多分それに気付いたんだと思うんだ・・・
・それであいつは私を避け始めたんだ」

空「なんで？」

女の子「多分あいつは私っていう不幸な女の子を助けてる自分に惚れてたんだよ・・・それなのに私はあいつを好きに・・・なっちゃ
って・・・あいつはそれがうっとおしいみたいで・・・それで私

はまた此処にまた居るみたいな」

涙こそ出てないけどなんだか辛そうな顔

空「あゝ．．．（どうしよう、こんな空気がないのに）」

女の子「．．．．．」

やっべ．．．泣きそう

空「．．．．．そだ！．．」

S i d e 女の子

空「．．．．．そだ！．．」

そう言つと男は去つて行つた

女の子「（行っちゃったか．．．まあ私から言つたんだから当たり前か）」

．．．私は少し眠くなって目を閉じた

ユサユサ

ん？

女の子「・・・何？」

さっきの男が袋いっぱい肉まんが入った袋を持って帰ってきた

女の子「・・・だから私は誰の施しも受けないって言ったでしょ？」

空「誰がテメエにやるって言った、俺最近此处で仕事する事になったから肉まん食べながら街を見て回ろうと思っただけさね」

女の子「なら早くどこかに行つて・・・」

自分でもいやになる多分こいつは昔にあったあいつと違つてわかつてるけど自然と拒む

空「うん、行くよ？でも俺父さんに知らない所に一人で行ったら筋肉の悪魔が来るから一人で知らない所に行くなんて言われてるんだ」

女の子「・・・だから？」

空「ついて来い！報酬として肉まんやるから」

そう言つて肉まんを一つの私に差し出してきた

女の子「・・・だから私は「あつ！言つとくけどこれは仕事だから、変な場所に連れてつたらしょうちしないぞ」・・・」

空「そうだな、もし俺の気に喰わない場所に連れてつたら無理矢理肉まん食べさせてやる、もちろん熱々の」

女の子「……バカでしょ？自分の為にならないのに」

空「……昔にさ、凄くご飯を美味しそうに食べる子が居たんだよ、あれはホントに可愛かったなあゝ食べてる姿」

女の子「……それが？」

空「いや、お前がどんな顔で肉まん食べるのか見たくつてさ」

女の子「……ありがとう」

なんだか久しぶりに笑った気がする

Side 空

あの後女の子に街を案内してもらったけどまさか持ってた肉まん15個があんなにすぐに無くなるとは、どんだけ腹減ってたんだよ！

ちなみに今は公孫賛の城の中に居るよ

ブレ「……なんだか空さんと久しぶりに話した気がします」

空「そう？てかそんな事よりどう！？この剣！カッコキくね？」

プレ「はい、カッコイイですね」感情の籠ってない声

空「ホントはあと5本いるんだけどな」

プレ「今の武器はどうするんですか？」

空「んゝ・・・・・・・・捨てよ」

プレ「え！そんな簡単に！？」

空「人は常に別れと再開の輪の中で生きてるんだよって今俺いい事言った！」

星「空！空に客人が来てるぞ」

空「・・・・・・・・誰？」

星「さあゝ可愛いらしい女の子だったか」

あいつか？まあとにかく行ってみるか

ガチャ

空「ねえ？俺に客人・・・・・・・・やっぱりお前か」

やっぱりあの女の子だった

女の子「あつあの！・・・お願いします！私を雇って下さい！！」

いきなり頭を下げられた

空「・・・伯珪殿！そう言ってますが」

白蓮「いや、お前に言ってるだろ」

空「・・・何？まずで？」

女の子「は・・・はい、お願いします！！」

また下げた

空「・・・いや、なんで？甲斐性ないよ？俺、仕えるなら一刀とかにしろよ」

女の子「あなたがいいんです！」

一刀「ほら、女の子もそう言ってるんだしさ」

空「あゝ・・・なら、よろしく俺の名前は郭銀、字は元、真名は空だよ」

女の子「あの、私名前を捨てたんです、だから空様が付けてください」

空「わかった、けどとりあえず喋り方と名前の呼び方を前みたいにして？なんだか慣れてないからさ」

女の子「は、はい」

空「ん〜じゃあ『モモ』お前の真名はモモな」

モモ「は、じゃなくて、うん」

空「これにて一見落「空？」……………」

なんだろう、体が自然と震える

愛紗「なんなんだ？その女は」

あれ？なんだか前にも同じ事があつたような

空「いや、ただ曲がり角を曲がったら出会ったみたいなの？」

愛紗「……………そんなに“壁”がいいのか？」

モ・プ「壁って私の事ですか？（怒）」「」

愛紗「この場にお前らしいないだろ？」

ブレ「空さんはこれくらいの謹みある胸の方がいいんです」

愛紗「いや、空は昔頃から大きいのが好きなんだ」

モモ「ただデカイだけの胸になんの意味があるんですか？」

空「（俺終了な予感）」

逃げよ

ガシッ！×3

愛紗「空は大きい方がいいだろ？（笑顔）」

モ・プ「ひかえめな方がいいですよね？（笑顔）」

空「ええつと大きい胸には夢がいっぱい詰まってて小さい胸は夢を
あたえきつた結果な訳でどちらも大好きです！！」

愛・プ・モ「……………ニコッ」「」

あつ俺終了のお知らせ

22話 壁（後書き）

どちらも大好きです！

プレゼン日記(前書き)

短い

プレセア日記

はじめまして・・・プレセアです

今日は皆さんに私が書いてきた日記を見てもらいたいと・・・思
います

○月×日

今日は、空さんに部下ができました・・・気に食わない女です、
仲良くしていく自信がありません

○月×日

空さんの武器が届きました、空さんは「やっべ、マジでやっべww
ww俺リアルクラウドじゃんwwwwセフィロスはどこじゃwwww」
っと楽しそうなので私も楽しいです

○月£日

空さんが料理を作っていました、なんでも『おでん』と言う食べ物だ
そうです、それを城の皆に食べさせてくれました、美味しいです、
そして空さんは新人のモモにおでんを食べさせようとしていた事に
殺意が湧きましたけどすぐになくなりました

空「モモ？何が食べたい？」

モモ「食べさせてくれるの？・・・なっなら大根貰おうかな／／／

／
」

空「ホホオ、大根を選ぶとは・・・よし、モモ！はい、口開けて」

モモ「うつうん／／・・・あ、」ベチヨ」！！、あつつう！
！何するんですか！！」

空「フヒヒｗｗｗｗリアルダチョウ倶楽部ｗｗｗｗ」

その後モモにおでんの汁をかけられてる空さんが居ました

○月 日

今日の空さんは様子がおかしかったです

空「ああああ！！左手が！！！！ああああ！！」

桃香「空君！！大丈夫！？どうしたの！？」

空「桃香！来ちゃ駄目だ！！」

モミモミ おっぱいを掴む音

空「うわあ、左手が勝手に」 棒読み

その後愛紗さんが空さんに昨日の残りのおでんの汁をかけられてました

○月 日

今日は愛紗さんが賊退治に行きました

愛紗「空、行ってくる」

空「愛紗待つて、これを持っていけ！」

愛紗「これは？」

空「“糸電話”と言ってな、これで俺達はいつでも繋がっているぞ！」

愛紗「・・・空・・・ああ！行つて来る！」

数秒後にちぎれる絆でした

○月○日

今日は皆で河に遊びに行きました

空「それじゃ皆は“これ”に着替えてきて」

ブレ「“これ”は何ですか？」

空「それは水着と言って水の中で着ていい服とでも思ってもらえばいいよ、なお製作は一刀と空です」

30分後

愛紗「これでいいのか？」

星「ハハハツなかなか似合ってるじゃないか愛紗」

桃香「んゝちよつと胸の部分がきついかな？」

空「・・・・・・とりあえず一刀君」

一刀「ああ」

空・一「「ごちそうさまでした！！（鼻血）」

プレ「・・・・鼻血でてますよ？」

モモ「というか、なんで私とプレセアと公孫賛さんの水着が同じなんでしょうか」

白蓮「そうだ！この二人のくくりならわかるが何で私まで同じ水着なんだ！！」

空「ならまずモモの質問だが、プレセアとモモは1番それが似合うと思ったからだよ、ホントに似合ってる（ニコッ）」

一刀「空、まだ鼻血でてる」

空「おふっ」

白蓮「私の質問がまだだぞ！」

一刀「空と話した結果、公孫賛は多分どんな水着でもふつゝに！似合うと思ったからふつゝに！それにしました」

白蓮「普通って言うな!!」

帰り道

空「いやゝホントに楽しかった!」

愛紗「ああ、そうだな」

空「……でも、今度は二人だけで来ような」

愛紗「え!?!?……ああ!」

空「そしてその時には“貝ビキニ”を着てほしい」

愛紗「……ああ／＼／」

貝ビキニが何かわかりませんが愛紗さんが後に恥ずかしい事になる
んだろうな、と思いました

○月 日

今日は空さんが休みの日なので付けてみる事にした

朝

空「あゝ……暇だな……メイド服もモモの分作っちゃっ
たしなゝ……街に出よう」

独り言を言った後街に出て行った

空「ふわふわタイム ふわふわタイム お！ネコだ！．．．ほら
ほら、おいでよ悪いようにわしねえからよ．．．グヘヘヘ」

ネコに絡む

昼食後

空「麻婆豆腐はもう少し辛い方がいいな．．．．．な！なんだ！
？おっちゃん！なんだよこれ！？」

おっちゃん「お目が高い！なんでもこれを飲んだ者はモテモテで
しかたないって代物だ」

空「なんと！これを使えば夢にまで見たハーレムが．．．．．
グヘヘヘ」

あきらかなまがい物を買わされる

空「．．．．．「うごごごおおー！！」（泣）」

．．．．．迷子になる、楽しいので放置

空「ヒッグ．．．エッグ．．．あつ鳩だ！待って」

鳩を追いかけはじめた、楽しいので放置

空「おおー鳩スゲエな！街に着いたぞ！．．．．．あつ蝶々だ！待
って」

10分後

空「ヒッグ・・・ぐぐぐぐ」

また迷子になる、もちろん楽しいので放置

空「やっぱり鳩だな、ちゃんと街まで戻れたもの・・・おっモモ！何してんの？」

モモ「下着を買いに行こうと思って」

空「ん~~~~~」

モモ「なっ何？」

空「モモにはまだ必要じゃないんじゃない？」

・・・モモに半殺しにされる

城

空「・・・痛い・・・あつ、一刀お〜！

一刀「ん？・・・！！・・・空、どうしたんだよ」

空「なに、真実つてのはわかってても喋っちゃいけないって体でわかった所なんだよ」

一刀「そう、まあ頑張れよ」

空「うん．．．．それより暇なら今から新作衣装の計画でも建てようぜ」

一刀「っお！それいいな！なら今から俺の部屋に來いよ」

．．．．これから先は見てはいけないと思い尾行を中止した．．．．
空さん、貴方がどんな趣味を持っても嫌ったりしませんから

23話 初陣（前書き）

駄文！・・・今更だけど

23話 初陣

軍議

はい、今軍議をしていますでもまだ一刀がないので始まってない

モモ「・・・遅いですね、一刀さん」

空「どうせ女の子と夜遅くまでパソコンパソコンしてたんだろ」

プレ「・・・不潔です」

空「よし！ならプレセア、一刀が来たら大声で言ってやれ」

ガチャ

一刀「ごめん遅くなった」

プレ「不潔です！！あと変態！！」

変態の部分は俺が言わせますたwww

一刀「なんで!?!」

白蓮「・・・始めるぞ、この前朝廷より使者が来たのは知っているな?」

一刀「・・・たしか黄巾党を討伐しろってやつだろ?」

開き直りやがった

まあこのあと原作の通り公孫賛が俺達を追い出した、まあ代わりに六千人くらいの人頂いたけどねwwwさすが徳の劉備

空「つで星はどうすんの？公孫賛の所に居るの？」

星「ああもう少し居ようと思ってるがいずれは出ていくぞ」

一刀「じゃあ星が伯珪の下を去ときが来たら・・・俺たちのところに来てくれないか？」

星「ふむ・・・それもまた、一つの道なのかも知れない・・・しかし、自分の道は自分で見つけたいと私はそう思うのですよ」

空「てか、ホントに来てくんない？このままじゃこの軍のヒンヌー率が上がってやばい事になっちゃうし」

星「フフ、まあ機会があれば、な？」

そう言つて星は去っていった

空「・・・フラれてやんのwww」

一刀「・・・いや、お前もだろ」

空「一」「・・・」「」

愛紗「しかし……これからどうしましょうか」

鈴々「黄巾党を探し出して、片っ端からやっつけるのだ！」

桃香「はは、それじゃさすがにだめだよ……ご主人様？空君？
どうしたの？」

空「……別に……」 沢尻エリカ風

一刀「……古いよ……てかお前実は現代人だろ」

空「……」

一刀「おい、」

??「あつあのー！しゅみましえん！あつ噛んじやった」

愛紗「ん？どこからか声が」

??「あ、あのー！ここっここちです」

桃香「ホント！どこからだろ」

??「あっあわわ」

鈴々「二人ともひどいのだ！」

空「・・・とこの吉本だよ、ってお前は!!」

??「え?・・・あわわ! なな何で空さんが此処に?」

空「ほら、愛紗忘れてた? あわわだよ!」

愛紗「・・・ああ、空が私達の路銀を使ってまで気を引こうとした“あの子”か」

まだ根に持ってたんですね

空「あの時はホントに悪かったって、でも髪止め贈っただろ? だからあの時の事は、さ?」

愛紗「・・・そこまで言うなら」

ブレ「イチャイチャしてる所悪いんですが話を進めていいですか? (怒)」

空「ごめん、っで何で雛里が居るの?」

雛里「はい、あの私達力の無人達を助けようと思って私塾を飛び出して来たんです」

朱里「だけど私達には力がなくて・・・そこで劉備様のお話を聞いて、どうか私達を貴方様に仕えさせてもらえないでしょうか」

桃香「ん? どうでしょうか? ご主人様?」

一刀「そうだなゝ．．．でもやつぱり」

空「一刀、この子達を仲間に入れて損はないぞ、むしろプラスになる」

一刀「．．．今プラスって「今それ重要？」．．．空がそこまで言うなら．．．よろしく、俺は北郷一刀」

朱里「はい！私は諸葛亮、字は孔明、真名は朱里です！」

雛里「わつ私は鳳統、字は土元、真名は雛里です」

一刀「え！？孔明って！」

案の定、一刀が驚いてる

桃香「なら次は私ね？私は劉備、字は玄德、真名は桃香だよ！」

面倒臭いので自己紹介省略

空「じゃ、これからどうする？」

桃香「ええゝ．．．朱里ちゃん、どうしましょう」

朱里に縋り付く我らが君主

朱里「そうですね、私達の勢力、他の黄巾党征伐に乗り出している諸侯に比べると極小でしかありません」

朱里「今は黄巾党の中でも小さな部隊を相手に勝利を積み重ね、名

を高める事が重要だと思えます」

愛紗「敵を選べと言うのか？」

愛紗が朱里を睨むように言った

空「愛紗さん、そんなちっさい子を睨むなよ」

愛紗「別に睨んでなどいない・・・ただそういった事はいささか卑怯ではないかと」

一刀「でも今の俺達が大きな勢力に挑んだ所で勝てる見込みなんてないんだからしかたないよ」

空「命あつての物だしな」

愛紗「・・・わかった」

ブレ「ならこれからの活動方針は小さな敵を倒していく、つとこと」

・・・なんだかはつきり言われると弱い者イジメしに行くみたいでやだな

一刀「それじゃ、出発するか！」

・・・なんでお前がリーダーみたいな事言つて、つてお前もリーダーだったね」

一刀「・・・途中から声に出てたぞ」

空「なんと！」

とにかく出発

七日後

空「……………モモ、お茶」

モモ「はい、どうぞ」

ちなみにモモの仕事は俺のお世話係

一刀「何、お茶飲んでんだよ」

空「お前だってさっきまで『いい天気だなあ』って言ってたじゃん」

一刀「いや、どうにも実感が無くてなあ……………」

朱里「でも、変に鯨張っているよりも、今みたいにのんびりとしてる方が良いと思います」

一刀「……………居たんだ」

朱里「はい、ずっと」

あつそれ絶望先生で聞いた事ある

兵「失礼します！ここより前方五里のところに、黄巾党とおぼしき集団が陣を構えております！その数、約一万！」

空「ワオォ・・・たいへんだ」

一刀「危機感を全く感じないセリフをありがとう」

雛里「あっあの」

空「雛リンどうした」

雛里「だ、だいじょうぶです、きっと勝てますから・・・」

空「さすが雛リン！愛して「ジャキ！」・・・居たんだ」

プレ「はい、ずっと・・・というか皆います」

あつホントだ皆いる（泣）

一刀「・・・まあとにかく、雛里、どうやって勝の？」

雛里「はい！えつとですね、伝令さんが言うには、敵軍は五里先に陣を構えているとのことですが、これより五里先というのは、兵法で言う衝地となっています」

鈴々「くちー？なんなのだ、それ」

空「……………」

一刀「どうした、空？」

空「いや、パソコンで見たとおりの現場が再現されてる事に感動を」

一刀「……………今、パソコンって「今それが重要か？」……………わりと」

朱里「まず第一は、敵を陣地から引っ張り出すこと」

あつ俺達抜きで話が進んでる

雛里「その後野戦に持ち込むこと、……………ただし平地で対峙してはいけないこと」

朱里「数で負けているなら、数で負けない状況を作り出せば良いんです」

空「……………ギャップ萌え」

こんなに小さいのに頭いいとか

愛紗「……………真面目にやれ」

空「サーセンｗｗｗｗｗｗ」

愛紗「……………」

無視された

空「シクシク、シクシク」

プレ「空さん」

空「プレセア」

やっぱりプレセアは優し・・・

プレ「作戦決まったので動いて下さい・・・邪魔です」

・・・その『邪魔です』までの間が1番心にきます

モモ「空さんは愛紗さんと一緒に前衛だそうです」

空「・・・あい」

皆冷たいよ

出陣

そこらじゅうで罵倒の声が聞こえる中我らが主人公は

空「どけやボケ！つか死ぬ！ハハッ見る人がゴミのようだ！..」

主人公も混ざってました

空「今の俺は皆に冷たくされて機嫌が悪いんじゃないやああ！！！」

黄巾党「意味わかんねえこと言ってるじゃ」「ブシャ！」「ぐあ！」

空「馬鹿野郎！体で感じるんだ！ハハツワロスｗｗｗｗ」

黄巾党「ばっ化け物だ！につ逃げ」「グシャ」「うわ！」

空「誰が化け物だ！あつ俺かｗｗｗｗｗｗ」

黄巾党「うわあああああ！！！」

空「ハハツ待てよこの」

ブシャ

空「破滅の呪文を唱えるぞ」

ザシュ！ボキッ！

空「パル」「空、そろそろ引くぞ・・・二つの意味で」「ス・・・しかたない、引くか・・・一つの意味で」

せっかく楽しくなってきたのに

まあその後合流地点に集合して黄巾党を倒してめでたしめでたし・・・
・・・でも何故か合流してからは戦はせてくれなかった・・・
・・・最初のがマズかったかなあ

「一刀……お疲れ様」

空「ホントにそう思ってるならもう少し近付こうよ」

5 mくらい離れてる

一刀「・・・いや、返り血がハンパなくて・・・どこぞのヤンデレなんて目じゃないくらいに」

よく見てみると全身真っ赤だった

空「……一刀お兄ちゃんがいけないんだよ？他の女の子と一緒にいるから」

どうせならやってみる事にした

一刀「ごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんなさい」

・
・
・
・
効果覲面だった

桃香「空君、ってどうしたのその返り血！？あとご主人様どうしたの？」

空「一刀の事は気にしないでそれよりどうした？」

桃香「あつうん、なんだかよくわからないけど他の軍の人達が来るからご主人様と空君を探してたの」

・・・・・ん？

空「まつまさか旗は曹だった？」

桃香「うん、何で知ってるのって空君何処に行くの！？」

空「おお俺、よよ用事を思い出したから俺抜きで始めて「へゝ貴方この軍に居たの」・・・・・おっお久しぶりです曹操様」

いやな人あつちまつたぜ

23話 初陣（後書き）

久しぶりの鬼畜です

24話 血だらけ（前書き）

まだ、ドロドロにはならないっす！

24話 血だらけ

前回のあらすじ

空が鬼畜に捕まりました。

空「お久しぶりです、華琳さん」

華琳「ええ、久しぶりねホントに」

空「……とりあえず首筋に絶をかざすのをやめてもらえないでしょうか？」

実はさつきから俺は四つん這いをして、その上に華琳が乗りながら首筋に鎌を当てられてます

華琳「いやよ、首が撥ねられないじゃない」

空「何か私悪い事をしたでしょうか？」

華琳「……わかってて私達に服を送ったでしょ？（ニコッ）」

空「そんな、まさか……」

華琳「プレセアどうなの？」

プレ「城を出た後凄い笑顔でした」

空「……居たんだ（泣）」

プレ「はい、ずっと」

流行ってるの？それ

愛紗「デリヤアアアア！」

愛紗が華琳に向かって青龍偃月刀を振りかざしたって何処から出てきた！

春蘭「くっ！貴様！華琳様に向かって剣を向けるなど！」

愛紗「うるさい！大事な幼なじみが今にも殺されそうなんだ！じっとしてなんかいられるか！」

華琳「・・・・あれが貴方が探してた人？」

空「・・・・お恥ずかしながら・・・・空気読もうよ、愛紗」

まあそこがいい所でもあるんだけど

華琳「はあ・・・・・・静まれ！！！」

二人ともその声で止まった

華琳「まったく、空！ここの大將は誰？」

あつやつと降りてくれた

空「んゝ一刀か、桃香っあ、劉備かな？」

華琳「そう……なら貴方が劉備？」

桃香「は、はい」

華琳「劉備、あなたの目指すものは何？」

桃香「……私は、この大陸を誰しもが笑顔で過ごせる平和な国にしたい」

華琳「……それがあなたの理想なのね？」

桃香「そのためには誰にも負けない。誰にも負けられないって。そう思ってる」

華琳「そう、わかったわ……ならば劉備よ！平和を乱す元凶である黄巾党をせん滅するために、今は私に力を貸しなさい、今のあなたに独力でこの乱を鎮める力はないでしょう？ただ今は一刻も早く暴徒を鎮圧することこそが大事。……違つかしら？」

空「フヒヒｗｗｗｗ真面目な話ししてるｗｗｗｗｗｗ」

モモ「空さん、空気呼んで」

桃香「……はい、わかりました」

という訳で華琳と黄巾党討伐の少しの間共同前線する事になった

桃香「・・・・・・はあく緊張した」

雛里「はい、凄い覇気でした」

空「そう？ただのツンデレだぞ？」

一刀「いやいや、俺でも凄いつて思ったから」

空「・・・・・・一刀、復活したんだ」

愛紗「それより空、お前曹操と知り合いなのか？」

空「うん、愛紗と離れた後にプレセアの家で厄介になったんだ、その後プレセアと愛紗と一緒に探してる時に」

愛紗「そ、そうだったのか／＼・・・・私を探して／＼」

なんがか照れてるみたいだおｗｗｗｗｗｗ

曹操サイド

桂花「お帰りなさいませ、華琳様！」

華琳「ええ、ただいま桂花」

秋蘭「華琳様、劉備軍はどうでしたか？」

華琳「空が居たわ」

秋蘭「劉備軍にですか？」

華琳「ええ、幼なじみが居るからだそうよ」

秋蘭「そうですか………ところで何で姉者はさつきから暴れているんです？」

実はさつきから春蘭が誰も居ない場所を切ったりしている

華琳「……空の幼なじみと鏑ぜり合いになって気持ちが高ぶってきた時に私が止めたからイライラしてるんですよ」

春蘭「ああ！！もう！誰でもいい！私にかかって来い！」

秋蘭「姉者！誰彼かまわずケンカを売るな」

華琳「しかたないわね、春蘭！今日閨に呼んであげるから静まりなさい」

春蘭「はい！！」

桂花「なっ！華琳様！私もどうか閨に！」

春蘭「貴様！呼ばれたのは私だ！お前は黙ってる！」

秋蘭「ハハッ……華琳様、どうかしました？」

華琳「……空の幼なじみ、欲しいわ」

秋蘭「そんなによかったのですか？」

華琳「ええ、とつても」

そう言つて華琳はニヤリと笑つた

Side 空

空「どうしよう、血が固まってきてゴーレムみたいになってきたんですけど」

全身返り血を浴びたから動くのもつらく

愛紗「大丈夫か？それは大変だな！私が洗つてやる、かせ！」

ブレ「駄目です、そろそろ私も空さんの好感度上げとかないと攻略が難しくなるので」

モモ「それを言うなら私だつて！」

テメエゝらな？あんたらにとって俺はギャルゲーのヒロインかなにかなのか！

空「．．．誰でもいいから洗うの手伝って．．．って聞いちゃいねえ．．．」

俺が話しかけても三人でやんや、やんややってて聞こえてないみたいだ

空「・・・お前から最近友達から貰ったポケモン並に言う事聞かないなｗｗｗｗｗｗ・・・だから笑い事じゃないんだって・・・」

一刀手伝つてくんろ「

「さーじーさー・・・ごめんなさいごめんなさいごめんな
さいごめんなさいごめんなさいごめんなさいごめんな
さい」

駄目だ、まだ心にトラウマとして残ってる

空「……雛リン、朱里、手伝って」

朱里「雛里ちゃん！ご主人様×空さんだよ！」

雛里「ボー……あっあわわ！だっ駄目だよ朱里ちゃん！しっ刺
激が」

想像したのかな？ 雛リン？ マジ勘弁、ちよつとだけ想像した

空「……桃香、鈴々、洗うの手伝って」

鈴々「いや、絶対に今日は肉まんがいいのだ！」

桃香「最近そればかりで飽きたの！たまにはあんまんがいい！」

はなから興味ナツシングですか

空「……最近みんなホントに冷たいよね？……あつ俺だけにか……グスッ」

空は川に一人で洗濯に行きました

……モモが血だらけで流れてきたけど無視した

空「……モモは普通のなんだから愛紗やプレセアに勝負挑んだら負けるに決まってるでしょ？」

空はひたすら川で洗濯をしましたとき、おしまい

24話 血だらけ（後書き）

まだ小説は続きます

あと萌将伝発売したよ！・・・でも金欠で買えなかった・・・
・・・てか年齢引っ掛かるWWW

25話 企画（前書き）

こんなの空じゃない

25話 企画

華琳と共同前線を始めて黄巾の乱が平定。劉備は平原の相に任命された……。ごめんなさい！黄巾の乱書くのだるす！……。・サーセンｗｗｗ

空「……。すう……。すう……。」

ガチャ

モモ「失礼しまあ。空さん、軍儀だから早く起きて」

空「……。すう……。フへへｗｗｗｗ愛紗がデレエータア。ｗｗｗｗ。すう」

モモ「……。早く起きてください」

モモは空の行動事態に慣れてきたらしい

空「……。テメエは俺を怒らせたｗｗｗｗつて笑いながら言う事じゃねえよｗｗｗｗ。すう……。すう「バコッ！」おふっ！何をする！」

モモ「そろそろ鬱陶しい……。そろそろ時間なので起こしただけよ」

モモ反抗期ｗｗｗ

軍儀

空「おは！……何故に星が此処に？」

部屋に入ると皆とメンマの人が居た

星「何、いましがた私も仲間になったとこだ」

ああ、もうそんな時期だったんですね？

ならそろそろ反董卓連合があるのか

桃香「じゃあ、空君も来た事だし軍儀を始めます！」

軍儀終了

朱里「では他に何かなければ終了と」はい！一つ報告がありますですww「なら空さんどうぞ」

空「うい！ええ！先日設置した目安箱に投稿があったので発表したと思います！」

星「主、目安箱とは？」

一刀「えつと町民の不満や意見を紙に書いて投稿してもらってその要望に出来る限り答えていくってもの」

星「ほおゝそのような物が」

空「それでは！・・・皆さん！始めまして！『空ラジオ』の空です！そして記念すべき最初のゲストは『斧っ子』の称号をもつロリィイイイイイタ！プレセアさん！どうぞ！」

プレ「・・・プレセアです」

空「はい、じゃあ今週の一通目『南口の治安が悪いです、なんとかしてください』そうですねゝ・・・自分でやれwwwwwww」

星「・・・自分で出来ないから投稿してるのでわ？」

プレ「それでは二通目『たまに城から「かゝめゝはゝめゝ波wwwww」つと聞こえます、迷惑です』との事ですが・・・空さん、両手で顔を押さえてないで答を」

空「・・・まさか聞かれてたとは・・・大丈夫です、明日から聞こえませんか」

愛紗「・・・まあお前だからな」

空「・・・続いて三通目・・・です・・・『関羽様もやっぱりオナ〇ーをす「ドコッ！バキッ」待って！俺じゃないって！！町民！町民の誰かだよ！！」

愛紗「知るか！今は無性に誰かを殴りたい気分なんだ！！」

雛里「あわわ！……ん？ご主人様？凄い汗ですよ？」

一刀「えっ！？そうかな？（ごめん空、まさか読まれると思ってなくて！）」

犯人は一刀でした

プレ「……進めます、四通目です『関羽様の胸のサイズを教えてください』だそうです」

愛紗「……一応聞こう、誰だ」

ずっと俺を睨みながら言ってくる

プレ「……あつ、名前の所に『一刀』って書いてあります」

愛紗「ご主人様あああ！！」

一刀「ギャアアア！！待って！俺じゃない！断じて違う！！」

空「（ごめん、一刀………それ俺wwwwww）」

どっちもどっちだったwwwwww

空「それでは『空ラジオ』でしたあゝバイバイ」

合計で80通くらいあつて30通が真面目な話して残りの50通がうちの将の事だった……マジで死ぬ

一刀「……………空」

空「……………一刀」

空・一「目安箱廃止しよう」

たった数日で目安箱は終了した

朱里「それでは軍儀を終了します」

一刀の部屋

空「……………お前さ、あんなストレートな質問やめろよな？おかげで寿命が何年縮まったか！」

一刀「いやいや、お前のもなかなかにえげつないぞ？俺の名前書いてたじゃん」

空「……………だって後が怖いんだもん……………じゃあゝ次は何にする？」

実は目安箱の案は一刀と空が考えて出した提案だった

一刀「んゝ温泉……とか」

空「……温泉……ですか……温泉から繋がるキーワードを述べよ!!」

一刀「はい! 混浴! 女体! 全裸! ムフフ! 女体! です!!」

空「そうです! 温泉とは! つまり裸の付き合いつまり! 産まれたまま姿で入るのが普通! さあ、ムフフな展開が臭ってきましたね?」

一刀「はい!」

空「と言う訳で! 空と一刀計画! 第二弾は『温泉(混浴で女の子裸が見たいんじゃ!)』編、スタートです!!」

軍儀

雛里「そっそれでは軍儀を終了しま! 雛リンちよつとまつた! 俺と一刀から一つ提案が!」どっどろぞ

一刀「ええゝつと皆は最近目に見えて疲れてます、それもそのはず、だって俺達今までこんなに大きな仕事なんてした事ないからね?」

空「だから、俺達から“温泉”をプレゼントしたいと思います」

桃香「え？でも皆で行ったら仕事が」

桃香が首を傾げた

空「大丈夫です、俺達がここ何週間の間に皆の仕事を俺達二人が頑張ってやったので一日くらい休んでも大丈夫なのです」

愛紗「・・・どうりで最近サボってないと思ったたらそう言う事が」

愛紗が冷やかな目で俺達を

一刀「とつとにかく！行こうよ！皆でさ？実はもう宿とつてあるんだ」

鈴々「鈴々は温泉行きたいのだ！」

鈴々が跳びはねりながら言ってきた

朱里「・・・そうですね、たしかに桃香様達の疲れは目に見えてましたからいい機会かもれませんね」

ナイス！朱里！さすが軍師！

ブレ「私も・・・行きたいです」

モモ「私も行っているの？」

一刀「大丈夫！元々誘うつもりだったから！」

まな板二人はワイワイと喜んでる

空「なら決定だな！それじゃ、出発！」

旅館

空「やつてきましたた！温泉！……店主、こっちえ」

店主「はい、」

空「店主さんよぉー今日は高い金払ってるんだから……わか
ってるよね？」

店主「もちろんです、温泉の事は任せてください」

店主が凄く意味ありげな笑みをみせた

一刀「空！そろそろ皆温泉に行くって！」

空「おっしやぁぁー！！なら店主！予定どうり」

店主「はい、私はこれにて」

シュバツ！

忍者の如く姿を消した

一刀「空、大丈夫なんだろうな？」

空「まかされよ」

温泉前

桃香「皆！早くうゝ！」

愛紗「待ってください、温泉は逃げませんから」

鈴々「でも早く入りたいのだ！」

桃香と鈴々は早く温泉に入りたくて仕方ないらしい

星「……………」

ブレ「星さん……………どうかしました？」

星「いや、何……………主達がどのような助平えゝな事を仕掛けてくるのかと」

プレ「・・・・・・・・・・」

星「否定できない所がづらいな！」

一物の不安がよぎってきたプレセアなのでした

空「（店主、そろそろ仕掛けてくれないと温泉についてしまっぞ！）

一刀「・・・・大丈夫なのか？店主は？」

空「多分な、つと噂をすれば」

先に行っている桃香達に店主が話してるようだ

店主「まことに申し訳ありません、今ちょうど女風呂と男風呂が故障していて“混浴”しか開いてないんですよ」

空「ー」「（じっ・・・・強引だああああ！！だけどそこに痺れる憧れるうゝ！）」「

桃香「そっかあゝなら仕方ないね！早く入ろ！」

愛紗「待ってください！一つだけ確認を・・・・空、ご主人様、まさかこの件に何か係わってないだろうな？」

空「まさか！（キラッ）」

一刀「そうだよ！それより早く入ろつか、混浴に！（キラッ）」

女将「ああ、お客様今お風呂直りましたのでどうぞ」

空「一・店」「」（なっなんだとおおおおお！！まさかの新勢力か！！）」「」

愛紗「おお、そうか！なら桃香様、皆、入ろうか」

そしてみんな女風呂に入っっていた

星「・・・・・・・・空・・・・残念だったなwwww」

貴方がwwwwこれを使うなんて

空「・・・・・・・・店主！貴様どういっつもりだ！あんな新勢力聞いてないぞ！！」

店主「わっ私もビックリ「あんた！！」はい！」

女将「私の旦那はいつからこんな卑怯な商売はじめたんだい？」

・・・・・・・・女将が怒ってらっしゃる

店主「まつ待て！話せば「問答無用！」いやああああ・・・・・・・・」

店主はどこかにさらわれた

空「・・・・・・・・」

ガクッ

一刀が崩れ落ちた

一刀「俺・・・・・・・・悔しいよ・・・・・・・・悔しいよ」

一刀が泣いている！

空「・・・・・・・・あれ、なんだろう？目から汗が・・・・・・・・入ろう、温泉に入って忘れよう」

一刀「・・・・・・・・ああ、」

ただど30分もしたら温泉を出た・・・・・・・・だつて気になつて気になつて・・・・・・・・でも女将が居て覗けなくて・・・

空の部屋

ちなみに今回は旅館を貸し切りにしたから一人一部屋ある

空「・・・・・・・・女将なんて聞いてないよ・・・・・・・・なんだよあのババア」

窓から外を見ながらマジ泣きしそつだった

ガラガラ

空「一刀今は一人に「私だ、空」……………何故に愛紗？」

愛紗が部屋に来た

愛紗「いや……………今までこうやってのんびりした事があまりなくて、何をしていいのかわからないんだ」

空「別に何したっていいんだよ、これは愛紗達を休めさせるために企画した物だから」

本当はただ皆の裸が見たかったただけだけど

愛紗「そうか……………なら隣いいか？」

そう言うと俺の隣に座った

空「なつなにゆえに？」

愛紗「いやか？」

目を合わせずに窓から見える外の風景を見ながら尋ねてきた

空「いやじゃない、むしろ嬉しい」

俺も外を見た

愛紗「昔に比べたらかなり賑やかになったな」

空「……………そだね、でも楽しいから俺は嬉しいけど？」

愛紗「私もだ．．．．．すまないな、桃園の事．．．お前抜きでやって」

空「いいよ、居なかったけど愛紗は俺の事ちゃんと覚えてくれたから」

愛紗「そう言ってくれと助かる．．．．．再会した時に空、何か言ってただろ？あれの続きを聞かせてくれないか？」

空「．．．．．恥い、無理、あれはあの時のテンションだから言えた訳でさ？今改めて言うのは恥ずかしいって」

言ったあとに愛紗が俺の肩に頭を乗せてきた

愛紗「．．．．．頼む」

空「あゝ．．．．．愛紗」

愛紗「．．．ん？」

空「・・・・・・・・大好きだよ・・・・・・・・また離れても俺は愛紗を探す、
何回離れても俺はまた愛紗を探す・・・・・・・・大好きだから」

愛紗「・・・・・・・・うん」

俺は愛紗の手を握った

25話 企画（後書き）

自分らしくない事したからかな？背中が痒い

26話 ヒンヌー（前書き）

なんだか書くの辛くなってきた

26話 ヒンヌー

漢皇帝が死去して権力争いの中、都は董卓が制圧して劉備は反董卓連合に参加する事になった

桃香「なんだか緊張するね、ご主人様！」

一刀「うん！絶対してないよね！」

どうやら一刀と桃香は温泉に行ったあたりから凄く親しくなった気がする………もおゝはや種馬の実力を発揮してきたのかな？

PS いつか桃香と一刀の話は書くつもりですby作者

まあ俺も愛紗と………ごめんなさいあれから何もありません！少しは親しくなったかな？と思ったけど何もありません！旅館の夜も手を繋いで終わりだったしさ！！どこの純情中学生だ！俺は！！今どきの中学生はキスの一つや二つすぐやるぞ！？そして最後までいくぞ！？俺の友達がそうでした！！

空「………プレセア、俺を一言で表すと？」

プレ「根性なし」

空「………昇格したのか「昇格じゃありません降格です」……俺何した？」

プレ「………待ってたのに」

実は温泉の夜に空が来ると思って待つてたのに来なかったので不機嫌

空「え？何か言っ「何も！」……モモおゝ……」

モモ「……知らない！」

モモも同じく

空「……皆ひどい！」

雛里「あつ、皆さん！見えてきました」

一刀「おおお！！すっげー人！」

空「いや、もう少し何かあるだろ」

まあたしかにすっげー人だけでももう少し違う言い方があるだろ？

兵「長の行軍、お疲れ様でございました！ 貴殿のお名前と兵数をお聞かせ下さいますでしょうか！」

桃香「「平原の相、劉備です。兵を率いてただいま参陣しました」、連合軍の大将さんへ取り次ぎをお願いできますか？」

」

兵「それが、まだ決まっていななんだ？」

原作どおり、とりあえず皆が居る天幕に行く事にした

桃香「じゃあ誰が行く？」

一刀「とりあえず桃香は決まりで……朱里行ってくれる？」

朱里「はわわ、がつ頑張ります」

空「一刀も行けよ？一応お前も大将なんだから」

一刀「ならお前も来いよ？お前は俺の親友なんだから」

空「……俺の行く動機が不純じゃね？なんだよ、親友が行くから俺も行きますって」

この四人で行く事になった

天幕

麗羽「さて皆さん。何度も言いますが、我々連合軍が効率よく兵を動かすにあたり、たった一つ、足りないものがありますわ」

途中で公孫賛に会って一緒に天幕に入ったらこれだ

空「……一刀、あのクルクルの髪の中に何か入れたくない？」

一刀「……ああゝわかる」

朱里「ご主人様達も今の状況を何とかする方法を考えてくださいよ」

さすがにこのままだとヤバイって話しあって何とかしようって決まったけど

空「ごめん、俺馬鹿だからわかんない」

一刀「同じく」

朱里「・・・・はわわ・・・・」

すっごい落ち着いたはわわだね

空「ん・・・・あっ！」

一刀「どうした？」

空「フヒヒｗｗｗｗ・・耳を」

ゴニョゴニョ

一刀「・・・・うまくいくか？」

空「やってみようぜ？どうせ進まないならボケた方がいいじゃん・・・・皆さん！誰もならないなら俺が！」

皆「・・・・は？」「」「」

一刀「えゝじゃあ俺も！」

手を挙げる一刀

桃香「え？なっなら私も！」

華琳「なら私も」

白蓮「私も！」

美羽「わらわもじゃ！」

麗羽「美羽さんまで！？なら私も！」

皆「」「」「どうぞ、どうぞ」「」「」

フヒヒwwwダチヨウ倶楽部

麗羽「へ？わっわかりましたわ、なら私が大将を」

ワァゝ・・・・・・・・馬鹿だ

空「じゃあゝ一刀、多分今から軍治関係になると思っからどっか行ってくる」

一刀「おいっ！待てよ・・・・・・・・ってホントに行った」

だって面倒臭いんだもん・・・・・・・・ダチヨウ倶楽部できたから文句なし！

はい、原作のように最前線で戦う事になりましたwwwそして我々が一刀がクルクルの人からいろいろ貰ってきたらしい

そして勝てるらしいですwww

空「よし！雛リン！作戦の説明を」

雛里「はっはい」

雛里「・・・か・華雄しゃ・・・華雄さんが・・・とっしゅにゆう・・・わたわたわたわたしたちか・・・」

何故だ！？最近は何もないで来れたのに！？・・・はっ！そうか！今この軍にはクルクルの人の兵がいて恥ずかしいだな！！

空「頑張つて雛リン！君なら出来るよ！！雛リン！雛リン！、一刀も！皆も！」

一刀「あっああ！雛リン！雛リン！雛リン！雛リン！」

皆「」「雛リン！雛リン！雛リン！雛リン！雛リン！」「」

華琳「・・・あれは何をしてるの？」

秋蘭「・・・さあ？」

劉備軍の様子を見に来た曹操達でした

雛里「（皆さんが応援してくれて・・・頑張らないと！）・・・かつ華雄さんが突入して来た時に一旦受け止めて・・・押し返し

ます！」

空「言えたね！？雛リン！頑張ったよ！雛リン！皆！雛リンを胴上げだ！」

わっしょい！わっしょい！わっしょい！わっしょい！

華琳「……帰るわよ」

秋蘭「……御意」

華琳は劉備軍のテンションに負けて帰って行った

愛紗「よし、なら私が華雄をおびき出そ「ちょっと待てよ！（キムタク風）」なんだ？空」

空「その役は俺がやる……任せとけ」

愛紗「……わかった……だが不安だから私も行く」

空「信用ないね？俺」

董卓軍

霞「ええか？華雄？相手が何言ってきたても出て行ったらあかんで？」

華雄「わかっている……おっ誰か来たぞ」

二人の男女が来た

空「………す…華雄のヒンヌー……………」
「……あゝすつきりした」

霞「………なんやの？あいつこんなんで華雄が行くともって待てや！華雄！どこ行くつもりや！」

華雄「離せ！！あいつは言ってはならん事を！」

空「やっぱりあれですか！？胸がヒンヌーだと心も小さくなるんですか！？俺の隣の子を見てみなさい！………おっきいよ！！貴方と違って！後そこに居る張遼さんもおっきいよね！？ヒンヌーの敵だよ！？」

霞「華雄話を聞くな、ってなんやの？その目？」

華雄「………張遼馬鹿あ！！」

華雄は飛び出して行きました

Side曹操

華琳「（………これが終わったら殺す）」

空、命を狙われる

26話 ヒンヌー（後書き）

台詞の前に名前書くのやめたほうがいいですか？

お知らせ

どうも皆様、愛紗loveです。

実はなぜかユーザーページにアクセスできないという事がおき！

つくねという名を使って幼なじみは関羽さん2として書きを書いていました！！

しかし今回なぜかアクセスできるようになり。

このような事を書いています。幼なじみは関羽さんを見てくださっている

人達には大変申し訳ございませんでした！！

できれば愛紗loveあらためつくねをよろしくおねがいします！！

最後に、ほんとにごめんなさい！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2682m/>

幼なじみが関羽さん

2010年10月12日10時03分発行